嶺南地域公共交通計画

福井県嶺南地域公共交通活性化協議会

福井県・敦賀市・小浜市・美浜町・高浜町・おおい町・若狭町

令和7年(2025年)3月

目　　次

はじめに …… 1

1．計画の目的 …… 1

2．計画の位置づけ …… 2

3．計画の区域 …… 2

4．計画の期間 …… 2

Ⅰ　嶺南地域を取り巻く現況 …… 3

1．位置･地勢･気候 …… 3

2．人口…… 3

3．外出等の状況…… 4

4．自動車･運転免許の保有状況 …… 4

5．観光の状況 …… 5

Ⅱ　嶺南地域の公共交通の現況 …… 6

1．嶺南地域の公共交通ネットワークの概要 …… 6

2．公共交通の利用状況等 …… 7

3．公共交通に関する利用意識等 ……16

4．北陸新幹線敦賀開業の効果……17

5．地域公共交通に関する取組み状況……23

Ⅲ　嶺南地域の公共交通の今後に向けた課題 …… 24

Ⅳ　目指す姿と今後の取組み …… 26

1．嶺南地域の公共交通が目指す姿（基本目標） ……26

2．目標達成のための具体的な事業……27

3．事業の実施に当たって ……38

Ⅴ　計画の達成状況の評価…… 39

参考資料

はじめに

1．計画の目的

嶺南地域の公共交通は、地域の基軸となる東西に伸びるJR小浜線、路線バスや市町内を運行するコミュニティバス、乗合タクシー等があり、自動車を運転できない高齢者や中高生等の移動手段として欠かせないものであるほか、まちづくりの様々な分野において重要な役割を担っており、その重要性は、今後もますます高まっていくものと考えられます。また、国が推進するSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けても、公共交通は欠かすことのできない資源となります。

しかし、近年の人口減少や自家用車志向の高まり、新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通の利用者は大きく減少し、いまだに利用状況は回復していません。また、全国的に運転士不足が深刻化している状況から、公共交通事業者の経営は極めて厳しい状況にあります。

一方、令和6年3月に北陸新幹線敦賀開業を迎え、嶺南地域にとって、新幹線効果を地域全体へ波及させることが大きなテーマの一つとなっています。

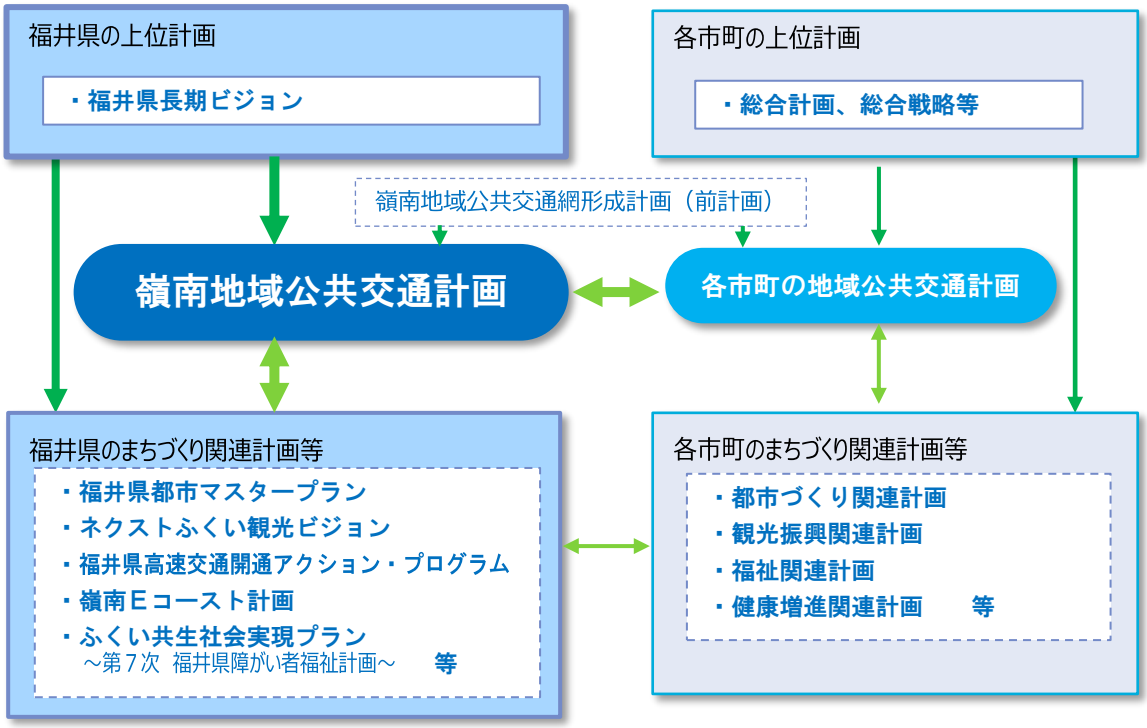
嶺南地域では、令和2年に「嶺南地域公共交通網形成計画」を策定し、地域住民の移動手段の確保や、観光振興に貢献する公共交通サービスの整備に取り組んできました。また、新幹線開業に当たっては、バスのキャッシュレス化や敦賀駅の周辺整備、観光スポットを周遊する広域バスの整備を進めてきました。

計画の策定当時と比べ、公共交通を取り巻く環境がさらに厳しくなる中で、地域の移動手段として将来にわたり持続可能なものとするとともに、新幹線開業という新たな時代にふさわしい公共交通を目指した取組みを継続・充実していくことが重要となります。

以上を踏まえ、地域住民や公共交通事業者、行政等が連携しながら取り組んでいけるよう、嶺南地域全体の公共交通が今後目指す姿や取組みの方向性を示す計画として「嶺南地域公共交通網形成計画」を見直し、「嶺南地域公共交通計画」を策定します。

2．計画の位置づけ

「嶺南地域公共交通計画」は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく法定計画であり、県の上位計画の考え方や「嶺南地域公共交通網形成計画」を踏まえるとともに、まちづくりの関連計画や、市町における地域公共交通計画等との連携を図りながら、嶺南地域全体としての公共交通の今後の目標や取組みの方向性を示す計画です。



3．計画の区域

本計画は、福井県嶺南地域（敦賀市・小浜市・美浜町・高浜町・おおい町・若狭町）の全域を対象とします。

4．計画の期間

計画の期間は、令和 7 年度から令和 10 年度までの 4 年間とします。

Ⅰ　嶺南地域を取り巻く現況

1．位置・地勢・気候

●本県は、敦賀市と南越前町を境に、南西部を嶺南地域、北東部を嶺北地域に大別しています。嶺南地域は、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町の6市町からなり、日本海に面し西側は京都府、南側は滋賀県に接しています。面積は約 1,100km^2 で、平地は狭小です。
●夏は暑く、冬は寒く降雪もあり、寒暖差が大きい気候となっています。近年は大雪、大雨、地震などの災害が発生し、鉄道やバスの運休や迂回運行が生じています。

（付属資料 P1-3 参照）

2．人口

（1）人口・年齢構成の推移

●嶺南地域全体の人口は、平成2年の約15万6千人をピークに減少しており、令和2年時点で約13万5千人（令和2年国勢調査より）となっています。
●市町ごとの令和2年の人口は、敦賀市が約6万4千人、小浜市が約2万9千人となっています。その他の町は、いずれも1万5千人以下です。
●いずれの市町でも人口減少とともに、少子・高齢化が進んでおり、令和2年の地域全体の高齢化率（65歳以上）は30％を超えており、高齢化が顕著な人口構造となっています。
●今後も人口減少と少子・高齢化が進み、令和27年には高齢化率が40％を超える見通しです。このため、高齢者を中心とした住民の移動手段の確保がますます重要となります。

（付属資料 P4-5 参照）

（2）人口分布

●嶺南地域の人口は、敦賀市、小浜市等を中心に、各市町の平地部の市街地に集まっていますが、それ以外の山間部や半島部等にも低密度で点在しています。
●今後、地域全体で人口が減少していく傾向にあり、特に山間部の人口が大きく減少していく見通しです。この結果、将来においても、人口の少ない箇所が地域全体に広がっていく見通しです。

（付属資料 P6 参照）

Point　Ⅰ-①　全ての市町で人口減少、少子・高齢化が進行

Point　Ⅰ-②　居住地は市街地に集中する一方、山間部や半島部等にも点在

３．外出等の状況

（１）主な施設の立地状況

●各市町の中心部に、市民・町民が日常的に利用する店舗、病院が立地しています。
●大規模な店舗、学校、病院は、敦賀市、小浜市に多く、また美浜町と若狭町の町境にも高校、病院が立地しています。これらの施設は、立地市町以外の市町の住民も利用しています。

（付属資料 P7-8 参照）

（２）外出先

●通勤・通学の動きは、各市町内へ通う人が大半です。市町間をまたぐ通勤・通学では、敦賀市と小浜市へ向かう動きが中心となっています。敦賀市から美浜町や、高浜町から舞鶴市への動きも多い傾向があります。
●普段の買い物、通院等についても同様に、各市町内の店舗、医療施設を利用する人が中心ですが、敦賀市、小浜市へ日常的に出かける人もいます。

（付属資料 P9、33 参照）

（３）交通手段

●通勤・通学における交通手段は、自家用車が多い状況です。他市町へ通う場合には、鉄道の利用がやや多くなっていますが、バスの利用は少ない状況です。
●普段の買い物、通院等についても、高齢者を含め、自家用車等（自分で運転または送迎・同乗）での移動が中心となっています。

（付属資料 P10、34 参照）

４．自動車・運転免許の保有状況

（１）自動車の保有状況

●地域全体の自動車保有台数は、人口が減少している近年でも横ばい傾向にあります。
●本県における1人当たりや世帯当たりの自動車保有台数は全国と比べて多い状況です。嶺南地域における保有台数は、18歳以上の1人当たりでは1台を上回り、1世帯当たりでは2台を超えています。

（付属資料 P11-12 参照）

（２）運転免許の保有状況

●地域全体で、16歳以上の8割以上が運転免許を保有しています。
●65歳以上の6割以上、75歳以上でも4割以上が運転免許を保有しています。
●運転免許自主返納者数は令和元年をピークに減少傾向にあります。
●死亡事故件数は減少傾向にある中で、高齢運転者が占める割合は大きくなる傾向にあります。

（付属資料 P13-14 参照）

Point Ⅰ-③ **高齢者も含め、移動手段は自家用車中心**

５．観光の状況

●嶺南地域には観光資源が豊富にあり、各市町にそれぞれ特色ある観光スポットがあります。一方、観光スポットの多くは駅から徒歩ではアクセスできない位置に立地しています。
●観光客入込数は令和元年まで増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込みました。その後は徐々に回復し、令和５年時点では概ねコロナ前の水準まで回復しました。

（P19-20、付属資料 P15-16 参照）

Point Ⅰ-④ **観光資源が豊富。ただし、多くが駅から離れて立地**

Point Ⅰ-⑤ **観光客の交通手段も、レンタカーなど車が中心**

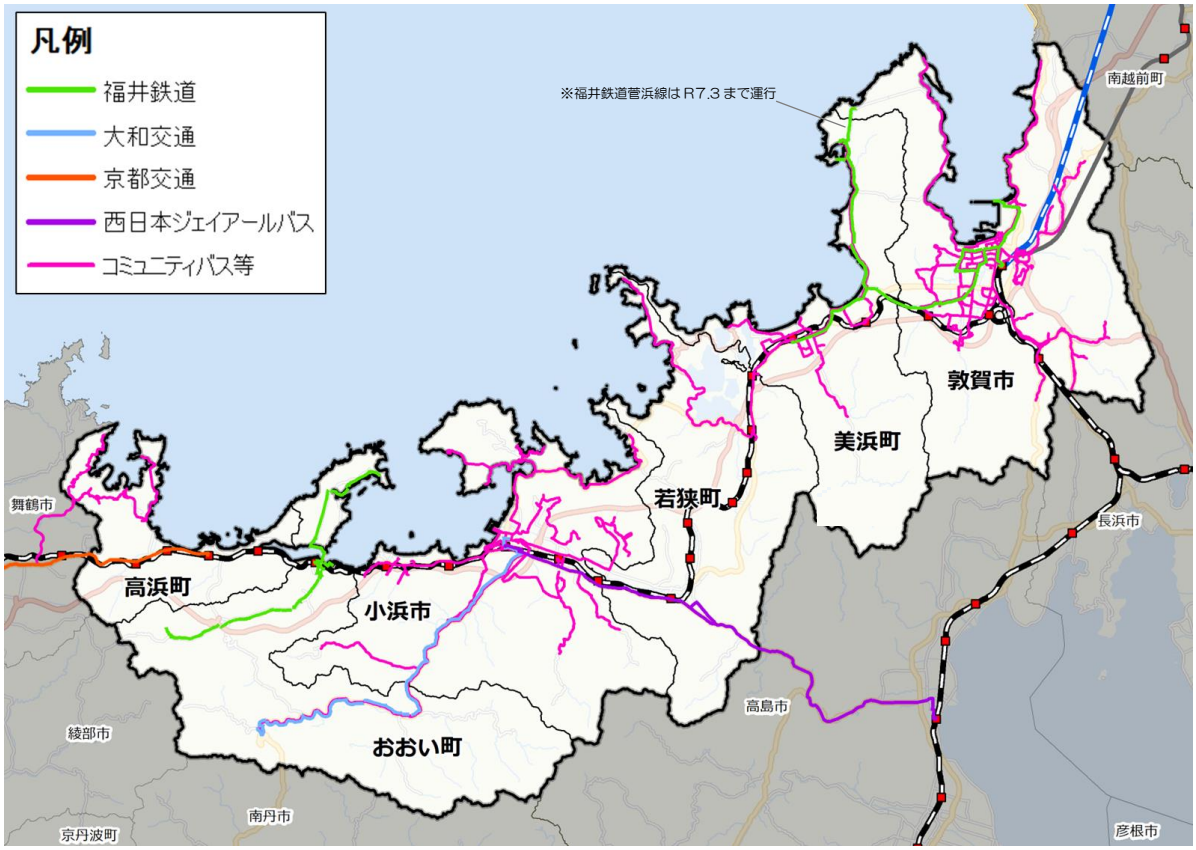
Ⅱ　嶺南地域の公共交通の現況

1．嶺南地域の公共交通ネットワークの概要

- 嶺南地域の公共交通ネットワークは、地域の基幹となる鉄道、路線バスや市町内を運行するコミュニティバス・乗合タクシー等(以下、「コミュニティバス等」)で構成されています。
- 鉄道は、JR小浜線が6市町を東西に結ぶとともに、嶺南地域と地域外を結ぶ北陸新幹線、JR北陸本線、ハピラインふくい線が広域的な移動を支えています。北陸新幹線の敦賀開業により、東京～敦賀間が乗換えなしの最速3時間8分で行き来できるようになりました。
- 路線バスは、敦賀市～美浜町間とおおい町内を福井鉄道が、小浜市～おおい町間を大和交通が、高浜町～舞鶴市間を京都交通が、小浜市～若狭町～高島市間を西日本ジェイアールバスが運行しており、市町内や市町を超えた移動を支えています。
- コミュニティバス等は、定時定路線のバスや乗合タクシー等があり、各市町の状況に応じて運行されています。その他、タクシーや公共ライドシェアの運行のほか、近年、地域内の駅や観光スポットを巡るゴコイチバス等の周遊バスも運行しています。
- 路線バスやコミュニティバス等の大半は、JR 小浜線の主要駅から発着しています。

（付属資料 P18-30 参照）

嶺南地域の公共交通ネットワーク



出典：国土数値情報および福井県バス情報データ（GTFS-JP データ）を基に作成

2．公共交通の利用状況等

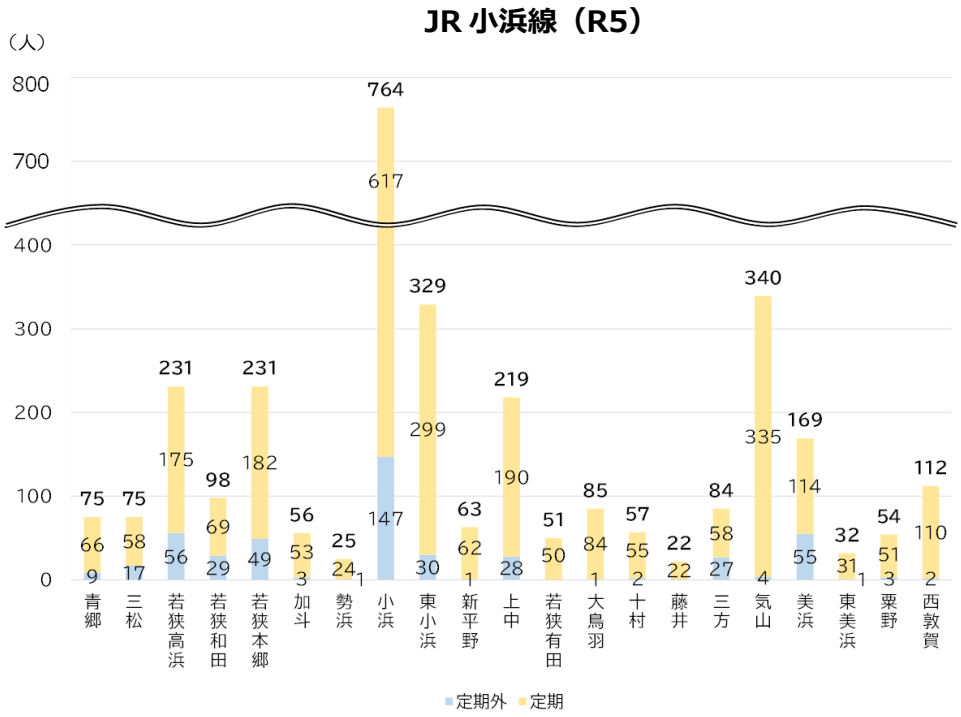
（1）鉄道

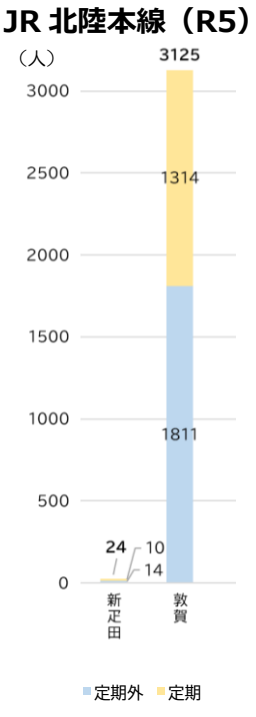
1）鉄道の利用状況

- 駅別の利用者数は、敦賀駅、小浜駅、気山駅、東小浜駅の順に多くなっています。
- 券種別では、敦賀駅（北陸本線を含む）で定期外の利用が多くなっていますが、それ以外の小浜線各駅では、通学等の利用を中心に定期利用の割合が高くなっています。
- 利用者数の推移をみると、小浜線は以前からの減少傾向に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に落ち込み、それ以降はやや回復傾向となっています。北陸本線の敦賀駅・新疋田駅では利用者は横ばい傾向から令和２年度に落ち込み、その後は回復傾向にあります。

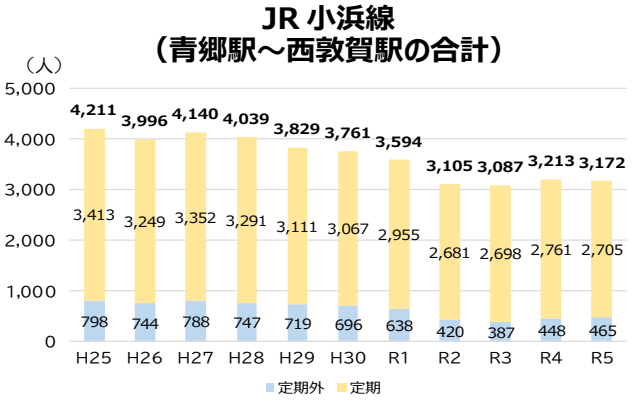
（付属資料 P32 参照）

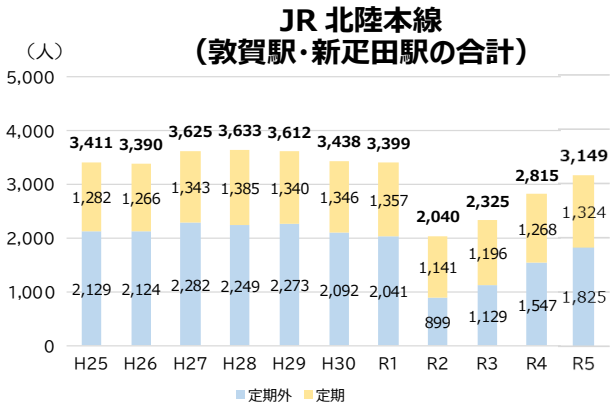
【駅別の１日当たり乗車人員】





【路線別の１日当たり乗車人員の推移】





出典：福井県統計年鑑、JR 西日本資料
※一部駅については JR データを基に福井県独自算出

２）鉄道会社の社員数と定年再雇用者等の割合の推移

●JR西日本では、社員数は減少傾向にあるとともに、定年再雇用者や66歳以上再雇用者の割合が増加傾向にあります。

（付属資料 P21 参照）

３）鉄道に対する改善要望

●地域住民からは、日中の便や最終便の時刻、鉄道・バス等の乗り継ぎなど、小浜線等の利便性向上を望む声があります。

（付属資料 P35 参照）

Point **Ⅱ-① 小浜線の利用客は、定期利用（主に中高生）が大半**

Point **Ⅱ-② 小浜線の利用客数は減少が続き、新型コロナウィルス感染症の影響によりさらに減少**

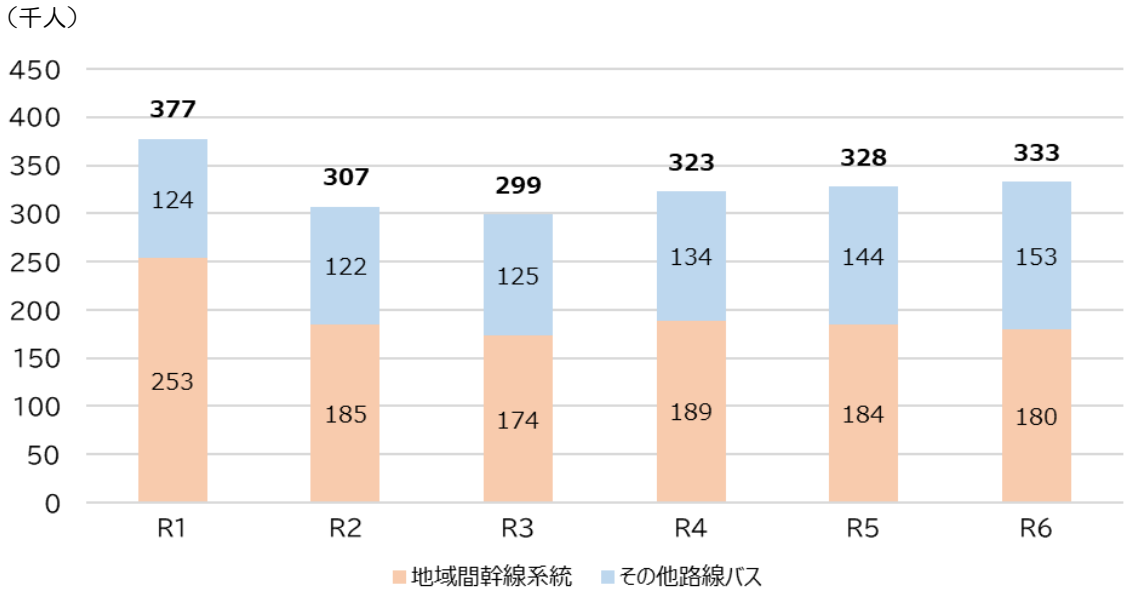
Point **Ⅱ-③ 地域住民は小浜線の利便性向上を希望**

（２）バス等

１）路線バス全体の利用状況

●路線バスの利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少しました。令和2年度以降は若干の回復傾向にあるものの、もとの水準には戻っておらず、令和6年度の利用者数は令和元年度に比べて1割以上少ない状況となっています。

嶺南地域の路線バスの輸送人員の推移



出典：各社資料

※地域間幹線系統：若狭線、菅浜線、名田庄線、高浜線、若江線
※その他路線バス：大島線、本郷線

本数字はバス事業年度（前年 10 月から９月）

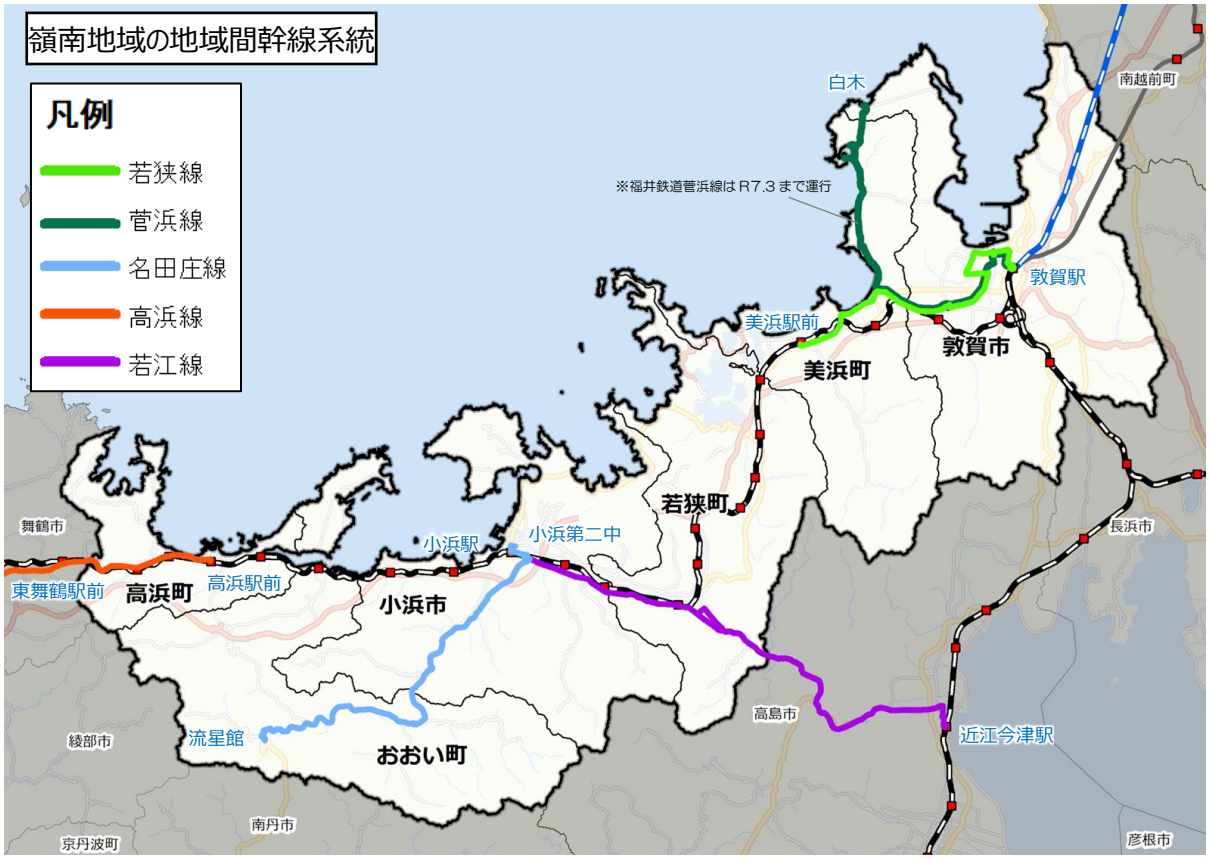
2）地域間幹線系統の状況

●嶺南地域を運行する地域間幹線系統※は5路線あり、広域的な移動を担っています。

※地域間幹線系統：複数の市町村にまたがって走る広域的な路線バスで、1 日当たりの計画運行回数が 3 回以上、輸送量が 15 人～150 人／日、経常赤字が見込まれる系統のことです。

系統	事業者	系統名	運行区間			関係市町
			起点	経由	終点	
地域間幹線系統	福井鉄道	**若狭線**	敦賀駅	美浜農協前	美浜駅前	敦賀市、美浜町
		菅浜線※	敦賀駅	北田口・関電事務所	白木	敦賀市、美浜町
	大和交通	**名田庄線**	流星館	井上・谷口	小浜第二中	小浜市、おおい町
	京都交通	**高浜線**	東舞鶴駅前	松尾寺駅前	高浜駅前	高浜町、舞鶴市
	西日本ジェイアールバス	**若江線**	近江今津駅	仮屋	小浜駅	小浜市、若狭町、高島市

※菅浜線は令和７年４月から若狭線に統合（代替路線を設定）



（各系統の実績輸送量・経常収支率）

●1 日当たりの実輸送量は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により各路線で減少し、令和6年度時点では若狭線、菅浜線が国庫補助対象事業の基準（実績輸送量15人以上）を満たさなくなっています。

●経常収支率は、高浜線を除く4路線で令和2年度以降に大きく低下し、若狭線、菅浜線、名田庄線は30%を下回っている状況です。

●こうした状況の中で、地域における移動手段の持続可能性を高めるため、菅浜線については、令和7年4月から若狭線に統合するとともに、敦賀市・美浜町のそれぞれで代替路線を設定するなど、地域と話し合いながら、運行方法の見直しを進めています。

系統	事業者	路線名	実輸送量（人）						経常収支率（%）					
			R1	R2	R3	R4	R5	R6	R1	R2	R3	R4	R5	R6
地域間幹線系統	福井鉄道	**若狭線**	16.9	12.7	10.0	11.1	10.0	10.6	41%	33%	26%	27%	24%	25%
		菅浜線	15.5	11.2	8.0	4.5	6.3	7.0	41%	29%	22%	14%	17%	17%
	大和交通	**名田庄線**	24.0	18.0	20.0	19.0	20.0	18.0	37%	27%	29%	28%	28%	24%
	京都交通	**高浜線**	15.1	12.8	15.1	15.1	15.1	15.1	49%	40%	53%	48%	47%	44%
	西日本ジェイアールバス	**若江線**	61.1	38.7	29.9	39.9	54.1	44.5	52%	37%	32%	35%	36%	32%

※青色は 15 人未満　　※青色は３０%未満

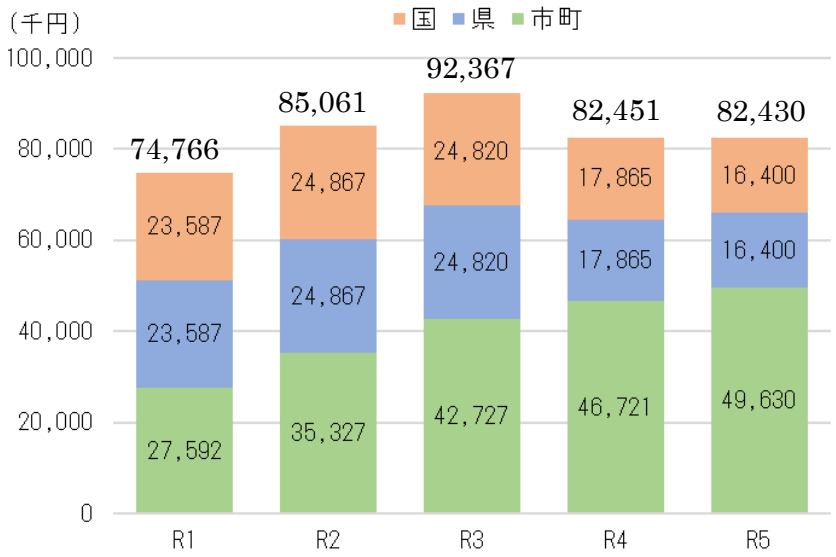
出典：各社資料

本数字はバス事業年度（前年 10 月から９月）

（地域間幹線系統の行政負担額の推移）

●地域間幹線系統は、国、県、市町が補助金を交付して路線の維持を図っています。全体の行政負担額は令和3年度まで増加傾向にありましたが、令和4年度以降は減少しています。

嶺南地域の地域間幹線系統の行政負担額の推移



出典：福井県資料

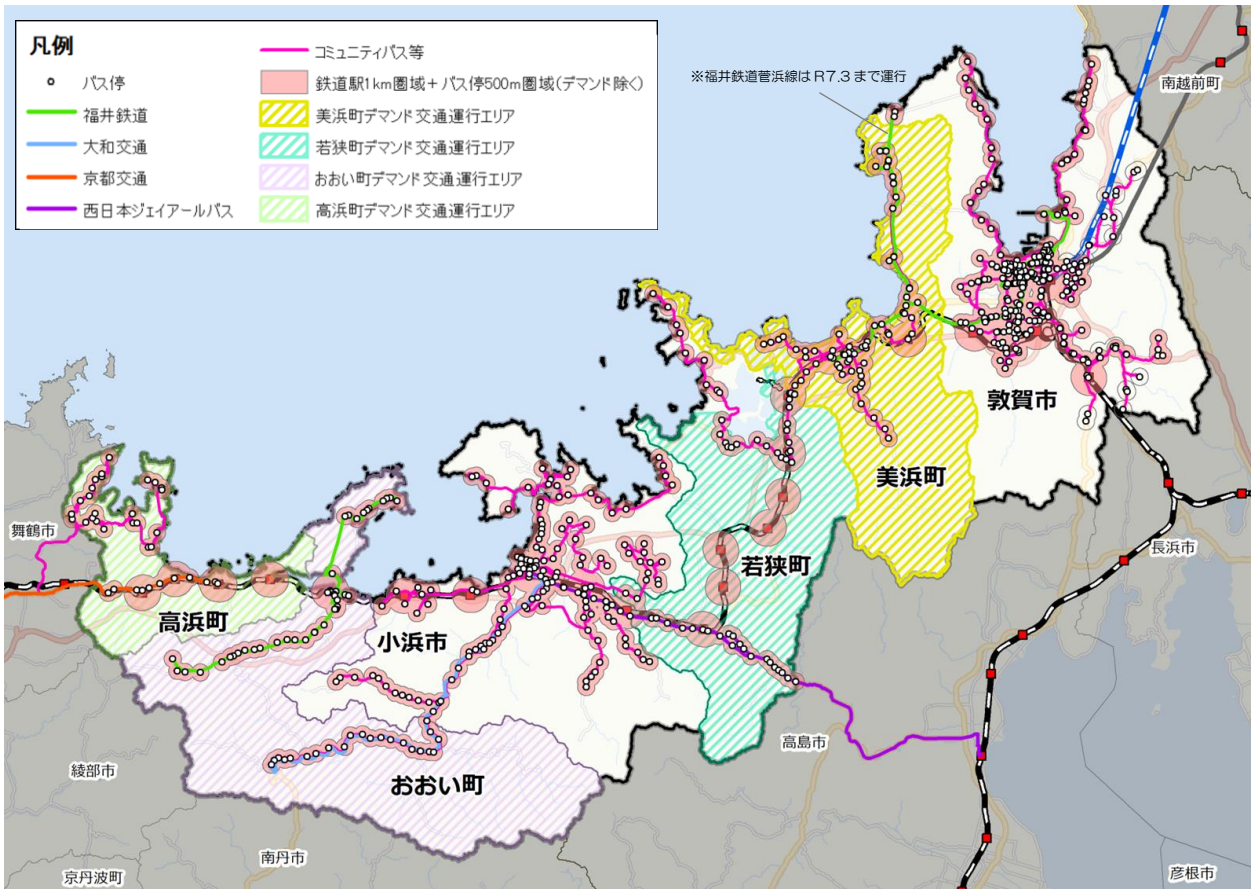
本数字はバス事業年度（前年 10 月から９月）

3）コミュニティバス等の状況

●嶺南地域では、市町が主体となって運営するコミュニティバス等（定時定路線型、デマンド交通等）が運行されています。
●近年、デマンド交通の区域運行が開始されるなど、ほぼ全域が公共交通の利用圏域としてカバーされています。

（付属資料 P22-23 参照）

嶺南地域の公共交通（鉄道、路線バス、コミュニティバス等）と利用圏域



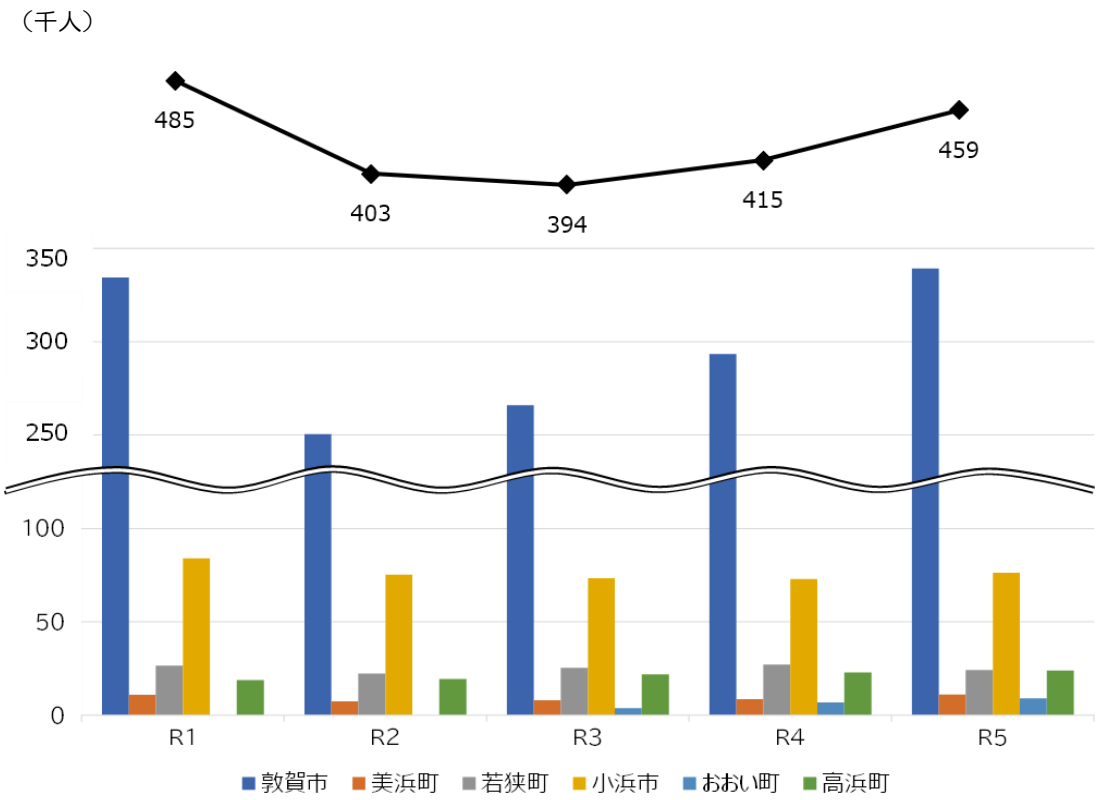
出典：国土数値情報、福井県バス情報データを基に作成

（コミュニティバス等の利用状況）

●地域全体のコミュニティバス等の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少しましたが、令和2年度以降は回復傾向にあります。
●市町別では、敦賀市の利用者数が全体の約2／3を占めています。
●近年では、デマンド運行の事例が増加しており、利用者数の増加に寄与しています。

（付属資料 P28 参照）

嶺南地域のコミュニティバス等の輸送人員の推移



（千人）

	R1	R2	R3	R4	R5
敦賀市	340	278	261	278	319
美浜町	12	8	8	8	9
若狭町	29	23	25	26	26
小浜市	85	75	78	74	74
おおい町	－	－	1	6	8
高浜町	19	19	21	23	23
合計	485	403	394	415	459

出典：各市町資料
本数字はバス事業年度（前年 10 月から９月）

４）バス運転士等の採用者数と離職者数の推移等

- 自動車運転の職業の有効求人倍率は、職業全体の平均を超えています。ここ数年は3倍を超えており、運転士の採用は、極めて厳しい状況が続いています。
- バス事業者は、運転士について定員を充足できておらず、また乗合バスの運転士の平均年齢は約 60 歳と高くなっています。

（付属資料 P29 参照）

Point Ⅱ-④ バスの利用客数は新型コロナウィルス感染症の影響によりさらに減少

Point Ⅱ-⑤ バス事業者の深刻な運転士不足が継続

（３）タクシー

●嶺南地域にはタクシー会社が9社あり、各市町の主要駅前等に乗降場や営業所があります。
●福井県のタクシー輸送人員は減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和２年度は大きく減少しました。
●タクシー会社の車両数・運転者数は減少傾向にあり、令和2年度以降は運転者数が車両数を下回る状況となっています。

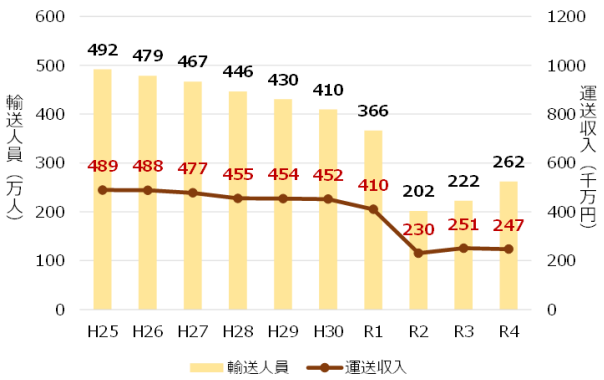
嶺南地域のタクシー交通圏

嶺南地域のタクシー会社数・車両数

地域	市町（本社所在地）	会社数	車両数
敦賀交通圏	敦賀市	3	100
	美浜町	2	20
	若狭町(旧三方町域)	0	0
小浜・高浜・大飯地区	若狭町(旧上中町域)	0	2
	小浜市	2	35
	おおい町	1	19
	高浜町	1	11
合計		9	187

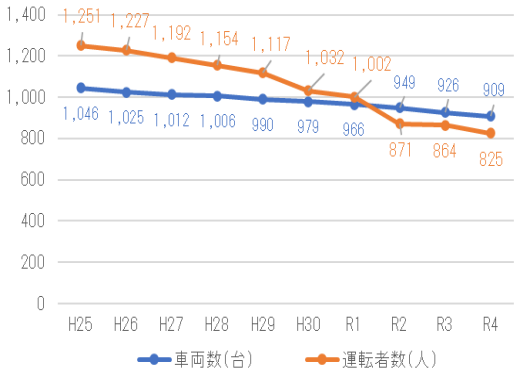
出典：福井県資料
（令和６年 12 月時点）

輸送人員と運送収入（福井県）



出典：福井県統計年鑑、数字でみる中部の運輸

車両数と運転者数（福井県）



出典：福井県統計年鑑、数字でみる中部の運輸

Point Ⅱ-⑥ タクシーの利用客数は減少傾向で、新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに減少

Point Ⅱ-⑦ タクシー運転手の不足が深刻

3．公共交通に関する利用意識等

●嶺南地域では、自家用車等（運転、送迎・同乗）による移動が定着しており、地域住民の多くは公共交通を利用していません。
●一方、将来の移動手段については、自家用車等を運転できなくなることや、公共交通が減便・廃止になることに対して不安を抱く地域住民が少なくありません。

（付属資料 P34 参照）

嶺南地域居住者へのアンケート

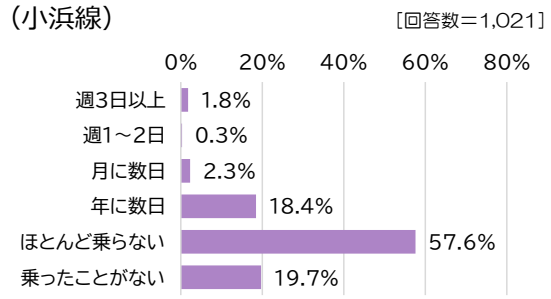
・対象：嶺南地域の各市町の居住者 2000 人（回答者 1086 人）

＊16 歳以上を無作為抽出、1 通につき 2 票のアンケート票を同封

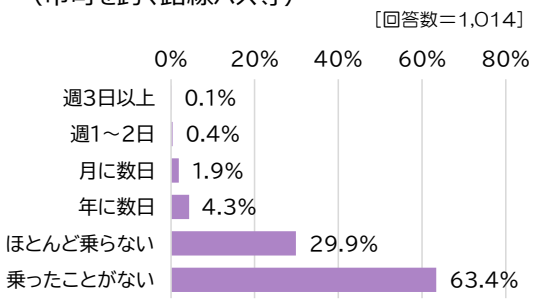
・令和 6 年 9 月～10 月（郵送配布・郵送回収）

（嶺南地域の公共交通の利用頻度）

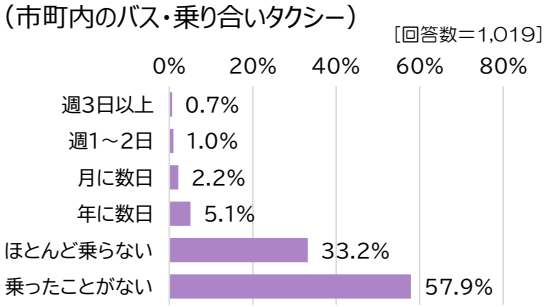
（小浜線）



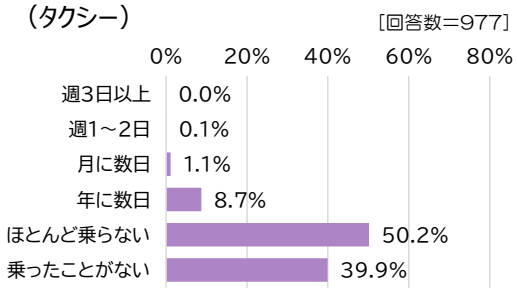
（市町を跨ぐ路線バス等）



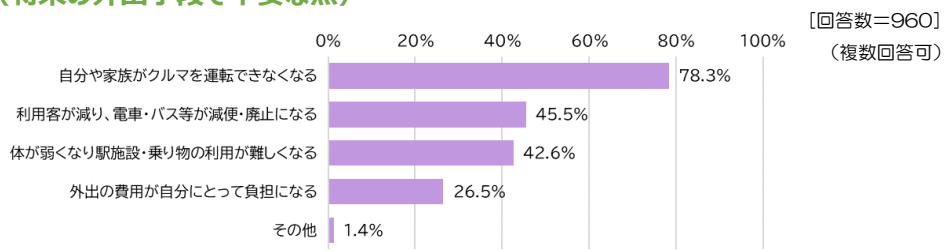
（市町内のバス・乗り合いタクシー）



（タクシー）



（将来の外出手段で不安な点）



Point Ⅱ-⑧ 自家用車等による移動が定着し、多くの住民は公共交通を利用していない

Point Ⅱ-⑨ 将来の移動手段に対して不安を感じる住民は少なくない

４．北陸新幹線敦賀開業の効果

１）北陸新幹線敦賀開業の概要

●令和6年(2024年)3月に、北陸新幹線の敦賀開業(金沢駅～敦賀駅)を迎え、福井県と首都圏や北信越の主要都市間の所要時間が短縮され、東京～敦賀間は乗り換えることなく最速3時間8分で行き来できるようになりました。
●小浜線では早朝・深夜のダイヤを見直し、東京方面への北陸新幹線と接続を図ったほか、土休日には東京発の一番列車に接続するダイヤを設定するなど、沿線住民や観光客の利便性向上を図っています。
●未着工である敦賀駅～新大阪駅間は現在、環境アセスメントが進められており、全線開業に向けた調査・検討が行われています。

２）北陸新幹線敦賀開業の効果

（北陸新幹線の利用状況）

●開業直後１か月は、北陸新幹線の金沢駅～福井駅間の利用者が前年より 26％増加しました。その後も引き続き、利用者数は前年を上回って推移しています。

＜各駅の新幹線乗車実績（開業直後の R6.3.16（土）～3.17（日）の１日当たり）＞

	小松駅	加賀温泉駅	芦原温泉駅	福井駅	越前たけふ駅	敦賀駅
人数	1,400 人	700 人	600 人	4,400 人	600 人	9,000 人

※各駅とも在来線との乗り継ぎを含む

出典：JR 西日本プレスリリース

＜開通区間の１か月の利用実績（R6.3.16（土）～4.15（月）の合計）＞

方面	利用者数	前年同曜比【令和元年同曜比】
金沢⇒福井	36.8 万人	126%【114%】
福井⇒金沢	35.5 万人	126%【110%】
合計	72.3 万人	126%【112%】

※前年は在来線特急「サンダーバード、しらさぎ、ダイナスター、おはようエクスプレス、おやすみエクスプレス」の同区間の利用実績

出典：JR 西日本プレスリリース

＜ゴールデンウィークの利用実績（R6.4.26（金）～5.6（月）の合計）＞

区間	利用者数	前年同曜比
上越妙高～糸魚川	35.6 万人	114%

※福井県区間は非公表　　出典：JR 西日本プレスリリース

＜お盆期間の利用実績（R6.8.9（金）～8.18（日）の合計）＞

区間	利用者数	前年同日比
上越妙高～糸魚川	39.7 万人	126%

※福井県区間は非公表　　出典：JR 西日本プレスリリース

＜年末年始期間の利用実績（R6.12.27（金）～R7.1.5（日）の合計）＞

区間	利用者数	前年同日比
上越妙高～糸魚川	39.5万人	140%

※福井県区間は非公表　　出典：JR 西日本プレスリリース

（嶺南地域の観光客の状況（観光客入込数））

- 嶺南地域の各観光施設の来訪客数について、新幹線開業前（令和5年3～11月）と開業後（令和6年3～11月）を比較すると、敦賀開業直後の4月に特に増加しています。
- 敦賀市内の観光施設では開業後、大きな伸びで推移しています。その他の市町の観光施設では、伸びが小さくなっています。

観光施設の来訪客数

（人）

施設名		令和６年									
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	3-11月計
敦賀赤レンガ倉庫		12,000	12,000	14,300	11,400	12,100	16,500	12,200	11,400	13,100	115,000
	前年度同期比	112%	185%	135%	158%	130%	145%	144%	133%	124%	138%
レインボーライン山頂公園		14,314	23,326	35,047	27,883	22,738	39,354	31,826	33,456	34,321	262,265
	前年度同期比	80%	143%	98%	104%	71%	123%	116%	124%	124%	108%
熊川宿		39,211	52,472	64,317	47,230	43,008	67,481	63,737	67,422	71,015	515,893
	前年度同期比	93%	109%	92%	101%	84%	120%	121%	113%	111%	105%
道の駅若狭おばま		27,142	40,574	49,702	25,329	28,950	44,237	30,230	28,711	35,143	310,018
	前年度同期比	158%	110%	112%	87%	92%	97%	90%	81%	112%	96%
道の駅うみんぴあ大飯		21,222	26,248	31,207	23,776	26,866	41,141	25,630	24,742	24,133	244,965
	前年度同期比	96%	107%	95%	107%	88%	120%	97%	93%	98%	100%
UMIKARA		19,447	19,743	22,442	18,324	23,009	30,871	22,130	19,805	18,552	194,323
	前年度同期比	101%	103%	98%	107%	99%	106%	103%	98%	72%	100%

※網掛け：２０%以上増加

出典：福井県資料

（嶺南地域の観光客の状況（福井県観光データ分析システム(FTAS)））

- 観光客に対するアンケートによると、近畿地方や北陸地方からの観光客が多い傾向は開業前後で変わりませんが、開業後は特に関東・甲信地方からの来訪者が増加しています。
- 県外からの観光客の6割以上は自家用車で来訪しており、県内での移動も自家用車が7割以上と多くなっています。この傾向は開業前後で大きく変わりません。
- 開業後に増加した関東・甲信地方からの観光客は、新幹線で福井県に来訪し、県内ではレンタカーを利用して周遊している観光客が多いと考えられます。

※福井県観光データ分析システム（FTAS）は、データを活用して福井県観光の実態を多角的に「見える化」するため、福井県観光連盟が提供するツール

【FTAS より以下のデータを抽出して分析】

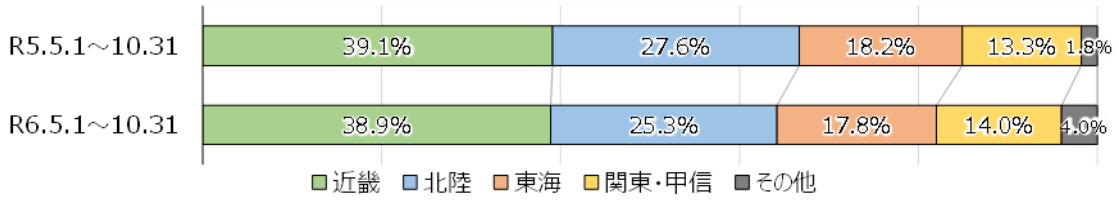
・対象：福井県内の観光エリア（令和6年度は約90か所）に設置されたポスター・チラシ等の二次元バーコードから読み取ってアンケートに回答した方で、分析対象は嶺南地域の6市町に来訪した方に限定

・期間：通年で実施、分析期間は新幹線開業前（令和5年5～10月）と開業後（令和6年5～10月）

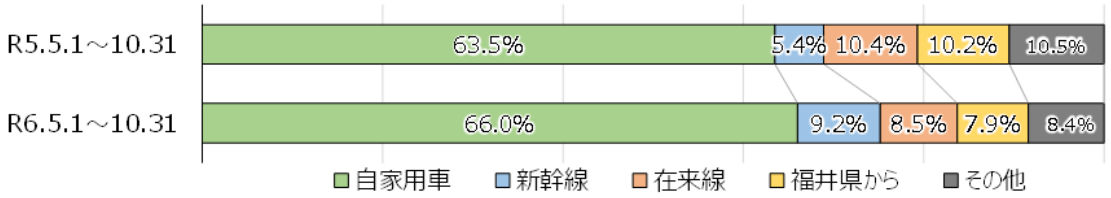
・回答者数：令和5年5～10月は 2,557 人、令和6年5～10月は 2,592 人

（嶺南地域に来訪した観光客（全体））

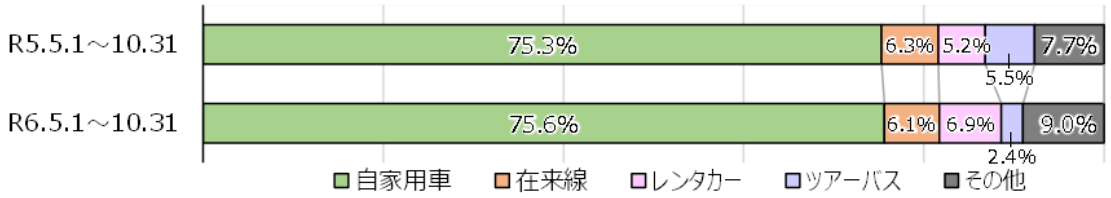
観光客アンケート回答者の発地の割合



観光客アンケート回答者の福井県までの交通手段の割合



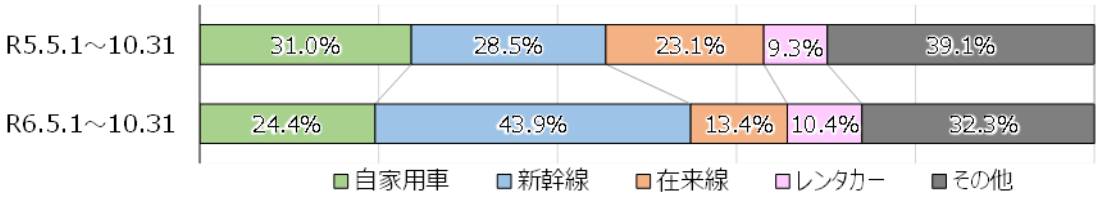
観光客アンケート回答者の福井県内の交通手段の割合



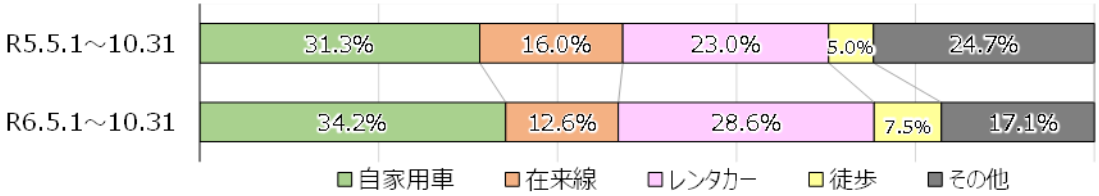
出典：福井県観光データ分析システム（FTAS）

（関東・甲信地方から嶺南地域に来訪した観光客）

観光客アンケート回答者の福井県までの交通手段の割合



観光客アンケート回答者の福井県内の交通手段の割合



出典：福井県観光データ分析システム（FTAS）

（新幹線敦賀駅を利用する嶺南地域の観光客の状況（アンケート））

- 新幹線敦賀駅を利用する観光客へのアンケートによると、関東からの観光客が特に多くなっています。また、初めて嶺南地域を訪れる人が半数以上を占めており、新幹線開業が嶺南地域の新たな観光客の獲得に寄与していると考えられます。
- 新幹線降車後に乗り継いだ交通手段のない観光客が多く、敦賀駅近傍の観光地を訪れる観光客が多い様子が伺えます。小浜線に乗り継ぐ観光客も多く、新幹線により来訪した観光客が小浜線を利用して嶺南地域を周遊していると考えられます。一方、親戚・知人の自家用車等やレンタカーで移動する観光客も多くなっています。

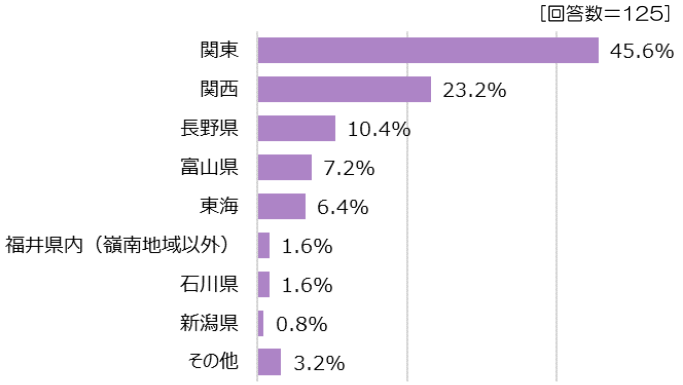
新幹線敦賀駅を利用する観光客へのアンケート

・対象：北陸新幹線敦賀駅の乗降客であり、かつ嶺南地域への来訪者（回答者 125 人（同行者含む））

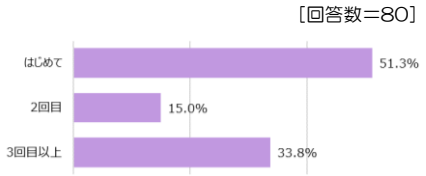
・令和6年9月 21 日（土）　＊3 連休の初日

・新幹線敦賀駅の改札付近で調査　（調査実施：八千代エンジニヤリング（株））

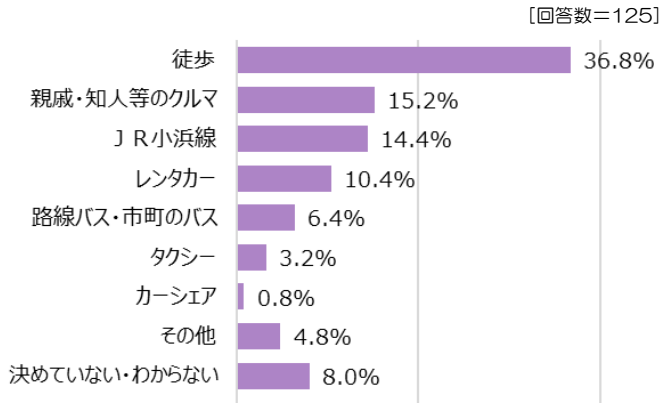
回答者の居住地



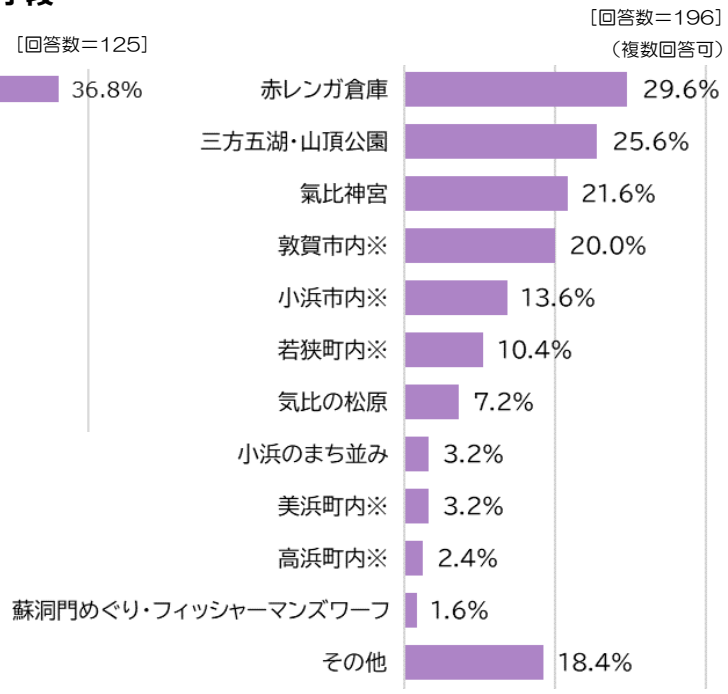
嶺南地域への来訪経験



新幹線敦賀駅の前後の移動手段



嶺南地域の主な来訪場所



※他の項目を除く市町内観光地

（小浜線敦賀駅からの乗車客の状況（アンケート））

●小浜線敦賀駅からの乗車客へのアンケートによると、小浜駅での降車が最も多く、次いで東舞鶴駅、三方駅、美浜駅の順になっています。

●利用頻度では小浜線に年に数回乗る人や初めて乗る人、居住地では首都圏、目的では観光・遊びが多くなっています。また、新幹線から小浜線への乗り継ぎが最も多く、新幹線敦賀開業に伴う小浜線の利用者や、嶺南地域への観光客の増加が伺えます。

ＪＲ小浜線・敦賀駅からの乗車客へのアンケート

・対象：小浜線・敦賀駅の乗車客（回答者162 人）

・令和6年9月21日（土）　＊3連休の初日　　9時台～17時台

・小浜線・敦賀駅のホーム・車内で調査（調査実施：八千代エンジニヤリング（株））

降車駅

［回答数＝161］

		割合
福井	（敦賀：乗車）	
	西敦賀	2%
	粟野	1%
	東美浜	2%
	美浜	14%
	気山	1%
	三方	15%
	藤井	2%
	十村	2%
	大鳥羽	0%
	若狭有田	0%
	上中	4%
	新平野	1%
	東小浜	4%
	小浜	30%
	勢浜	0%
	加斗	0%
	若狭本郷	1%
	若狭和田	0%
	若狭高浜	3%
	三松	0%
	青郷	0%
京都	松尾寺	0%
	東舞鶴	18%

居住地

［回答数＝162］

		割合
県内	敦賀市	9%
	美浜町	12%
	若狭町	9%
	小浜市	10%
	おおい町	1%
	高浜町	1%
	上記以外の県内市町	5%
県外	舞鶴市	1%
	関西（舞鶴市以外）	10%
	石川県・富山県	5%
	新潟県・長野県	3%
	首都圏	26%
	その他	8%

目的

［回答数＝161］

	割合
観光・遊び	45%
その他	29%
通勤・通学	14%
仕事	5%
買い物	3%
通院	3%

小浜線の利用頻度

［回答数＝162］

	割合
週3回以上	9%
週に1~2回	7%
月に数日	12%
年に数日	34%
数年に1日	11%
今回が初めて	27%

小浜線に乗車前の乗り物

［回答数＝162］

	割合
鉄道(新幹線)	31%
鉄道(特急)	13%
鉄道(その他)	28%
路線バス	1%
市町のコミバス・乗合タクシー等	1%
タクシー	0%
クルマ(自分で運転)	4%
家族・知人の送迎・同乗	6%
自転車	2%
その他(徒歩など)	14%

＊鉄道（特急）：JR 在来線特急の「サンダーバード」「しらさぎ」

＊鉄道（その他）：JR 北陸本線、ハピラインふくい線などの在来線の普通列車

Point	Ⅱ-⑩ 北陸新幹線敦賀開業により、嶺南地域の観光客は増加 一方、嶺南西部では増加の伸びが小さい

Point	Ⅱ-⑪ 小浜線により、嶺南地域を周遊する観光客が増加

5．地域公共交通に関する取組み状況

●嶺南地域における公共交通の運行事業者、市町、関係機関等が連携しながら、サービスの維持・充実、利用促進に向けた取組みを継続的に行っており、利用者数の確保など、一定の効果につながっています。

（付属資料 P30 参照）

Point	Ⅱ-⑫ 関係者が連携して利用促進を実施

Ⅲ　嶺南地域の公共交通の今後に向けた課題

前章までで整理した地域および公共交通を取り巻く現況を踏まえると、嶺南地域の公共交通の今後に向けた課題は以下のとおり整理されます。

主な現況整理の要点

○小浜線は重要な移動手段であり、地域住民は利便性向上を望んでいる
Ⅱ-③　地域住民は小浜線の利便性向上を希望
Ⅱ-①　小浜線の利用客は、定期利用（主に中高生）が大半
Ⅱ-⑪　小浜線により、嶺南地域を周遊する観光客が増加
Ⅱ-⑨　将来の移動手段に対して不安を感じる住民は少なくない

○公共交通を取り巻く環境は厳しい
Ⅰ-①　全ての市町で人口減少、少子・高齢化が進行
Ⅰ-②　居住地は市街地に集中する一方、半島や山間等にも点在
Ⅱ-②・④・⑥　公共交通の利用客数は減少が続く
Ⅱ-⑤・⑦　公共交通の運転士不足は深刻な状況、高齢化も進む
Ⅱ-⑨　将来の移動手段に対して不安を感じる住民は少なくない
Ⅱ-⑫　関係者が連携して利用促進を実施

○新幹線効果により観光客は増加しているが、嶺南西部まで移動する観光客は少ない
Ⅱ-⑩　北陸新幹線敦賀開業により、嶺南地域の観光客は増加 一方、嶺南西部では増加の伸びが小さい
Ⅱ-⑪　小浜線により、嶺南地域を周遊する観光客が増加
Ⅰ-④　観光資源が豊富。ただし、多くが駅から離れて立地
Ⅰ-⑤　観光客の交通手段も、レンタカーなど車が中心

○公共交通が利用しやすいエリアや環境になっていない
Ⅱ-③　地域住民は小浜線の利便性向上を希望
Ⅱ-⑧　自家用車等による移動が定着し、公共交通を利用しない
Ⅰ-③　高齢者も含め、移動手段は自家用車中心

○地域住民や観光客の主な移動手段は自家用車やレンタカー
Ⅰ-③　高齢者も含め、移動手段は自家用車中心
Ⅰ-⑤　観光客の交通手段も、レンタカーなど車が中心
Ⅱ-⑧　自家用車等による移動が定着し、公共交通を利用しない
Ⅱ-⑨　将来の移動手段に対して不安を感じる住民は少なくない
Ⅱ-⑫　関係者が連携して利用促進を実施

主な課題の整理

課題１
小浜線を軸とした利便性の高い地域交通を実現する必要 ・令和３年１０月の小浜線減便の影響により、日中の便数が減少 ・今後、小浜線各駅が無人化される可能性 ・運転士不足により路線バスが減便される可能性 ・交通ＤＸや交通ＧＸ、ユニバーサルデザインなど、交通の利便性向上を図る必要

課題２
公共交通を支える人材の確保等により、将来にわたり地域の移動手段を維持・確保する必要 ・公共交通の利用者は減少傾向 ・運転士不足により路線バスが減便される可能性 ・利用者減や運転士不足など、交通事業者の経営環境は厳しさが増している ・市町をまたぐ広域エリアや、公共交通不便地域における移動手段の確保が必要

課題３
新幹線効果を嶺南全域に波及させるため、観光周遊手段の確保や情報発信の強化が必要 ・新幹線敦賀駅から嶺南西部等を周遊できる移動手段を確保する必要 ・観光列車や特徴的なバス車両など、移動を楽しむコンテンツが必要 ・複数の交通モード間をスムーズに利用できる環境づくりが必要 ・県外観光客にわかりやすい案内表示や、嶺南地域の魅力を発信する必要

課題４
まちづくりと公共交通施策との連携が必要 ・市街地と郊外を結ぶ公共交通を確保する必要 ・駅舎や駅周辺など、快適に利用できる環境整備が必要

課題５
車中心のライフスタイルを見直し、地域住民や観光客の公共交通の利用促進を図る必要 ・地域の公共交通を地域で守る意識の醸成が必要 ・子どもや高齢者等に対して、公共交通を利用する機会を設ける必要 ・市町や関係者、住民が連携・協力して取り組む必要

Ⅳ　目指す姿と今後の取組み

1．嶺南地域の公共交通が目指す姿（基本目標）

●嶺南地域の公共交通は、人口減少や少子高齢化の進行、自家用車を中心とした生活様式、また、深刻な運転士不足等の影響により、利用者の減少や路線の維持・確保が懸念されます。一方、高齢者や学生等の日常の移動手段として、公共交通の重要性はますます高まっており、地域の移動手段として、将来にわたって持続可能性を高める必要があります。

●また、令和6年３月に開業した北陸新幹線の効果を地域全体へさらに波及させるため、嶺南地域の基軸となる小浜線と、多様な公共交通機関が連携し、利便性を高めていくことが今後ますます重要となっていきます。

●嶺南地域の公共交通を取り巻く環境は厳しい状況が続いていますが、「将来にわたって地域の移動手段として持続可能な交通ネットワークの構築」「新幹線効果を嶺南地域全体に波及させるための利便性の高い二次交通の実現」を基本目標に掲げ、3つの施策の方向性と地域の実情を踏まえた各種施策を展開し、地域住民の暮らしや交流を支え、育む持続可能な公共交通の実現を目指します。

基本目標（目指す姿）

●将来にわたって地域の移動手段として持続可能な交通ネットワークの構築
●新幹線効果を嶺南地域全体に波及させるための利便性の高い二次交通の実現

今後に向けた公共交通の課題

- ●小浜線を軸とした利便性の高い地域交通の実現
- ●公共交通を支える人材の確保等による、将来にわたる地域の移動手段の維持・確保
- ●新幹線効果を嶺南全域に波及させるため、観光周遊手段の確保・情報発信の強化
- ●まちづくりと公共交通施策との連携
- ●車中心のライフスタイルを見直し、地域住民や観光客の公共交通の利用促進

施策の方向性

- 日常の移動手段としての公共交通の確保と利便性向上
- 観光周遊に利用できる公共交通の確保
- 公共交通を中心としたまちづくりやライフスタイルの定着

2．目標達成のための具体的な事業

●本計画の基本目標と施策の方向性に基づき、現状把握や課題分析の結果等を踏まえて、事業を検討、実施します。

事業１．公共交通の利便性向上

1-1　小浜線の増便・利便性の高いダイヤの設定

①日常利用・観光利用の両面で小浜線の利便性を向上させるため、アンケート調査や実証運行によるニーズの把握を行い、増便や利便性の高いダイヤの実現を目指します。

②新幹線やJR特急・新快速、ハピラインふくい線等、他の路線と接続がよいダイヤの設定に向け、検討・調整を行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
小浜線の増便・利便性の高いダイヤの設定	小浜線の増便等に向けたアンケート調査や実証運行によるニーズの把握	○	●	●	●	検討、順次実施			

1-2　敦賀～東舞鶴間の時間短縮

・ 現状、小浜線の敦賀～東舞鶴間は約2時間を要していますが、小浜線の利用を促進するため、また北陸新幹線効果を嶺南西部に波及させるために、快速化など実現可能な時間短縮の方策について調査・研究を行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
敦賀～東舞鶴間の時間短縮	快速化など実現可能な時間短縮の方策について調査・研究	○	●	●	●	調査・研究、可能な段階で実施			

1-3　列車運休時の対策の強化

・ 小浜線は、嶺南地域の公共交通の要として大きな役割を担っていますが、保守作業のための計画運休や、大雨や倒木などにより運休が発生した場合、住民生活に大きな影響があります。このため、運休時や運休が見込まれる際には、様々な媒体で速やかに運休情報の提供を行うとともに、代替交通手段の確保、運休区間の減少のための対策などについて調査・研究し、順次実施していきます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
列車運休時の対策の強化	代替交通手段の確保、運休区間現象のための対策について調査・研究	○	●	●	●	検討、順次実施			

1-4　駅機能の維持

①定期券購入時の手続きの簡略化やチケットレス化・キャッシュレス化の推進などにより、乗車券の多様な購入方法・決済手段の提供を推進していきます。

②防犯対策など、駅の管理体制を整備します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
駅機能の維持	乗車券の多様な購入方法・決済手段の提供、駅の管理体制の整備	○	●	●	●	検討、順次実施			

1-5　敦賀駅の乗換案内の充実・利便性の向上

①敦賀駅において、小浜線と北陸新幹線や特急、在来線とをスムーズに乗り継ぎできるように、敦賀駅コンコース内の誘導サインや案内看板の充実、西口と東口の連絡、観光案内所等の設置を検討・実施します。

②現状では交通系 IC カード利用者が、敦賀駅で小浜線に乗り継ぎする場合、一度改札を出て運賃を精算する必要があるため、スムーズに乗り継ぎできるよう、利便性向上策を検討・実施していきます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
敦賀駅の乗換案内の充実・利便性の向上	敦賀駅コンコース内の誘導サイン等の充実、乗継等利便性の向上	○	●	●	●	検討、順次実施			

1-6　キャッシュレス化の推進

・ 北陸新幹線敦賀開業により増加している県外からの観光客などがスムーズに公共交通機関を乗り継げるように、小浜線やバスに交通系 IC カードを導入するなど、キャッシュレス化を推進します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
キャッシュレス化の推進	小浜線やバスへの交通系ICカードの導入	○	●	●	●	検討、可能な段階で実施			

1-7　小浜線の運行に応じたバスのダイヤ調整

・ 小浜線とバスを乗り継いで移動する利用客の利便性を確保するため、小浜線の運行に応じて、接続する路線バスやコミュニティバス等のダイヤの調整を引き続き行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
小浜線の運行に応じたバスのダイヤ調整	小浜線に接続する路線バスやコミュニティバス等のダイヤ調整	○	●	●	●	継続実施			

1-8　タクシー稼働率の向上

・ 新幹線駅や観光地での個人の移動ニーズに対応するため、タクシー配車アプリの普及促進を進め、タクシー稼働率の向上につなげます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
タクシー稼働率の向上	タクシー配車アプリの普及促進	○	●	●	●	継続実施			

1-9　新モビリティサービスの導入など交通 DX の推進

①利用者の利便性や事業者の効率性を向上させるため、AIを活用したデマンド交通など、実用化が進む新しい技術による公共交通サービスの実証実験を行い、導入を進めます。

②MaaSの導入による複数の交通モードが一体となった乗り継ぎサービスの提供について検討を進めます。

③自動運転等の技術開発の動向を注視しつつ、嶺南地域での導入について検討を進めます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
新モビリティサービスの導入など交通DXの推進	AI、MaaS、自動運転など新技術の活用	○	○	●	●	継続実施			

1-10　ユニバーサルデザイン化の推進

①今後の高齢化に備え、バリアフリーに対応したノンステップ型バス車両の導入を進めます。

②若い世代が安心して地域で暮らせるよう、子育て世帯や妊娠中の方の外出・通院をサポートするふく育タクシーを運行します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
ユニバーサルデザイン化の推進	バリアフリー車両の導入、ふく育タクシーの運行	○	●	●	●	継続実施			

1-11　次世代型車両の導入など交通 GX の推進

・ 走行時に二酸化炭素を排出しないEV車両や水素車両などの省エネ車両の導入や、輸送需要に応じた車両の小型化を進め、温室効果ガスの削減に努めます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
次世代型車両の導入など交通GXの推進	省エネ車両の導入、車両の小型化	●	●	●	●	継続実施			

事業２．公共交通の維持・確保

2-1　小浜線の安全・安定運行の確保

・ 計画的な保守工事や監視装置等の充実など、小浜線の安全対策にかかる取組みを継続して実施し、運休や事故の防止など小浜線の安全・安定運行を確保します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
小浜線の安全・安定運行の確保	計画的な保守工事や監視装置等の充実		○	○	●	継続実施			

2-2　路線バス運行費やバス車両の更新等に対する支援

・ 県民の重要な移動手段である地域間幹線系統などの広域バス路線を今後も維持していくため、バス事業者に対し、引き続き、国、県、市町が協調して運行費やバス車両の更新等に対する支援を行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
路線バス運行費やバス車両の更新等に対する支援	国、県、市町が協調した運行費やバス車両の更新等に対する支援	●	●	●	○	継続実施			

2-3　市町内路線バスやコミュニティバス等の持続的な運行

①市町の状況に応じた路線バスやコミュニティバス等のダイヤやルート、運行方法の見直しを適宜行います。

②地域公共交通計画を策定し、運行面だけでなくハード、ソフト両面の取組みを進めます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
市町内路線バスやコミュニティバス等の持続的な運行	市町内バスのダイヤ・ルート・運行方法の見直し、地域公共交通計画に基づく取組み	○	○	●	●	継続実施			

2-4　市町を跨ぐ移動手段の充実

・ 地域住民の利用が多い他市町の病院や大型商業施設等への移動を容易にするため、路線バスの乗り継ぎ利便性の向上や、コミュニティバス等の隣接市町への延伸について検討します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
市町を跨ぐ移動手段の充実	路線バスの乗り継ぎ利便性の向上、コミュニティバス等の隣接市町への延伸	○	●	●	●	継続実施			

2-5　公共交通不便地域における移動手段の確保

・ 鉄道、路線バスなどの公共交通機関ではカバーすることが難しい、駅やバス停から距離のある公共交通不便地域において、地域住民の移動手段を確保するため、地域の実情に合わせてデマンド交通や公共ライドシェアの導入、タクシー利用への助成等を行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
公共交通不便地域における移動手段の確保	デマンド交通や公共ライドシェアの導入、タクシー利用への助成等	○	○	●	●	継続実施			

2-6　公共交通を支える人材の確保・育成

①運転士を確保するため、会社説明会や運転体験会など採用活動を拡充します。また、市町交通担当者等の見識を深める場として政策勉強会を開催します。

②事業者に対して、関係機関が一体となって就職説明会の出展サポートや情報発信支援などを行います。

③運転士の給与水準など勤務条件の改善、女性や若者が働きやすい職場環境の整備、第二種運転免許取得への支援、運転士のイメージアップに向けたPR活動等への支援など、引き続き実施します。

④外国人材の活用について関係者間で検討します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
公共交通を支える人材の確保・育成	採用活動や情報発信の強化、勤務条件の改善、外国人の活用の検討など	●	●	●	●	継続実施			

事業３．公共交通サービス情報の充実

３-１　案内情報の充実

①主要駅において、乗り継ぎ可能な小浜線やバス等の公共交通を案内するとともに、案内の多言語化を進めます。

②若狭線や若江線など、隣接市町や県外への移動に利用可能な公共交通について、案内情報を充実します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
案内情報の充実	小浜線主要駅における乗換案内や多言語化、市町を超える移動手段の案内の充実		○	●	●	継続実施			

３-２　経路検索システムへのバス情報の掲載

①国土交通省が定める「標準的なバス情報フォーマット」に基づいたデータ作成を進め、経路検索事業者に提供し、インターネット等の経路検索におけるバス情報を掲載します。

②鉄道やバスの遅延などの運行情報を利用者がリアルタイムで把握できるよう、引き続きHPやSNSでの情報発信を行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
経路検索システムへのバス情報の掲載	バス時刻表などの経路検索システムへの掲載、運行情報の発信	○	●	●	●	継続実施			

３-３　特設サイトや SNS、旅雑誌等を活用した情報発信

①公共交通を利用した場合に目的地でポイントが得られるスタンプラリー等、楽しみながら公共交通を利用して周遊したくなるコンテンツを作成します。

②特設サイトや SNS、旅雑誌等を活用して公共交通に関する情報を積極的に発信します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
特設サイトやSNS、旅雑誌等を活用した情報発信	スタンプラリー等のコンテンツ作成、特設サイトやSNS、旅雑誌等による情報発信		●	●	●	継続実施			

事業４．観光周遊手段の提供

４-１　観光スポットを周遊する広域バス等の運行

・ 新幹線敦賀駅から敦賀以西への広域観光を促すため、嶺南地域の主要な観光スポットを巡るゴコイチバスなどの広域バスや観光タクシーの運行を継続し、ニーズに応じたサービス水準の向上を図ります。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
観光スポットを周遊する広域バス等の運行	主要な観光スポットを巡る広域バスや観光タクシーの運行		●	●	●	継続実施			

４-２　嶺南地域への誘客に資する観光列車・イベント列車の運行

①JR西日本の観光列車「はなあかり」など、観光列車やイベント列車が小浜線において定期的に運行されるよう、「おもてなし」を沿線自治体、地域団体、交通事業者等が連携して企画し、嶺南地域の魅力を引き続き発信していきます。

②嶺南地域への観光誘客を図るため、魅力的なイベント列車の運行を引き続き企画・実施していきます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
嶺南地域への誘客に資する観光列車・イベント列車の運行	観光列車やイベント列車の運行		●	●	●	継続実施			

４-３　サイクルトレインやサイクルバス等の運行

・ 若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）※のナショナルサイクルルート指定に向けた取組みに合わせ、ゴールデンウィーク期間やイベント時に利用できるサイクルトレインやサイクルバスの運行を検討・実施します。

※福井県の JR 敦賀駅から JR 若狭高浜駅までを結ぶ全長約 126km のサイクリングルート

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
サイクルトレインやサイクルバス等の運行	イベント時などのサイクルトレインやサイクルバスの運行		●	●	●	検討、可能な段階で実施			

4-4　特徴あるバス車両の運行

・ 観光客の公共交通による来訪と周遊の動機づけとするため、地域の魅力を発信するラッピングバス車両の運行や、水素などを活用した車両の運行を検討します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
特徴あるバス車両の運行	ラッピングバス車両などの運行		○	●	●	検討、可能な段階で実施			

4-5　駅を起点とした周遊の促進

①嶺南地域内での周遊を促進するために、小浜線の駅を起点としたバスを運行するほか、レンタサイクル・シェアサイクルなど、利便性の高い移動手段の整備等を進めます。

②JR西日本の観光型MaaS「tabiwa」と連携し、駅からの二次交通に加え、観光施設の入場券等がセットになった周遊きっぷなど、観光客にとって魅力的な周遊型商品を企画・販売します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
駅を起点とした周遊の促進	小浜線の駅を起点とした移動手段の整備、周遊きっぷなどの企画・販売		●	●	●	継続実施			

4-6　多様な移動手段の提供

①多様な観光スタイルに合う移動手段を容易に選択できるよう、異なる市町の観光地間を移動する際に定額で周遊できる観光タクシーを運行します。

②各市町の主要駅に観光客が利用できるシェア EV を引き続き配置します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
多様な移動手段の提供	市町の観光地間を移動できる観光タクシーの運行、シェアEVの配置		●	●		継続実施			

4-7　自転車による周遊の促進

・ 嶺南地域を自転車で巡る周遊観光を促すため、自転車の駅の整備や各市町の交通結節点に配置するシェアサイクル等の充実を図ります。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
自転車による周遊の促進	自転車の駅や交通結節点におけるシェアサイクル等の整備		●	●		継続実施			

事業５．まちづくりと連携した施策の展開

５-１　駅周辺への都市機能･居住誘導

・ 各市町が策定する立地適正化計画や都市計画マスタープラン、それぞれの地域特性を踏まえ、交通結節点となる駅周辺への各種都市機能の集約や、スマートタウンの整備、道路空間の再編等と連携した地域公共交通の充実を図ります。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携･支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
駅周辺への都市機能･居住誘導	スマートタウンの整備などと連携した地域公共交通の充実		○	●	○	継続実施			

５-２　駅の利便性向上

・ 小浜線をより快適に利用できるよう、駅の待合室やトイレの改修、バリアフリー化、駅の駐輪場、駅前広場などの環境整備を引き続き実施します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携･支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
駅の利便性向上	駅舎や駅周辺施設の環境整備		○	●	●	継続実施			

事業６．公共交通利用を促進する意識の醸成

6-1 モビリティ・マネジメントの推進

（1）地域住民を対象としたモビリティ・マネジメント

①地域住民を対象に、広報活動のほか、小浜線やバス等に親しむイベント、公共交通で出かけるスタンプラリー等を実施します。

②地域で開催するイベントにおいて、公共交通による公共施設等へのアクセス方法の紹介など公共交通の利用を呼びかけます。

③高齢者向けに、マイ時刻表の入手方法や使用法の案内、出張 PR、調べ方・乗り方相談会の開催、公共交通による外出支援等を行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ○:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
地域住民を対象としたモビリティ・マネジメント	住民向けに公共交通で出かけるスタンプラリー等の実施、公共交通によるアクセス方法の紹介		○	●	●	継続実施			

（2）児童・生徒を対象としたモビリティ・マネジメント

①公共交通に対する意識を育むため、児童・生徒を対象に乗り方教室や、公共交通カードゲームの出前講座等を行います。

②夏休み等に合わせた無料乗車体験や出張教室などを行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ○:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
児童・生徒を対象としたモビリティ・マネジメント	児童向けに乗り方教室、公共交通カードゲームの出前講座、無料乗車体験の実施		○	●	●	継続実施			

（3）事業所を対象としたモビリティ・マネジメント

①嶺南地域の事業所に対し、通勤や出張時の公共交通利用を呼びかけます。

②公共交通を利用するメリットを呼びかけ、自家用車以外の交通手段の利用を促す取組み（カー・セーブ運動等）を行います。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ○:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
事業所を対象としたモビリティ・マネジメント	事業者向けに通勤や出張時の公共交通利用の呼びかけの実施		○	●	●	継続実施			

6-2　住民が主体となった活動の推進

・ 地域住民を対象とした公共交通に関するイベント等の開催や、駅やバス停の環境美化活動など、公共交通の維持と地域の活性化に向けた住民の主体的な活動を推進します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
住民が主体となった活動の推進	住民が主体となった駅やバス停の環境美化活動などの実施		○	●	○	継続実施			

6-3　公共交通利用促進グッズの製作

・ 公共交通の関連グッズの製作・配布や、カードゲームの活用を通じて、公共交通への関心を高めることにより、地域住民のマイレール、マイバス意識を醸成します。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
公共交通利用促進グッズの製作	公共交通の関連グッズの製作・配布やカードゲームの活用によるマイレール、マイバス意識の醸成		●	●	○	継続実施			

6-4　沿線自治体による小浜線利用促進の実施

・ 小浜線の利用促進のため、沿線自治体による定期券や団体利用者などに対しての運賃助成や、イベント時の小浜線の活用を促す取組み等を引き続き実施していきます。

事業名	内容	実施主体（●:取組み主体 ●:連携・支援）				スケジュール			
		国	県	市町	公共交通事業者	R7	R8	R9	R10
沿線自治体による小浜線利用促進の実施	定期券等の助成やイベント時の小浜線の活用を促す取組みの実施		●	●	●	継続実施			

３．事業の実施に当たって

- 本計画の基本目標を実現するため、県や市町・交通事業者等の関係者が密接に協力していくとともに、それぞれの役割分担の下、嶺南地域の公共交通の活性化や充実に主体的に取り組むものとします。
- 本計画に定める事業の内容やその関係者は多岐にわたるため、必要に応じて効率的かつきめ細かな検討を実施できる体制を整備します。
- 事業実施のために必要となる財源については、国庫補助金等を最大限活用するほか、各事業主体に対し県や市町による財政支援が必要となる場合には適宜予算を確保するよう努めるものとします。なお、公共交通の利便性向上等に資する事業のうち、県と市町が合意した事業について、嶺南快速鉄道基金（県：地域振興基金、市町：嶺南鉄道整備促進基金）を財源として活用します。

V　計画の達成状況の評価

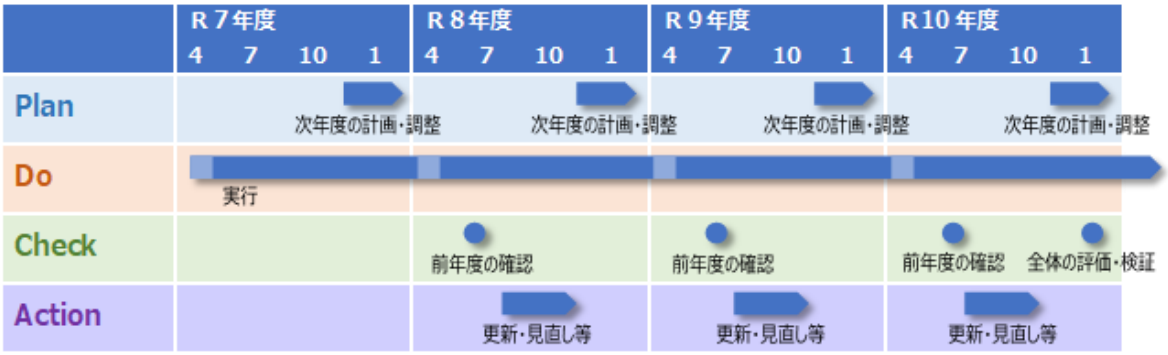
《達成状況の評価》

●計画を進めるにあたっては、PDCA（Plan・Do・Check・Action）のサイクルによる継続的な取組みを行い、必要に応じて適宜改善を図っていきます。

●目標を実現するための取組みの詳細を計画立案・調整、実行し、各年度および最終年度に、取組み（事業）についての進捗状況を確認し、得られた結果について評価・検証を行い、協議会に報告します。得られた結果のほか、今後の地域や社会の情勢、交通手段に関する技術革新の動向、人々の意識・行動や嗜好・流行の変化等によっては、計画内容の更新、見直し等を行います。

Plan　：計画・調整等
Do　：実行
Check　：進捗状況の確認、評価・検証
Action　：更新・見直し等

（取組みの進め方）



＊前年度の取組み状況の確認、全体の評価・検証の結果は協議会で報告

《評価指標と目標値》

●本計画の達成状況を評価するため、施策の方向性として設定した「日常の移動手段としての公共交通の利便性向上」、「観光周遊に利用できる公共交通の確保」、「公共交通を中心としたまちづくりやライフスタイルの定着」の3つの観点から、期間中に達成すべき評価指標と目標値を設定します。

●地域全体の目標であり、6市町にわたる状況を把握する必要があるため、年度ごとの進捗状況を確認できる指標を設定します。

（評価指標と目標値）

指標	現況値 （令和５年度）	目標値 （令和 10 年度）	目標値の考え方	計測方法
ＪＲ小浜線の年間利用者数	1,321 千人	**1,500 千人**	利用促進策の実施により、コロナ前（R1）の水準に戻す	JR 西日本からの提供データにより毎年計測
路線バス・コミュニティバス等の年間利用者数	770 千人	**824 千人**	利用促進策の実施により、コロナ前（R1）の水準に戻す	バス事業者保有の乗降データにより毎年計測
路線バス（地域間幹線系統）の年間利用者数	168 千人	**197 千人**	広域バスの維持確保のため、コロナ前（R1）の水準に戻す	バス事業者保有の乗降データにより毎年計測
路線バス（地域間幹線系統）の収支率	38.9%	**48.8%**	広域バスの維持確保のため、コロナ前（R1）の水準に戻す	バス事業者の決算書により毎年計測
路線バス（地域間幹線系統）の利用者 1 人当たり県補助額	107.0 円	**107.0 円**	広域バスの維持確保のため、現況（R5）の水準の維持・削減を目指す	バス事業者保有の乗降データ等により毎年計測
レンタル・シェアサイクルの年間利用者数	14,327 人	**16,000 人**	現行の利用者数の 1 割増を目指す	貸出施設の利用実績により毎年計測
モビリティ・マネジメントに関するイベント、乗り方教室等開催件数	59 件	**100 件**	現行の取組数の約 2 倍を目指す	各市町等の実績により毎年計測

《進捗管理》

●計画全体の取組みの進捗確認や結果の評価・検証（PDCA の“ C ”）は、協議会において行います。

【参考資料】

1　計画策定の経緯

開催日	主な内容
令和６年　５月３０日	第１回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 ・計画改定の方向性について協議
令和６年１０月　７日	第２回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 ・計画期間に取り組む施策について協議
令和６年１１月１８日	第３回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 ・調査結果の報告、計画骨子案について協議
令和７年　２月１２日	第４回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 ・計画案について協議
令和７年２月～３月	パブリックコメントの実施

2　福井県嶺南地域公共交通活性化協議会　委員名簿

（令和７年３月時点）

役　員	所　　属	役　　職	氏　　名
会長	福井大学大学院	教授	川本　義海
委員	福井県	未来創造部新幹線・交通まちづくり局長	姫川　祐一
委員	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社	地域共生室長	鹿野　剛史
委員	福井鉄道株式会社	代表取締役社長	吉川　幸文
委員	西日本ジェイアールバス株式会社	代表取締役社長	北野　眞
委員	京都交通株式会社	代表取締役社長	澤　志郎
委員	大和交通株式会社	代表取締役社長	村田　治夫
委員	敦賀市	まちづくり観光部長	小川　明
委員	小浜市	企画部新幹線交通政策幹	角野　覚
委員	美浜町	住民環境課長	川尻　宏和
委員	高浜町	総合政策課長	永禮　義己
委員	おおい町	総務課長	細川　和夫
委員	若狭町	総合政策課長	岸本　晃浩
委員	嶺南広域行政組合	事務局長	田辺　辰浩
委員	内外海コミュニティセンター	センター長	野村　徳夫
委員	福井河川国道事務所	所長	野村　文彦
委員	福井県警察本部交通部交通規制課	課長	清水　孝一
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	株式会社ハピラインふくい	総務企画部長	増田　賢和
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	国土交通省中部運輸局鉄道部	計画課長	小野木　康仁
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	国土交通省中部運輸局福井運輸支局	首席運輸企画専門官	大舘　久志
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	舞鶴市	企画政策課長	松岡　幸治
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	嶺南振興局	若狭企画振興室長	藤原　則夫
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	嶺南振興局	二州企画振興室長	松井　秀幸
事務局	福井県	交通まちづくり課	
		地域鉄道課	
	嶺南6市町	交通担当課	

（付属資料）

付属資料　目次

Ⅰ　嶺南地域を取り巻く現況 …… 付属-1

1．位置･地勢･気候 …… 付属-1

2．人口…… 付属-4

3．外出等の状況…… 付属-7

4．自動車･運転免許の保有状況 ……付属-11

5．観光の状況 ……付属-15

Ⅱ　嶺南地域の公共交通の現況 …… 付属-18

1．鉄道……付属-18

2．バス等……付属-22

３．公共交通に関する取組み状況 ……付属-30

Ⅲ　各種調査結果 …… 付属-31

1．ＪＲ小浜線利用客ＯＤ調査（平日の利用状況） ……付属-31

2．嶺南地域居住者へのアンケート……付属-33

Ⅳ　前計画期間における取組み･成果 …… 付属-36

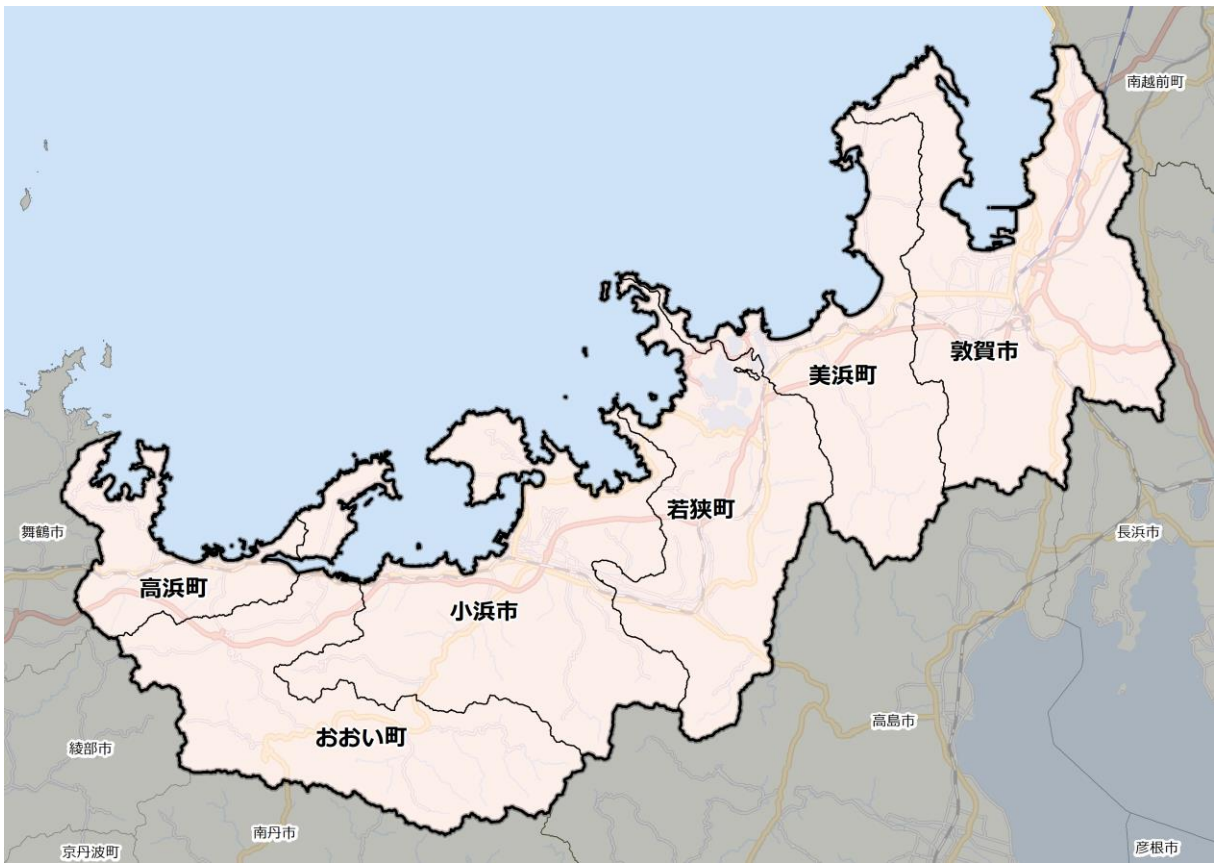
Ⅴ　各市町における関連計画等…… 付属-37

Ⅰ　嶺南地域を取り巻く現況

1．位置・地勢・気候

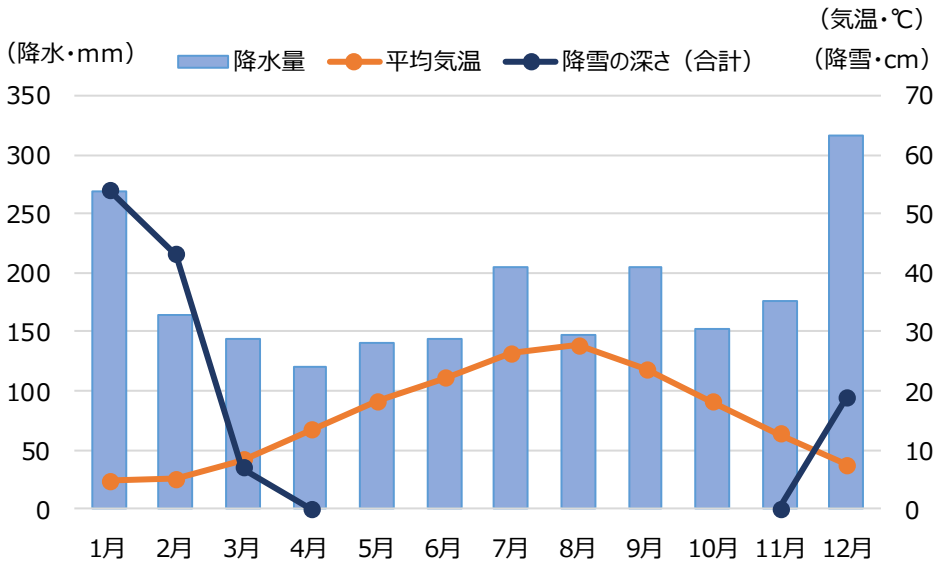
（1）嶺南地域の位置

嶺南地域の市町



（2）気候

降水量・平均気温・降雪



出典：気象庁

降水量・平均気温・降雪の最大・最小・平均値

降水量	最大：317mm（12 月）
	最小：120mm（4 月）
	平均：182mm
平均気温	最高：27.7℃（8 月）
	最低：4.7℃（1 月）
	平均：15.6℃
降雪の深さ	最大：54cm（1 月）
	最小：7cm（3 月）
	平均：31cm（積雪期）

出典：気象庁

※敦賀市の 1991～2020 年の 30 年間の平均値

（３）福井県の近年の災害と嶺南地域の公共交通への影響

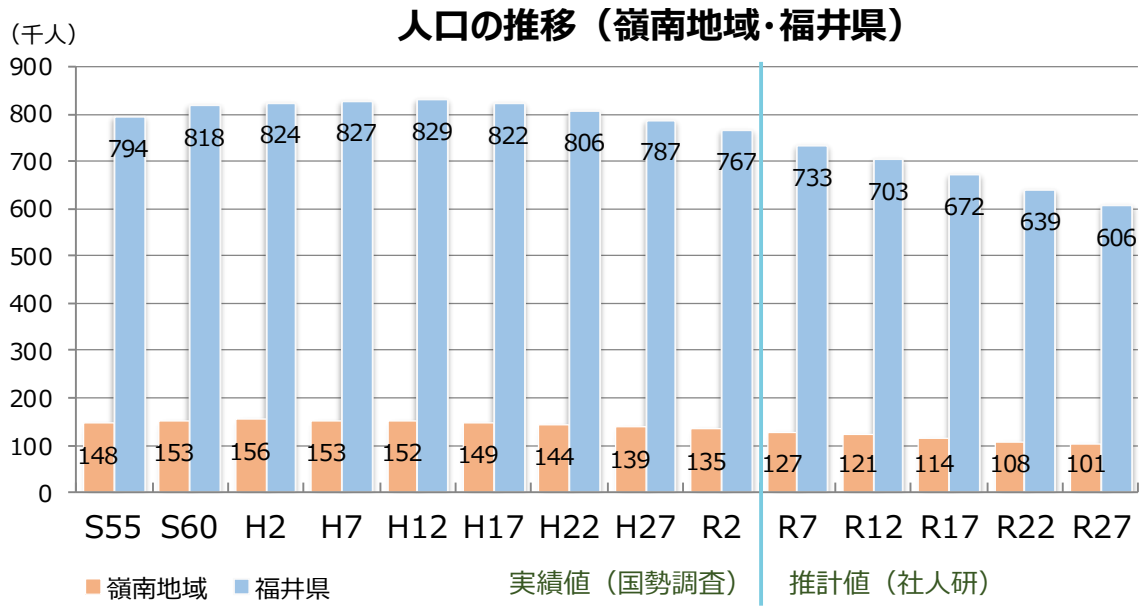
年月日	災害の種類	嶺南地域の公共交通への影響 （鉄道、路線バスのみ記載）
令和３年 1/7～1/10	大雪 ※嶺南地域の主な気象状況 【日降雪量最大値】 敦賀：13cm（1/10） 【最深積雪最大値】 敦賀：16cm（1/10）	線路や道路への降雪により、鉄道、バスの運休や迂回運行が発生。 嶺南地域では公共交通への大きな影響はなし。 **【JR 北陸本線】** ・一部運休から全線運行まで５日（1/8～1/12） ※終日運休１日（1/10）
令和４年 8/4～8/5	大雨 ※嶺南地域の主な気象状況 【日最大１時間降水量】 美浜：66.0mm（8/5）	駅の冠水や道路の通行止めにより、鉄道、バスの運休や迂回運行が発生。 **【JR 北陸本線】** ・南越前町付近の北陸トンネル福井方坑口から湯尾駅にかけ７カ所の被害が発生し、武生駅～敦賀駅間を運休（8/4～8/10） **【JR 小浜線】** ・8/5 に敦賀駅～小浜駅で終日運休、小浜駅～東舞鶴駅で一部運休
令和６年 1/1	令和６年能登半島地震 ※地震の概要 震源：石川県能登地方 発生時刻：１月１日 16 時 10 分 規模・深さ：M7.6　ごく浅い ※嶺南地域の主な震度 震度４：敦賀市、小浜市、高浜町、おおい町、若狭町 震度３：美浜町	石川県能登地方を震源とする地震により、鉄道、バスの運休や遅延が発生。 **【JR 北陸本線】** ・普通列車（敦賀駅～福井駅間）は地震発生時から終日運休 ・普通列車（福井駅～金沢駅間）および特急列車は地震発生時から翌 1/2 昼まで運休 **【JR 小浜線】** ・地震発生時から終日運休 **【福鉄バス】** ・地震発生時から終日沿岸部を運行する路線で運休 **【西日本ジェイアールバス】** ・若江線の小浜駅～上中で地震発生時から終日区間運休

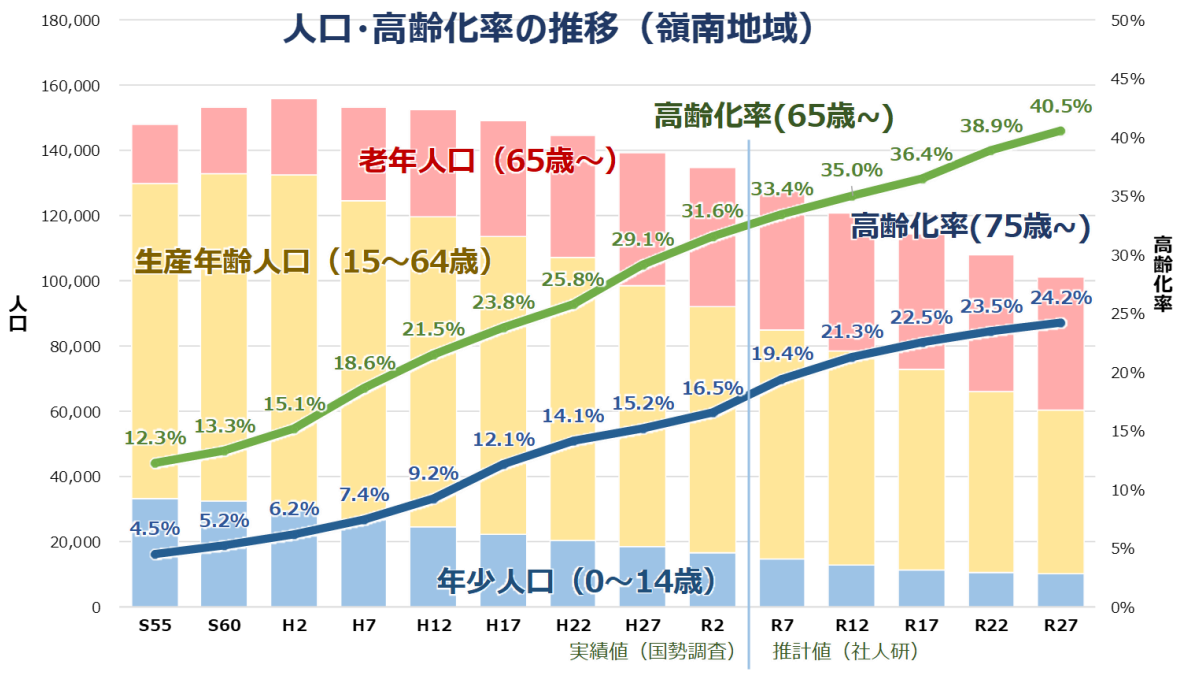
※令和３年以降に発生した災害のうち、福井県災害対策本部が設置されたものを記載

出典：福井県地域防災計画資料編（R6.3）、福井県災害アーカイブ、福井県災害対策本部資料、各運行事業者の公式Ｘ（旧 Twitter）

2．人口

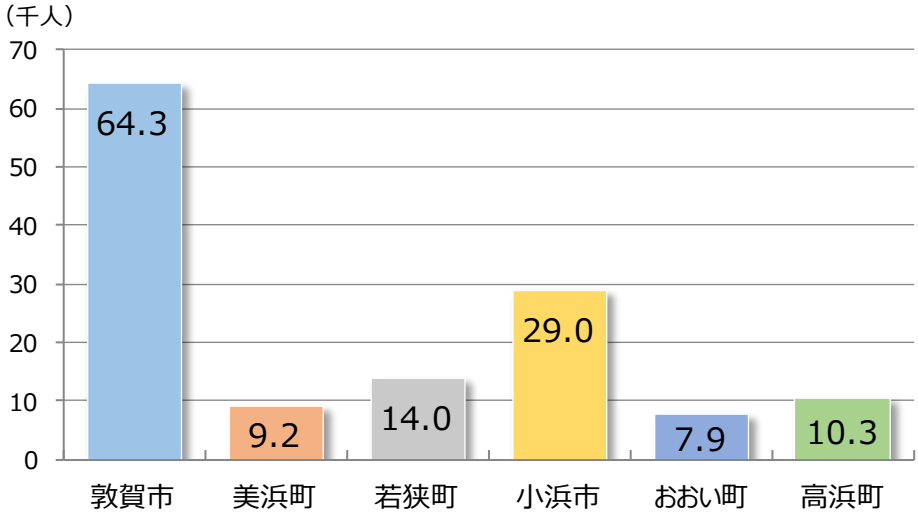
（1）人口の推移





出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

各市町の人口(令和2年)



出典：国勢調査

各市町の人口推移

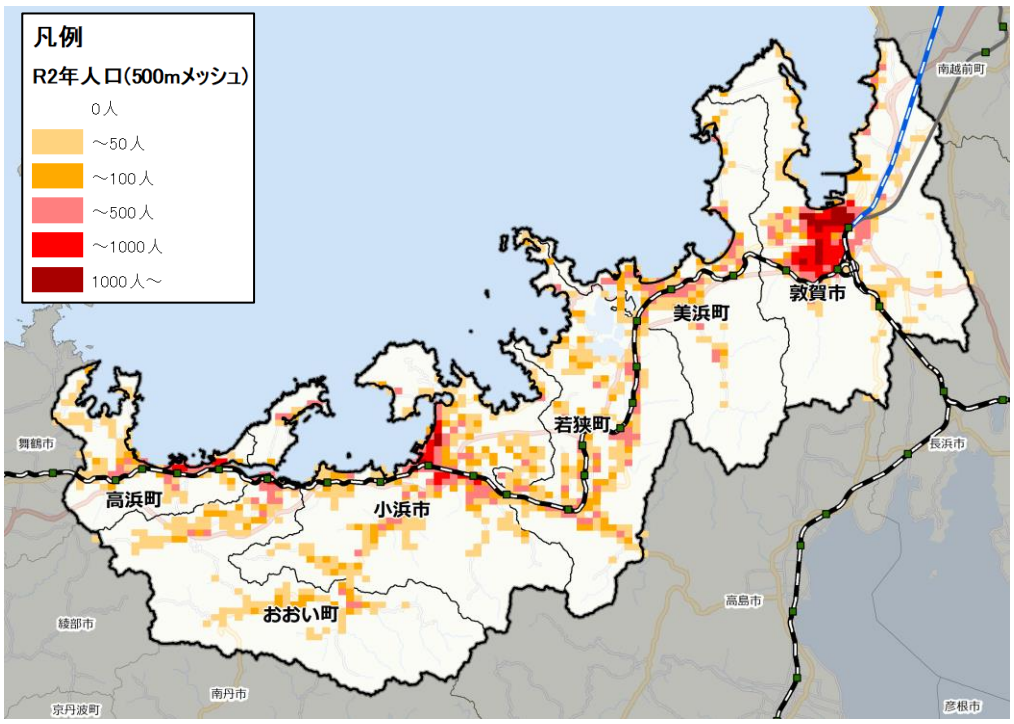
実績値（国勢調査）◀――▶ 推計値（社人研）

	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	H22→R2
	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27	増減率
敦賀市	61,844	65,670	68,041	67,197	68,134	68,267	67,092	65,703	64,264	61,377	58,849	56,211	53,474	50,580	-4%
美浜町	13,036	13,384	13,222	12,362	11,630	11,023	10,547	9,908	9,179	8,638	8,085	7,507	6,905	6,344	-13%
若狭町	18,114	18,026	17,835	17,567	17,313	16,780	16,095	15,256	14,003	12,471	11,425	10,452	9,511	8,627	-13%
小浜市	34,049	34,011	33,774	33,496	33,295	32,180	31,198	29,589	28,991	27,802	26,500	25,215	23,902	22,544	-7%
おおい町	9,156	9,791	10,598	10,251	9,983	9,217	8,472	8,291	7,910	7,447	6,979	6,539	6,114	5,681	-7%
高浜町	11,818	12,310	12,420	12,201	12,118	11,628	11,057	10,583	10,326	9,607	9,051	8,492	7,925	7,356	-7%
嶺南地域計	**148,017**	**153,192**	**155,890**	**153,074**	**152,473**	**149,095**	**144,461**	**139,330**	**134,673**	**127,342**	**120,889**	**114,416**	**107,831**	**101,132**	**-7%**

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

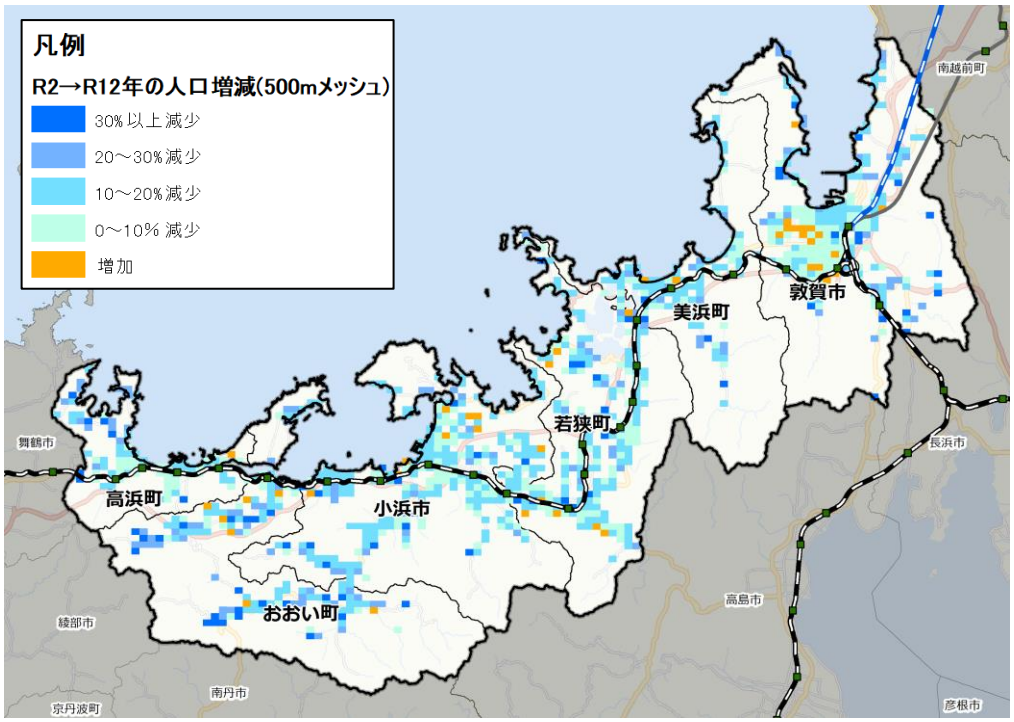
（2）人口分布

令和 2 年の人口分布（500m メッシュ）



出典：国勢調査

令和 2 年から令和 12 年（推計値）の人口推移分布（500m メッシュ）

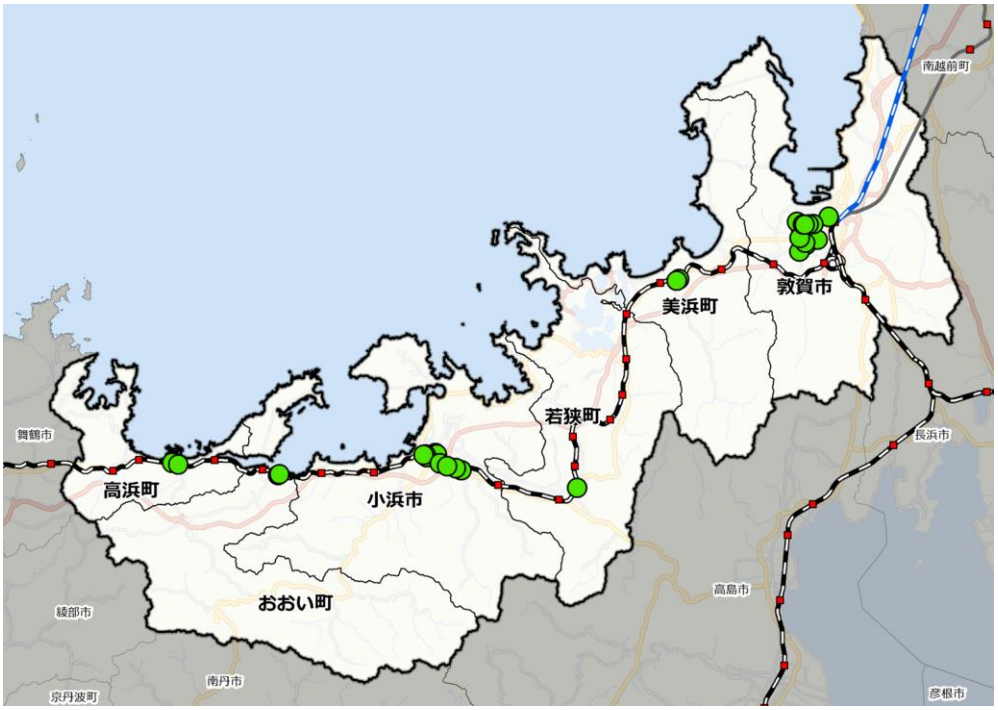


出典：国土数値情報

3．外出等の状況

（1）主な施設の立地状況

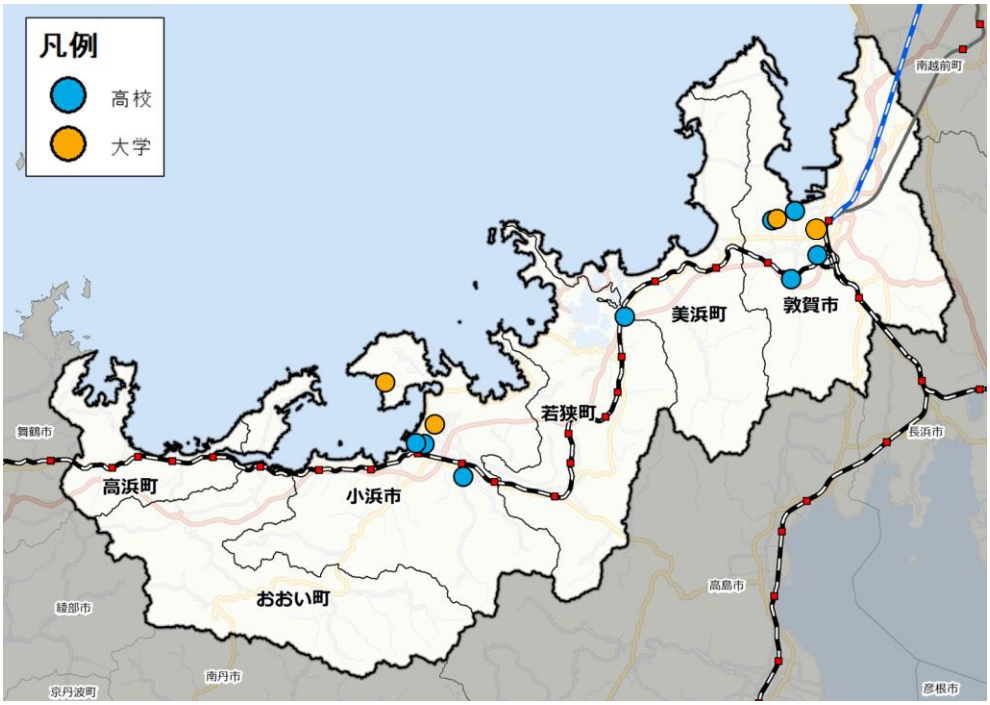
商業施設（大規模小売店舗）



出典：福井県資料

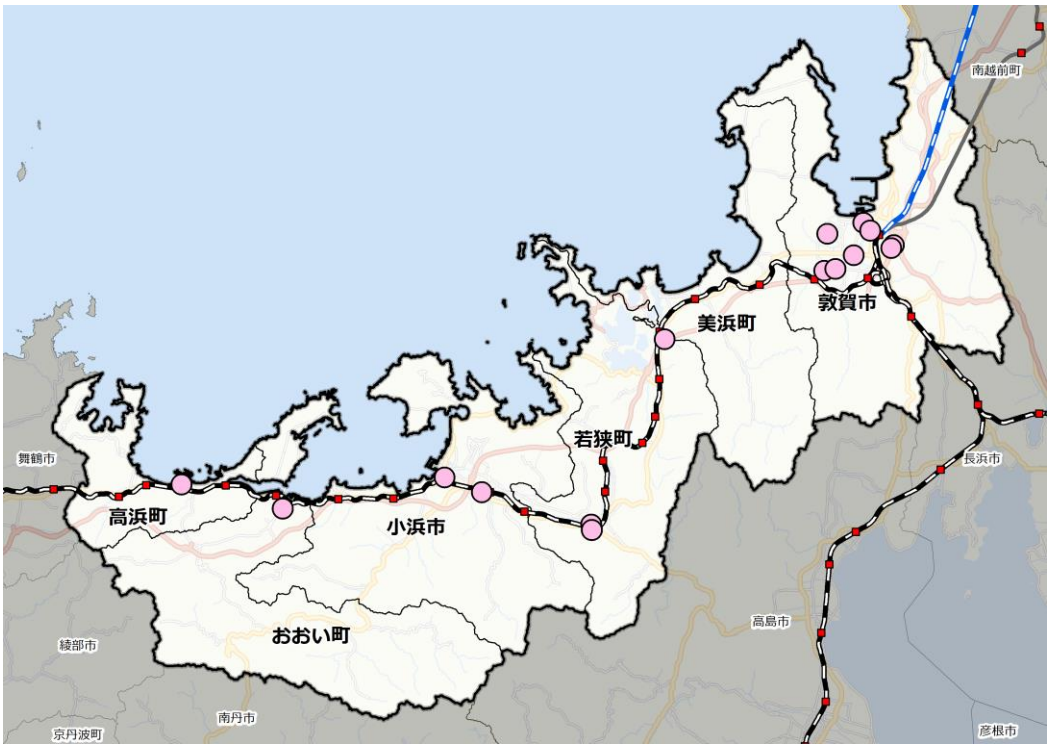
＊**大規模小売店舗**：一の建物（1 つの建物）で、その建物内の店舗面積の合計が 1,000 平方メートルを超える小売店舗。（ショッピングセンター、ホームセンター、スーパーなど）

学校（高校・大学）



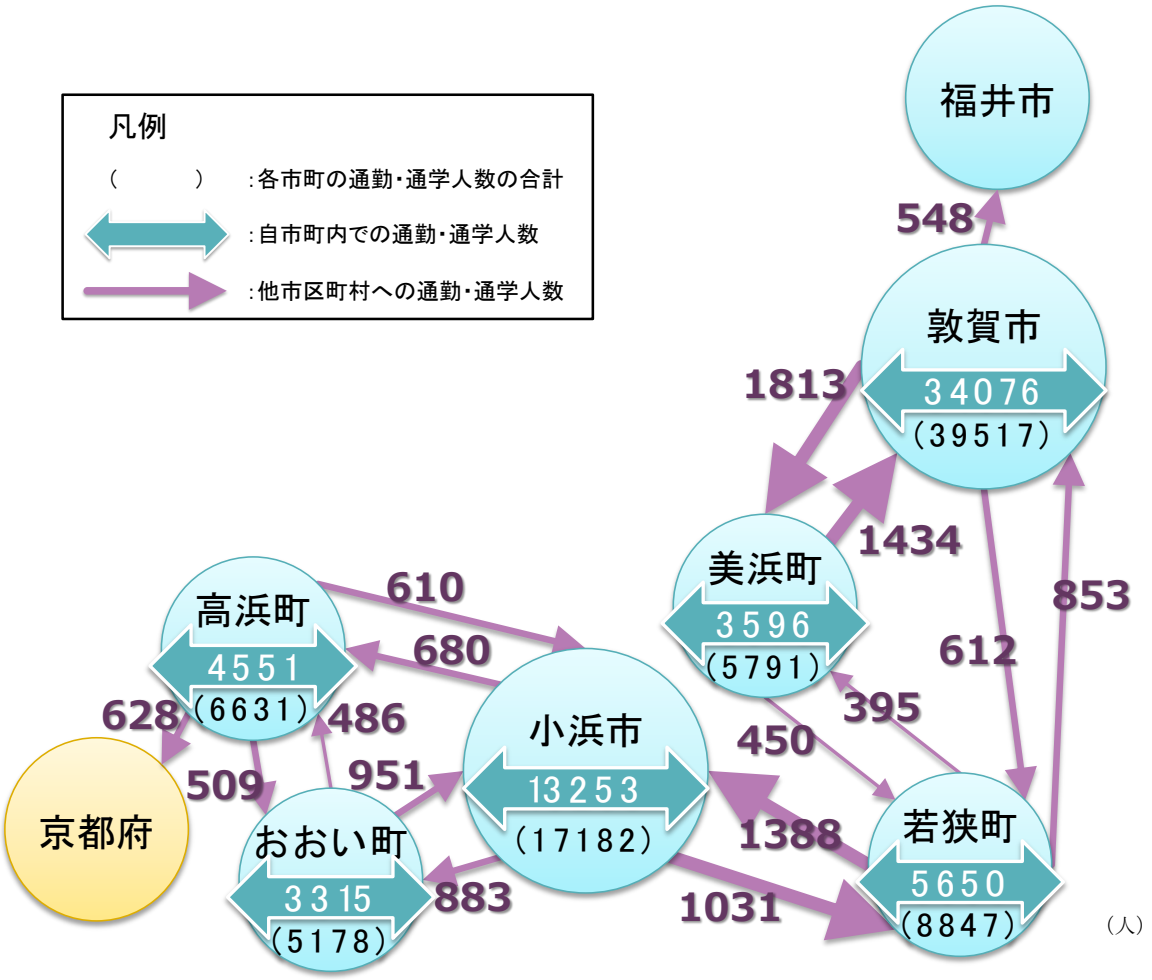
出典：国土数値情報

病院



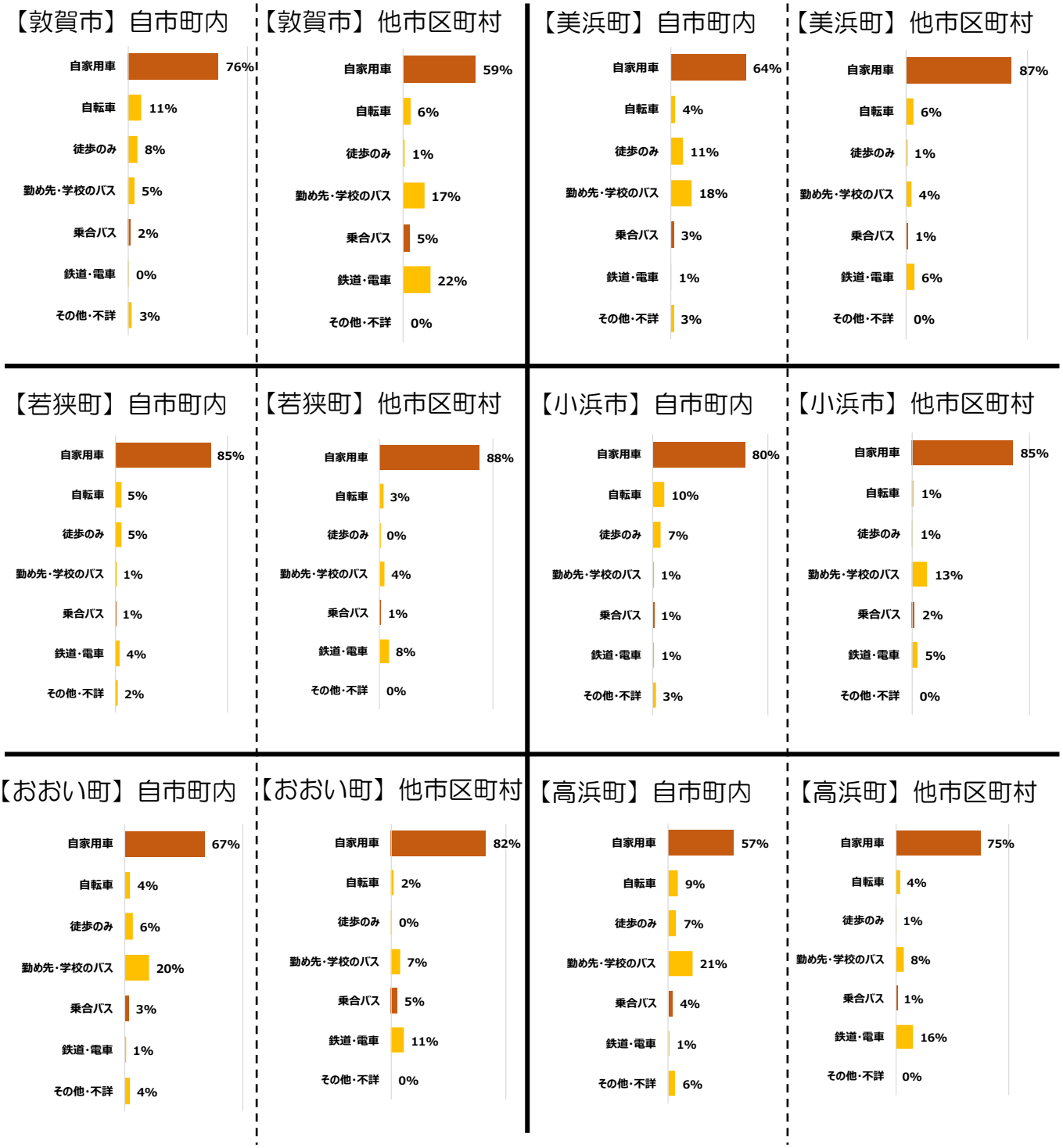
※病床を有する病院のみ表示
出典：国土数値情報

（２）通勤・通学の動き



出典：国勢調査（R2）
（嶺南地域各市町からの通勤・通学先の上位のものを表示）

（3）通勤・通学の利用交通手段（自市町内・他市区町村）

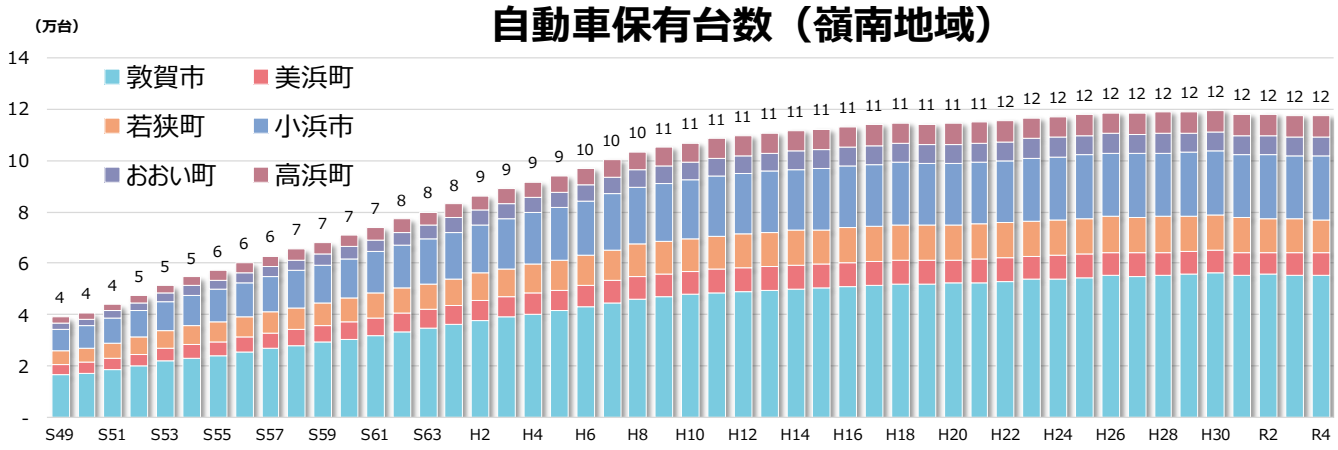


※その他・不詳は、国勢調査における「ハイヤー・タクシー」「オートバイ」「その他」「不詳」の合計

出典：国勢調査（R2）

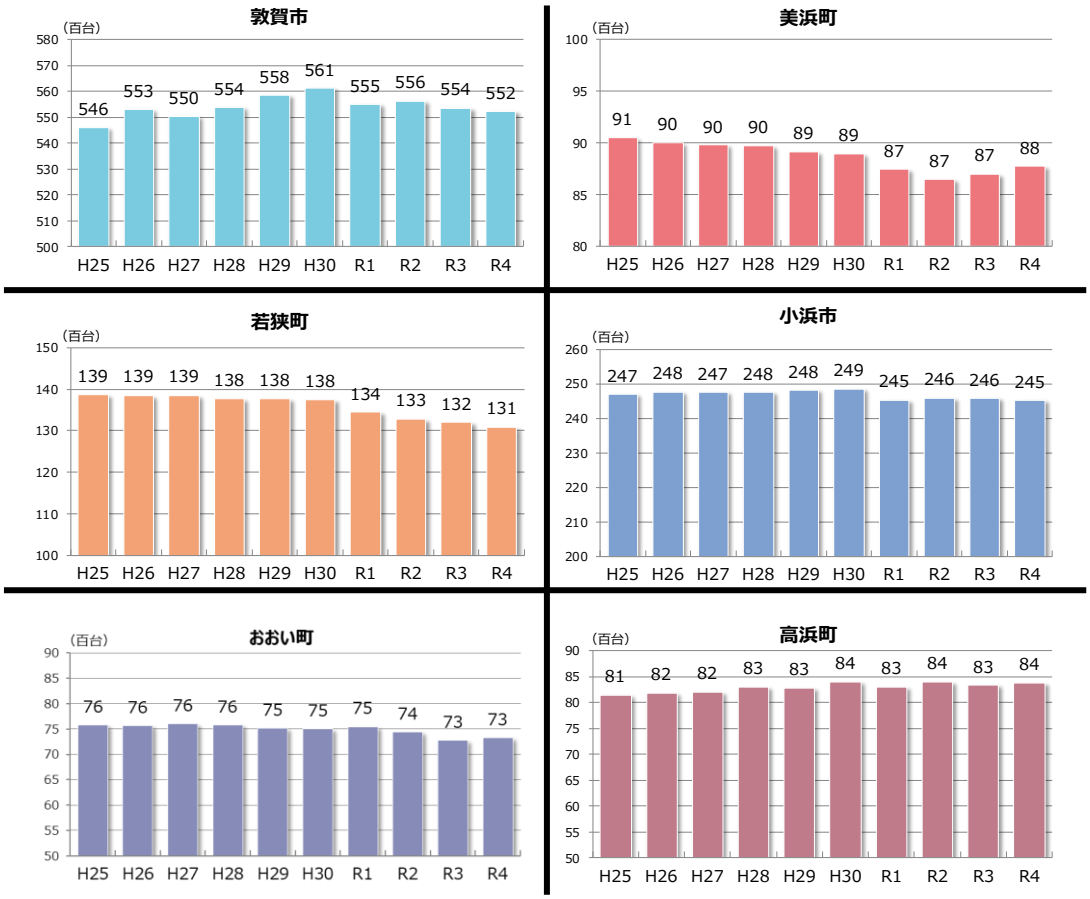
4．自動車･運転免許の保有状況

（1）自動車保有台数の状況



出典：福井県統計年鑑

各市町の自動車保有台数の推移



出典：福井県統計年鑑

各市町の 18 歳以上人口当たりの自動車保有台数（R4）

	自動車保有台数 （台）	18歳以上人口 （人）	**18歳以上人口当たり 自家用車保有台数 （台／人）**
敦賀市	55,218	52,112	**1.06**
美浜町	8,773	7,676	**1.14**
若狭町	13,085	11,355	**1.15**
小浜市	24,520	23,322	**1.05**
おおい町	7,323	6,401	**1.14**
高浜町	8,379	8,290	**1.01**
嶺南計	117,298	109,156	**1.07**

福井県	663,758	629,466	**1.05**

出典：福井県オープンデータ、福井県警

各市町の 1 世帯当たりの自動車保有台数（R4）

	自動車保有台数 （台）	世帯数 （世帯）	**世帯当たり 自家用車保有台数 （台／世帯）**
敦賀市	55,218	27,976	**1.97**
美浜町	8,773	3,713	**2.36**
若狭町	13,085	4,776	**2.74**
小浜市	24,520	12,120	**2.02**
おおい町	7,323	3,149	**2.33**
高浜町	8,379	4,424	**1.89**
嶺南計	117,298	56,158	**2.09**

福井県	663,758	294,642	**2.25**

出典：福井県オープンデータ、福井県警

福井県と全国の自家用車保有の状況の比較(R6)

	自家用車保有台数 （台）	1人当たり 自家用車保有台数 （台／人）	1世帯当たり 自家用車保有台数 （台／世帯）
福井県	511,674(43位)	0.680(7位)	1.685(1位)
全国	61,762,498	0.495	1.016

※カッコ内の順位は 47 都道府県の中での順位

出典：自動車検査登録協会（R6.3）

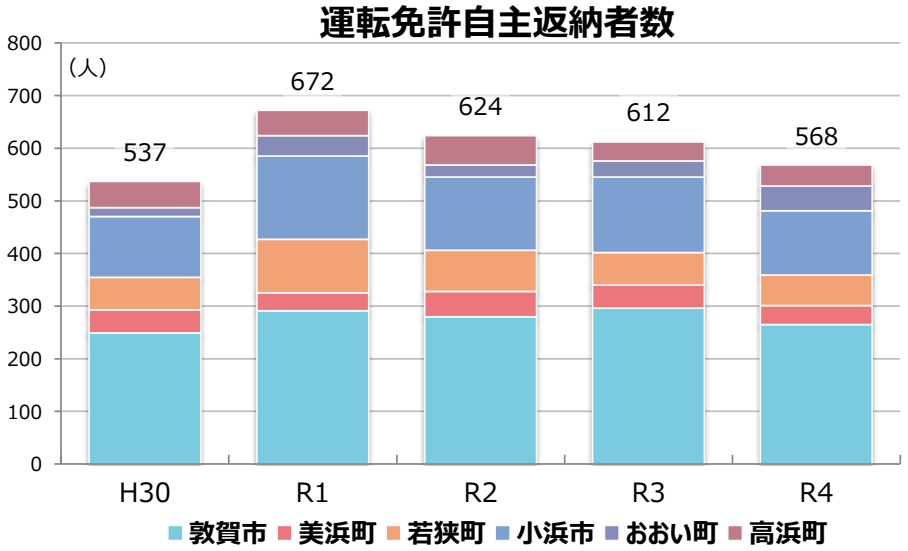
（２）運転免許保有の状況

各市町の年代別･各性別の運転免許保有率（R4）

		男女別					男女計				
		若者（16～24歳）	25~64歳	高齢者（65歳以上）	計（16歳以上）	（参考）75歳以上	若者（16～24歳）	25~64歳	高齢者（65歳以上）	計（16歳以上）	（参考）75歳以上
敦賀市	男性	70%	99%	82%	91%	66%	69%	98%	64%	84%	41%
	女性	69%	97%	50%	77%	26%					
美浜町	男性	73%	92%	87%	89%	76%	70%	95%	69%	83%	49%
	女性	67%	99%	55%	76%	33%					
若狭町	男性	90%	100%	84%	94%	71%	82%	100%	67%	85%	47%
	女性	75%	100%	54%	77%	32%					
小浜市	男性	74%	97%	83%	90%	69%	74%	97%	63%	83%	42%
	女性	74%	98%	49%	75%	26%					
おおい町	男性	81%	95%	86%	91%	73%	81%	98%	67%	85%	45%
	女性	81%	100%	53%	78%	30%					
高浜町	男性	72%	92%	79%	86%	65%	75%	95%	62%	81%	41%
	女性	79%	99%	48%	76%	24%					
嶺南計	男性	73%	97%	83%	90%	68%	72%	98%	65%	83%	43%
	女性	71%	98%	51%	76%	27%					

※「若者」「高齢者」は出典の表現の通り
※分母の人口は実数値ではなく推計人口であるため、運転免許保有率が 100%となる場合がある

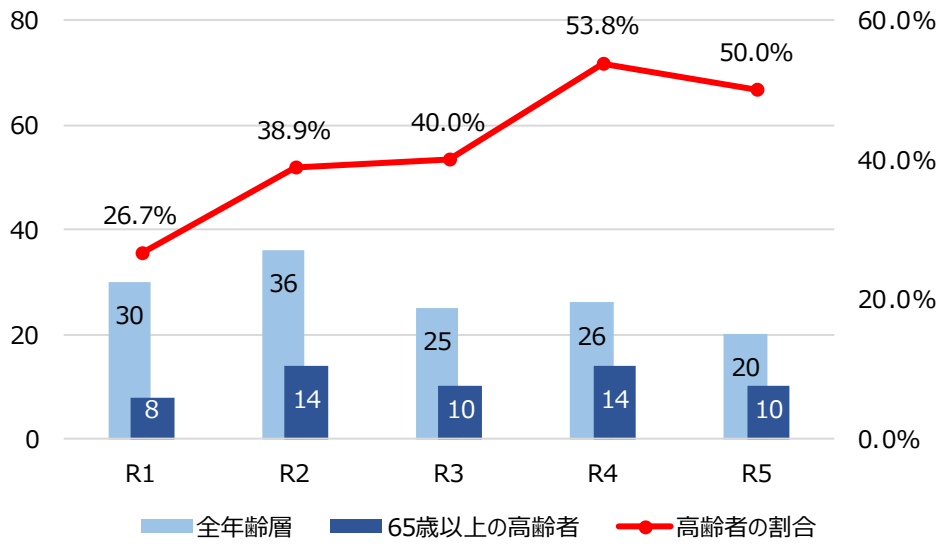
出典：福井県オープンデータ、福井県警



出典：福井県警

（３）事故の発生状況

運転手に起因する死亡事故に占める高齢者割合の推移（福井県）

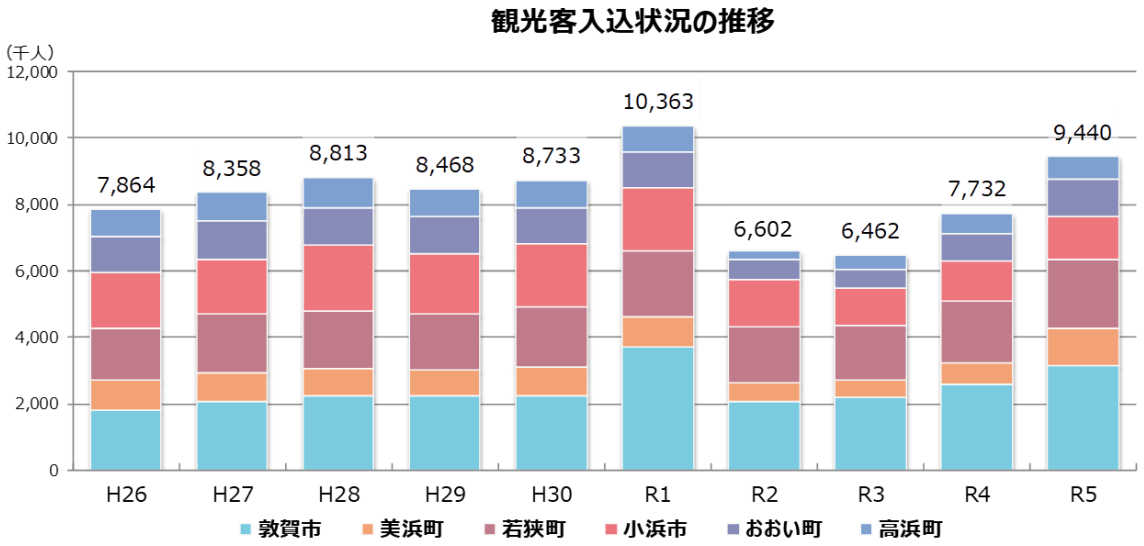


高齢者の割合（R1～R5 の平均）：40.9%

出典：第 11 次福井県交通安全計画、福井県警資料をもとに作成

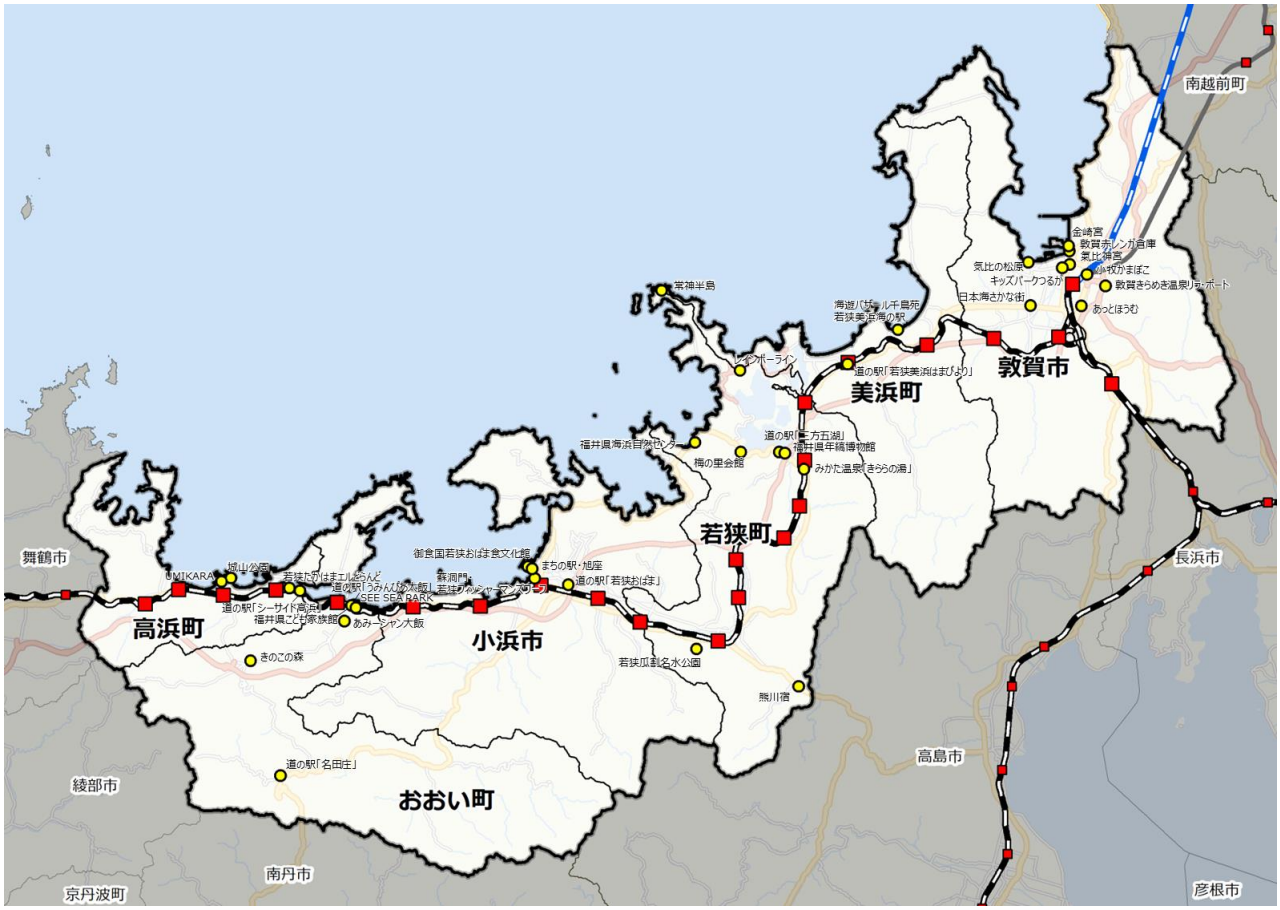
5．観光の状況

（1）観光全般について



出典：福井県観光入込数（推計）

主要観光地の立地状況



出典：令和５年福井県観光入込数（推計）に記載の観光地

主要観光地の入込客数の推移

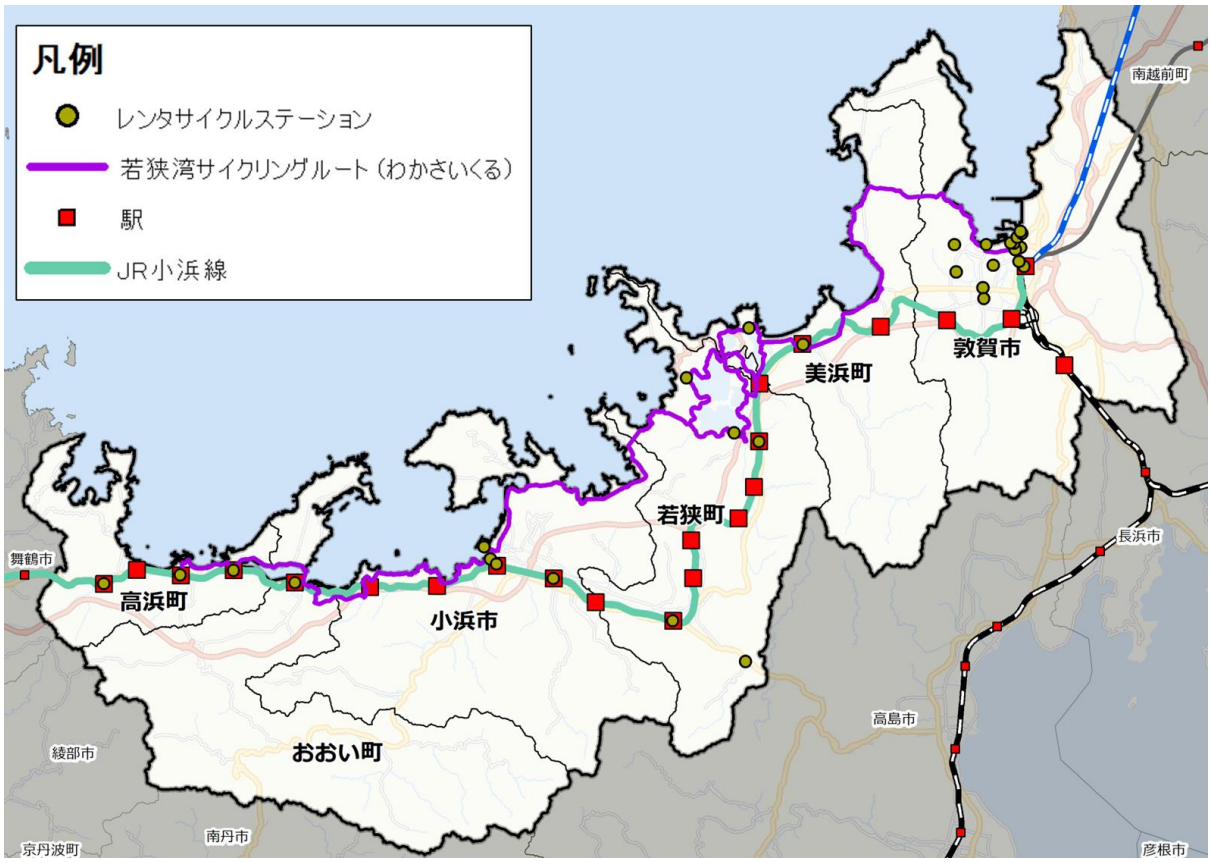
単位：千人

市町	主要観光地	R1	R2	R3	R4	R5
敦賀市	日本海さかな街	1,300	850	880	1,000	1,080
	氣比神宮	745	557	575	692	817
	金崎宮	127	90	96	129	129
	敦賀赤レンガ倉庫	150	89	92	110	104
	あっとほうむ	165	74	113	107	116
	気比の松原(海水浴を除く)	101	86	129	99	101
	敦賀きらめき温泉リラ・ポート	75	7	-	98	156
	小牧かまぼこ	77	42	21	56	87
	キッズパークつるが	51	17	20	19	35
美浜町	道の駅「若狭美浜はまびより」	-	-	-	-	288
	海遊バザール千鳥苑 若狭美浜海の駅	127	37	13	28	70
美浜町・若狭町	レインボーライン	371	378	340	378	446
若狭町	熊川宿	465	386	384	493	554
	道の駅「三方五湖」	257	231	236	244	243
	常神半島	229	220	189	211	231
	福井県海浜自然センター	130	103	104	120	119
	梅の里会館	108	91	81	88	136
	若狭瓜割名水公園	112	84	81	85	92
	みかた温泉「きららの湯」	99	63	67	68	76
	福井県年縞博物館	59	44	39	40	44
小浜市	道の駅「若狭おばま」	582	463	427	386	362
	蘇洞門・若狭フィッシャーマンズワーフ	457	521	329	320	332
	御食国若狭おばま食文化館	189	72	62	76	136
	まちの駅・旭座	139	64	59	65	82
	国宝めぐり	69	48	44	47	45
	若狭塗箸施設	66	30	19	27	43
おおい町	道の駅「うみんぴあ大飯」	307	236	225	266	284
	道の駅「名田庄」	125	99	82	76	79
	あみーシャン大飯	98	51	57	66	98
	福井県こども家族館	253	49	36	58	156
	きのこの森	58	32	40	46	38
	SEE SEA PARK	-	-	-	162	316
高浜町	道の駅「シーサイド高浜」	275	150	116	144	154
	ＵＭＩＫＡＲＡ	-	-	75	126	122
	若狭高浜エルどらんど	104	8	55	54	53
	城山公園	52	25	29	30	34

出典：福井県観光入込数（推計）

（２）サイクリングルート

若狭湾サイクリングルート、レンタサイクルステーションの立地状況



嶺南地域のレンタサイクルステーション

市町	レンタサイクルステーション	市町	レンタサイクルステーション
敦賀市	敦賀駅	美浜町	美浜町レイクセンター
	白銀交差点		美浜駅
	気比神宮前	若狭町	三方駅
	キッズパークつるが		道の駅 三方五湖
	敦賀市立博物館		湖上館PAMCO
	おさかな通り		上中駅
	きらめきみなと館		若狭鯖街道熊川宿資料館(宿場館)
	敦賀赤レンガ倉庫	小浜市	御食国若狭おばま食文化館
	人道の港敦賀ムゼウム		小浜市まちの駅・旭座
	気比の松原		東小浜駅
	日本海さかな街		小浜駅
	敦賀市役所	おおい町	若狭本郷駅
	柴田氏庭園	高浜町	若狭和田駅
	敦賀市総合運動公園		若狭高浜駅
	西福寺		青郷駅

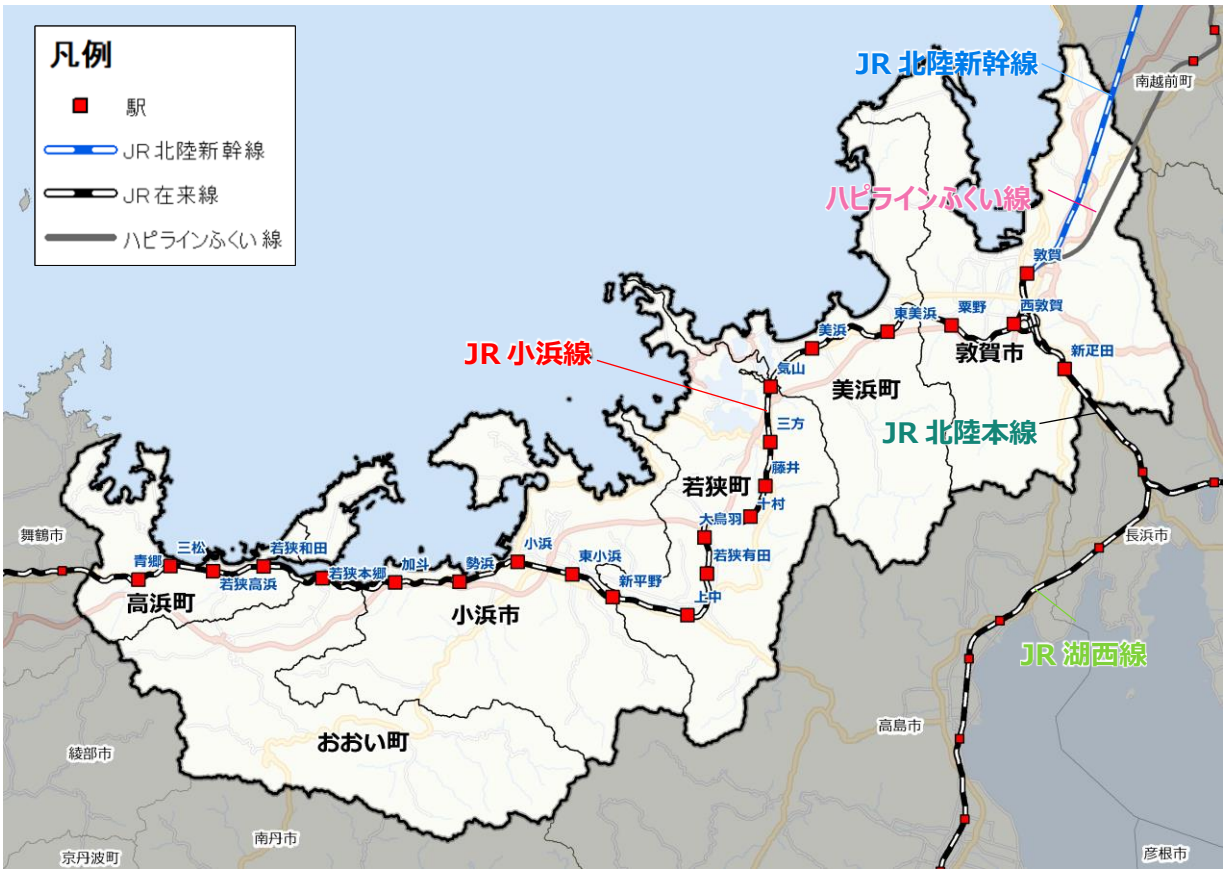
出典：福井県観光連盟「若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）」

Ⅱ　嶺南地域の公共交通の現況

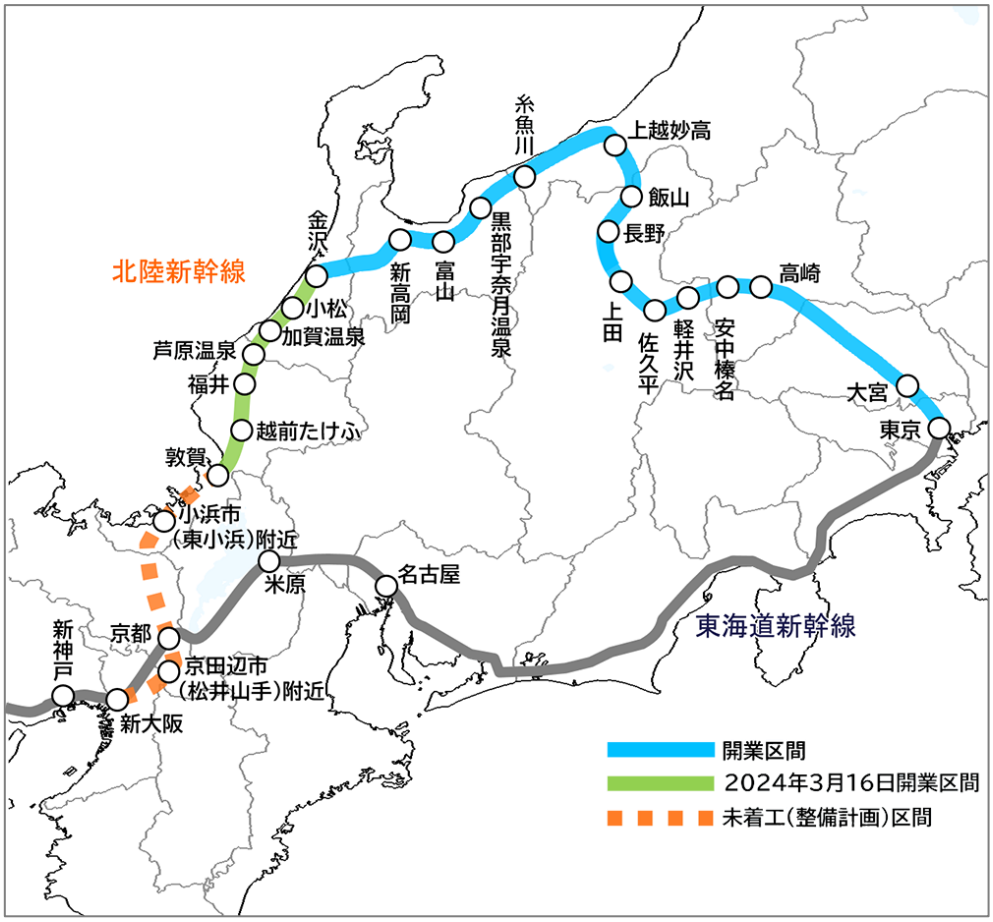
1．鉄道

（1）鉄道のネットワーク

鉄道ネットワーク

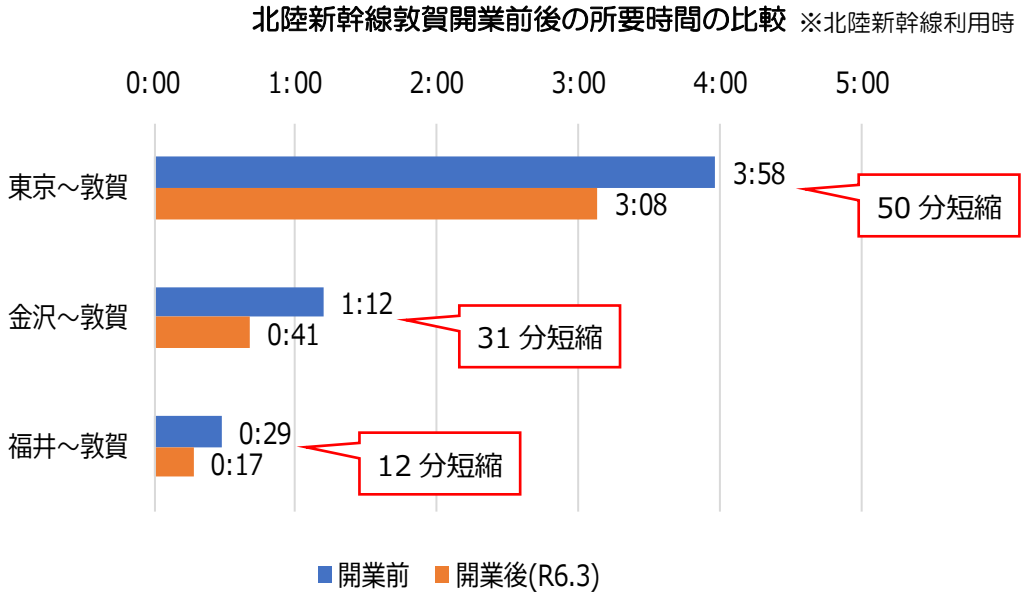


（２）北陸新幹線敦賀開業の効果



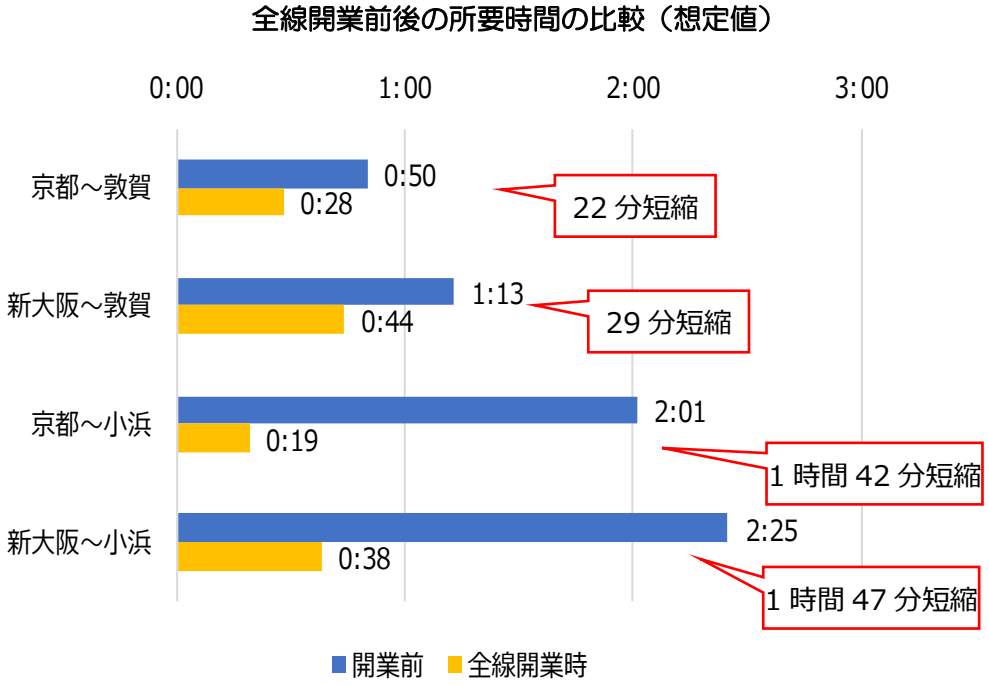
出典：北陸新幹線建設促進同盟会 HP

〇北陸新幹線敦賀開業前と令和６年３月時点の所要時間の比較



出典：JR 西日本プレスリリース、時刻表

〇北陸新幹線敦賀開業前と全線開業時の所要時間の比較（想定値）



出典：福井県資料

（3）小浜線の駅の構造・バリアフリーの状況

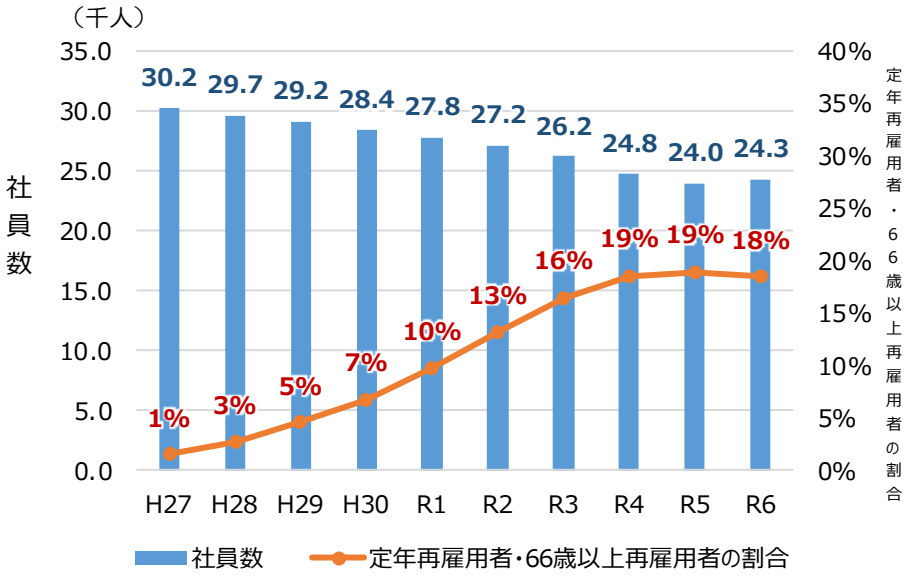
駅	東舞鶴	松尾寺	青郷	三松	若狭高浜	若狭和田	若狭本郷	加斗	勢浜	小浜	東小浜	新平野	上中	若狭有田	大鳥羽	十村	藤井	三方	気山	美浜	東美浜	粟野	西敦賀	敦賀
折り返し施設	○				○					○														○
行き違い施設	○				○		○			○			○			○				○		○		○
昇降設備	EV エスカレータ				昇降機		×			昇降機			EV							×				EV エスカレータ
スロープ		×	○	○	○	○	○	○	×		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	×	
車いす用トイレ	○	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	○
車いす乗り入れ	○	×	○	○	○	○	△ 東舞鶴方面のみ	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△ 東舞鶴方面のみ	○	○	×	○
所在地	舞鶴市		高浜町				おおい町	小浜市					若狭町							美浜町		敦賀市		

※斜線は構造上必要ないもの

出典：小浜線利用ガイドブックを基に作成（R6.3 時点）

（4）鉄道会社の社員数と定年再雇用者等の割合の推移

JR 西日本の社員数と定年再雇用者・66 歳以上再雇用者の割合の推移



※各年４月１日の数値

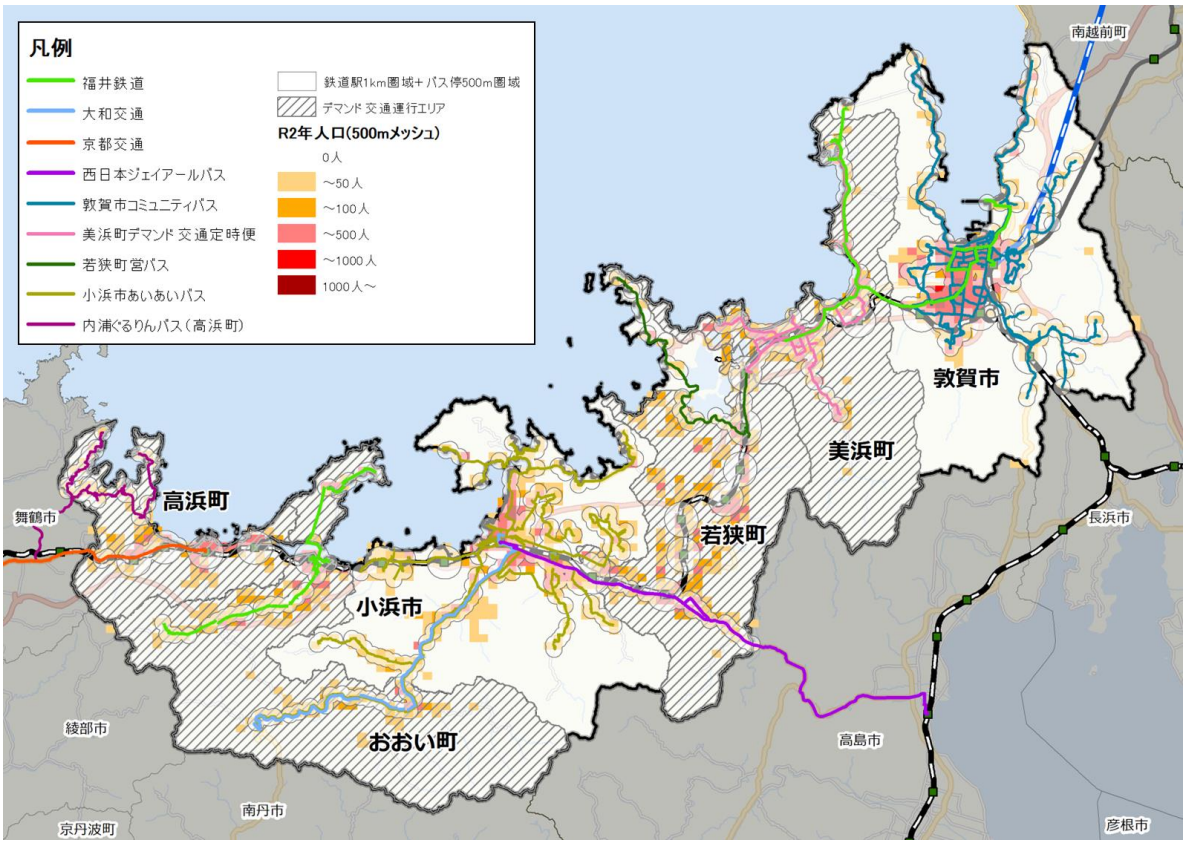
出典：JR 西日本 HP

2．バス等

（1）嶺南地域を運行するバス等一覧

区分	事業主体	路線名・運行区間		運行方法
路線バス	福井鉄道㈱	若狭線	敦賀駅～美浜農協前～美浜駅前	定時定路線
		菅浜線	敦賀駅～北田口・関電事務所～白木	定時定路線
		本郷線（おおい町内のみ運行）	おおい町役場前～万願寺～子生谷	定時定路線
		大島線（おおい町内のみ運行）	大飯中学校～日角浜～塩浜海水浴場	定時定路線
	大和交通㈱	名田庄線	流星館～井上・谷口～小浜第二中	定時定路線
	京都交通㈱	高浜線	東舞鶴駅前～松尾寺駅前～高浜駅前	定時定路線
	西日本ジェイアールバス㈱	若江線	近江今津駅～上中～小浜駅	定時定路線
コミュニティバス等	敦賀市	東浦線	元比田～敦賀駅	定時定路線（一部デマンド）
		常宮線	立石～敦賀駅	定時定路線
		中央線	沓見（一部運動公園東止まり）～敦賀駅	定時定路線
		金山線	国立病院～敦賀駅	定時定路線
		松原線	松葉町（一部沓見）～敦賀駅	定時定路線
		中郷木崎線	松葉町～敦賀駅	定時定路線
		粟野沓見線	敦賀駅～運動公園西口	定時定路線
		山公文名線	山～敦賀駅（粟野中学校前経由）、山～敦賀駅（公文名経由）	定時定路線
		温泉線	昼ヶ丘先回り リラ・ポート先回り	定時定路線
		東郷線	敦賀駅～新保	デマンド
		愛発線	杉箸～敦賀駅 （駄口～愛発公民館）	定時定路線（一部デマンド）
		ぐるっと敦賀周遊バス	観光ルート、ショッピングルート	定時定路線
	美浜町	ブルースカイ（丹生線）	丹生～美方病院	定時定路線（一部デマンド）
		ゆうなぎ（日向線）	新庄～美方病院	定時定路線（一部デマンド）
		やまびこ（新庄線）	日向～美方病院	定時定路線（一部デマンド）
		チョイソコみはま（R5.6月～）	町内全域	デマンド
	若狭町	常神・三方線	レイクヒルズ美方病院～常神	定時定路線（一部デマンド）
		わくわくタクシー	上記沿線を除く町内	デマンド
	小浜市	小屋・須縄線	小浜二中～小屋	定時定路線
		小屋・谷田部線	小浜二中～道の駅	定時定路線
		小屋・谷口線	小屋～谷口	デマンド（日曜のみ）
		谷田部線	道の駅～谷田部	デマンド（日曜のみ）
		泊線	小浜駅～泊	定時定路線（日曜のみデマンド）
		田烏線	小浜駅～須ノ浦	定時定路線（日曜のみデマンド）
		宇久・西小川線	宇久～小浜駅	定時定路線（隔日）
		池河内線	池河内～小浜二中（一部道の駅）	定時定路線（日曜のみデマンド）
		宮川線	加茂～小浜駅	定時定路線（隔日）
		健康管理センター線	健康管理センター～小浜駅	定時定路線（隔日）
		下根来・今富線	長瀬～小浜駅	定時定路線（隔日）
		鯉川・加斗線	鯉川ふれあい会館前～ショッピングセンター前	定時定路線（隔日）
		太良庄・国富線	太良庄公会堂前～小浜駅	定時定路線（隔日）
	おおい町	うみりんスマイル	大飯地域（R3.4月～）	デマンド
			名田庄地域（R5.1月～）	デマンド
	高浜町	赤ふんバス	町内全域	デマンド
		内浦ぐるりんバス（R1.10月～）	内浦地区全域～舞鶴市内（東舞鶴エリア）	公共ライドシェア 定時定路線

嶺南地域の公共交通（鉄道、路線バス、コミュニティバス等）・カバー状況、人口



公共交通カバー人口

（百人）

市町	人口	鉄道・路線バス	鉄道・路線バス・コミバス	鉄道・路線バス・コミバス・デマンド	補足
敦賀市	640	402	624	630	一部路線でデマンド運行
美浜町	89	51	84	89	町内全域でデマンド運行
若狭町	139	84	95	139	コミバス運行エリア以外でデマンド運行
小浜市	285	139	275	275	一部路線の一部曜日でデマンド運行
おおい町	78	58	58	78	町内全域でデマンド運行
高浜町	98	78	83	98	町内全域でデマンド運行
総計	1,328	812	1,219	1,310	

公共交通カバー率

（百人）

市町	人口	鉄道・路線バス	鉄道・路線バス・コミバス	鉄道・路線バス・コミバス・デマンド	補足
敦賀市	640	63%	97%	99%	一部路線でデマンド運行
美浜町	89	58%	95%	100%	町内全域でデマンド運行
若狭町	139	60%	68%	100%	コミバス運行エリア以外でデマンド運行
小浜市	285	49%	96%	96%	一部路線の一部曜日でデマンド運行
おおい町	78	75%	75%	100%	町内全域でデマンド運行
高浜町	98	79%	85%	100%	町内全域でデマンド運行
総計	1,328	61%	92%	99%	

※鉄道・路線バス：鉄道駅 1km 圏域＋路線バスの停留所 500m 圏域
※鉄道・路線バス・コミバス：鉄道駅 1km 圏域＋路線バス・コミュニティバス（停留所が定まっている路線）の停留所 500m 圏域
※鉄道・路線バス・コミバス・デマンド：鉄道駅 1km 圏域＋路線バス・コミュニティバス・デマンド交通（停留所が定まっている路線）の停留所 500m 圏域＋デマンド交通のカバー圏域
※人口は地域メッシュより算出

出典：国勢調査、国土数値情報および福井県バス情報データ（GTFS-JP データ）を基に作成

（２）地域間幹線系統

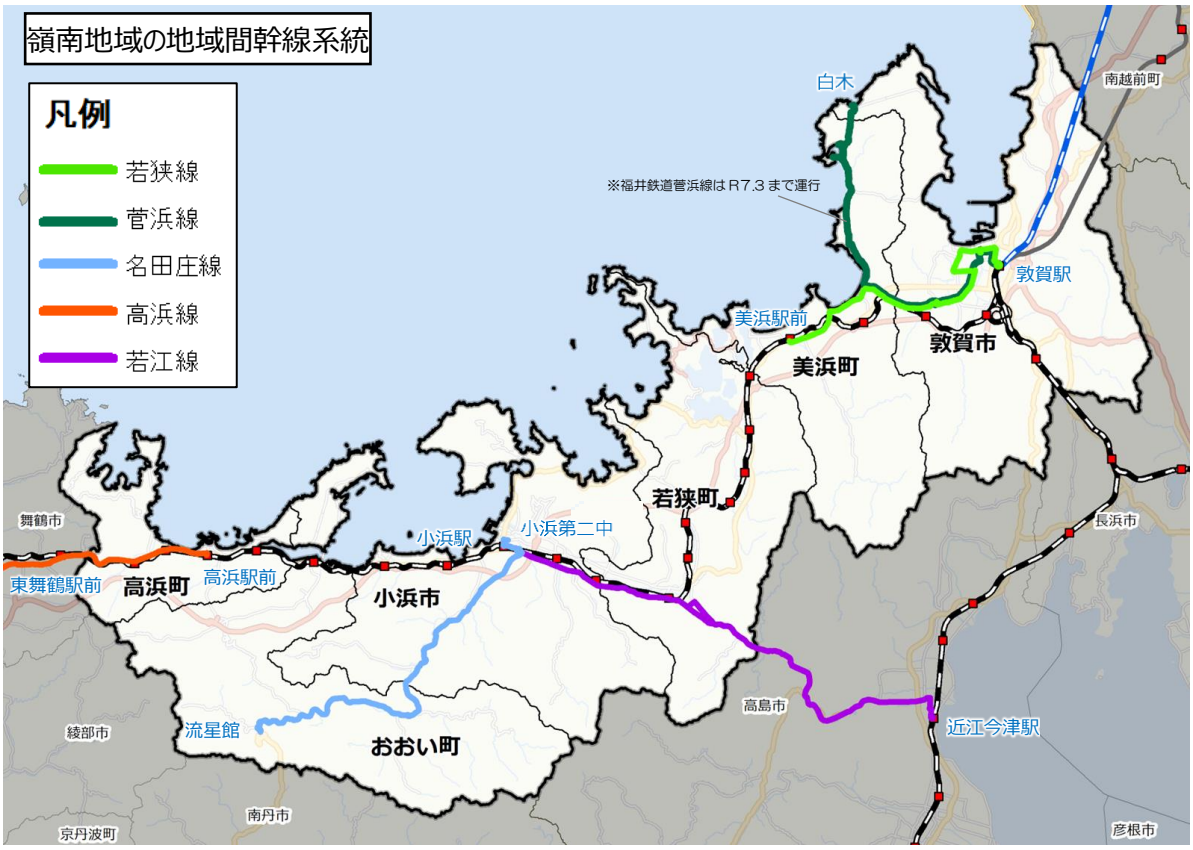
1)位置づけ・役割

実施主体	系統名	役割	確保･維持策
福井鉄道	若狭線	敦賀駅を発着地として、敦賀市内ならびに美浜町の各拠点を連絡する	地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用し、持続可能な運行を確保
福井鉄道	菅浜線※	敦賀駅を発着地として、敦賀市内ならびに美浜町の各拠点を連絡する	
大和交通	名田庄線	流星館を発着地として、おおい町内ならびに小浜市の各拠点を連絡する	
京都交通	高浜線	高浜駅前を発着地として、高浜町内ならびに舞鶴市の各拠点を連絡する	
西日本ジェイアールバス	若江線	小浜駅を発着地として、小浜市内ならびに若狭町、高島市の各拠点を連絡する	

※菅浜線は令和７年４月から若狭線に統合（代替路線を設定）

2)運行区間

番号	事業者	系統名	運行区間			関係市町
			起点	経由	終点	
1	福井鉄道	若狭線	敦賀駅	美浜農協前	美浜駅前	敦賀市、美浜町
2	福井鉄道	菅浜線	敦賀駅	北田口･関電事務所	白木	敦賀市、美浜町
3	大和交通	名田庄線	流星館	井上・谷口	小浜第二中	小浜市、おおい町
4	京都交通	高浜線	東舞鶴駅前	松尾寺駅前	高浜駅前	高浜町、舞鶴市
5	西日本ジェイアールバス	若江線	近江今津駅	仮屋	小浜駅	小浜市、若狭町、高島市



3)各系統の実績輸送量・経常収支率の推移

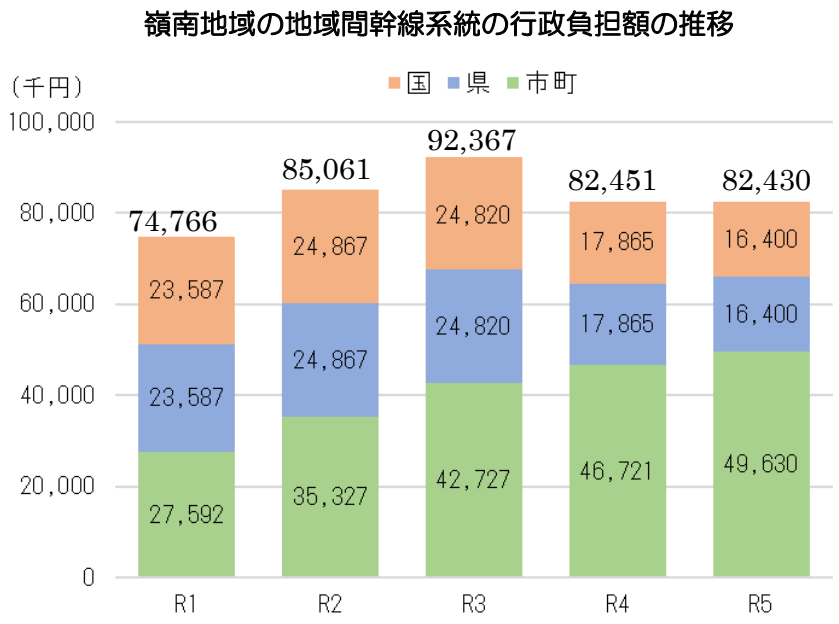
系統	事業者	路線名	実輸送量（人）						経常収支率（%）					
			R1	R2	R3	R4	R5	R6	R1	R2	R3	R4	R5	R6
地域間幹線系統	福井鉄道	**若狭線**	16.9	12.7	10.0	11.1	10.0	10.6	41%	33%	26%	27%	24%	25%
		菅浜線	15.5	11.2	8.0	4.5	6.3	7.0	41%	29%	22%	14%	17%	17%
	大和交通	**名田庄線**	24.0	18.0	20.0	19.0	20.0	18.0	37%	27%	29%	28%	28%	24%
	京都交通	**高浜線**	15.1	12.8	15.1	15.1	15.1	15.1	49%	40%	53%	48%	47%	44%
	西日本ジェイアールバス	**若江線**	61.1	38.7	29.9	39.9	54.1	44.5	52%	37%	32%	35%	36%	32%

※青色は 15 人未満　　※青色は３０%未満

出典：各社資料

本数字はバス事業年度（前年 10 月から９月）

4)地域間幹線系統の行政負担額の推移



出典：福井県資料

本数字はバス事業年度（前年 10 月から９月）

5)地域間幹線系統の必要性

〇若狭線

主に通勤、通学、通院において、敦賀市と美浜町をまたいだ利用が多くみられ、地域住民の日常的な交通手段となっています。特に、学生や高齢者など自動車を運転できない方にとって必要なバス路線です。一方で、事業者や自治体の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要があります。

〇名田庄線

名田庄地区から小浜市内に通学する中高生の通学手段や高齢者の移動手段として重要な交通手段であり、運行を維持継続していく必要があります。一方で、事業者や自治体の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要があります。

〇高浜線

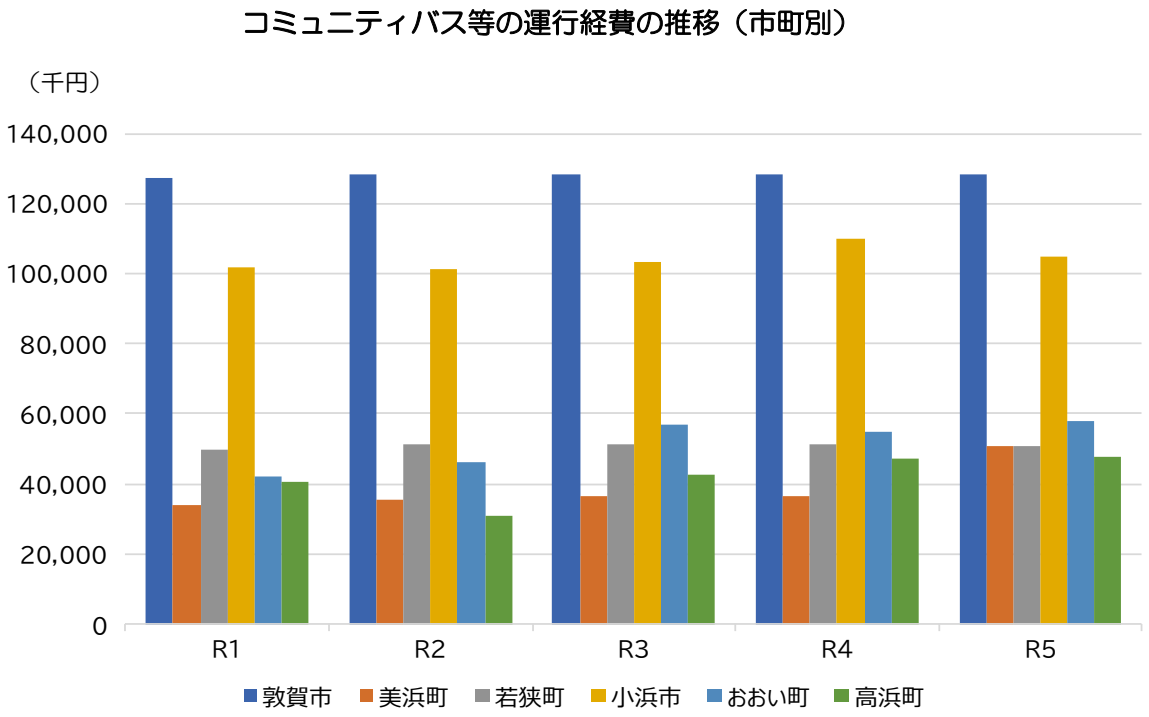
高浜町と舞鶴市は生活圏が同一であり、特に医療機関と買物施設は舞鶴市に集中しており、当路線は地域住民の生活に欠かせない存在となっています。自動車を運転できない学生や高齢者にとって必要なバス路線であり、維持していく必要があります。一方で、事業者や自治体の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要があります。

〇若江線

若狭と関西圏を繋ぐ広域路線であり、通勤・通学や高齢者等の通院、さらには観光利用と幅広く利用されています。また御食国、鯖街道に係る観光事業等にも当該路線を活用しており、地域住民の利用と観光客の利用が融合された路線であり、県境を越える広域の移動手段として今後も重要です。一方で、事業者や自治体の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要があります。

（3）コミュニティバス等

1)コミュニティバス等の運行経費



（千円）

	R1	R2	R3	R4	R5
敦賀市	127,337	128,505	128,505	128,505	128,505
美浜町	34,140	35,350	36,480	36,456	50,756
若狭町	49,818	51,119	51,404	51,118	50,816
小浜市	101,920	101,217	103,131	109,735	105,022
おおい町	42,308	46,183	57,132	54,655	57,664
高浜町	40,748	30,674	42,449	47,355	47,563
合計	396,271	393,048	419,101	427,825	440,326

出典：各市町資料

2)デマンド交通と自家用有償旅客運送の状況

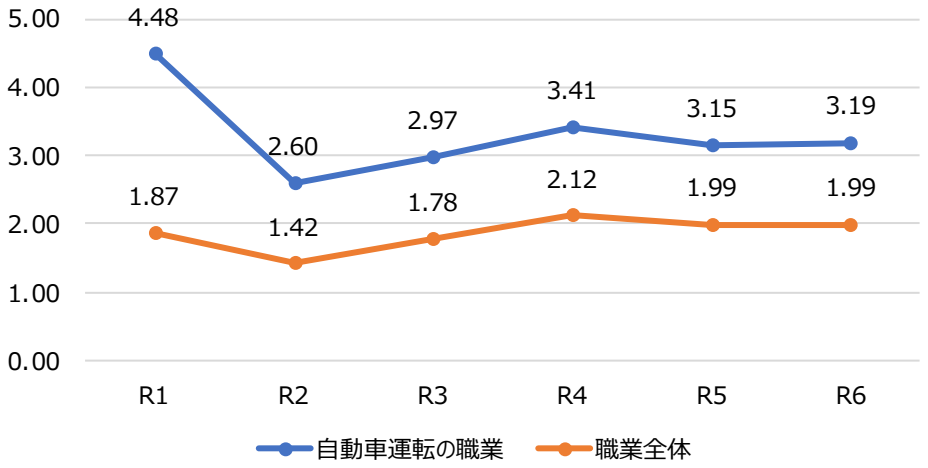
（千人）

	路線名・運行区間		運行方法(R6 時点)		利用客数（路線の合算）				
					R1	R2	R3	R4	R5
敦賀市	東浦線	元比田～敦賀駅	定時定路線（一部デマンド）	定時便は毎日運行 デマンドは月～金に運行	23.9	20.0	22.3	22.5	22.3
	愛発線	杉箸～敦賀駅（駄口～愛発公民館）	定時定路線（一部デマンド）	定時便は毎日運行 デマンドは月～土に運行	16.6	14.0	13.0	13.6	15.0
	東郷線	敦賀駅～新保	デマンド	月～土に運行	2.6	2.0	2.2	2.0	2.2
美浜町	ブルースカイ（丹生線）	丹生～美方病院	定時定路線（一部デマンド）	R5 までは定時便・デマンドともに毎日運行 R6 の定時便は月～金に運行。デマンドはチョイソコみはまへ移行	4.2	2.6	2.6	2.3	0.8
	ゆうなぎ（日向線）	新庄～美方病院	定時定路線（一部デマンド）		4.2	2.6	2.8	2.9	1.2
	やまびこ（新庄線）	日向～美方病院	定時定路線（一部デマンド）		2.5	2.2	2.6	3.3	1.3
	チョイソコみはま（R5.6 月～）	町内全域	デマンド	毎日運行					7.8
若狭町	常神・三方線	レイクヒルズ美方病院～常神	定時定路線（一部デマンド）	定時便は毎日運行 デマンドは月～金に運行	17.7	14.8	17.9	18.3	16.7
	わくわくタクシー	上記沿線を除く町内	デマンド	月～金に運行	8.9	7.6	7.5	9.0	7.5
小浜市	小屋・谷口線	小屋～谷口	デマンド（日曜のみ）	定時便は月～土に運行 一部区間は日曜日のみデマンドで運行	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	谷田部線	道の駅～谷田部	デマンド（日曜のみ）	定時便は月～土に運行 一部区間は日曜日のみデマンドで運行	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	泊線	小浜駅～泊	定時定路線（日曜のみデマンド）	定時便は月～土に運行 デマンドは日曜日に運行	14.5	13.5	11.9	11.9	12.4
	田烏線	小浜駅～須ノ浦	定時定路線（日曜のみデマンド）	定時便は月～土に運行 デマンドは日曜日に運行	15.2	12.8	11.4	11.0	12.8
	池河内線	池河内～小浜二中（一部道の駅）	定時定路線（日曜のみデマンド）	定時便は月～土に運行 デマンドは日曜日に運行	15.1	16.1	15.7	16.6	17.7
おおい町	うみりんスマイル	大飯地域（R3.4 月～）	デマンド	月～金に運行			3.7	6.7	7.4
		名田庄地域（R5.1 月～）	デマンド	月～金に運行				0.1	1.6
高浜町	赤ふんバス	町内全域	デマンド	毎日運行	17.9	18.2	20.4	21.5	22.7
	内浦ぐるりんバス（R1.10 月～）	内浦地区全域～舞鶴市内（東舞鶴エリア）	定時定路線（自家用有償旅客運送）	月・水・金と木・土で別ルートを運行	0.8	1.1	1.6	1.4	1.4

出典：各市町資料

（４）バス運転士等の採用者数と離職者数の推移等

自動車運転の職業の有効求人倍率の推移（正社員、福井県）



※各年７月の数値で、自動車運転の職業の数値（タクシー、貨物輸送を含む）

出典：福井労働局

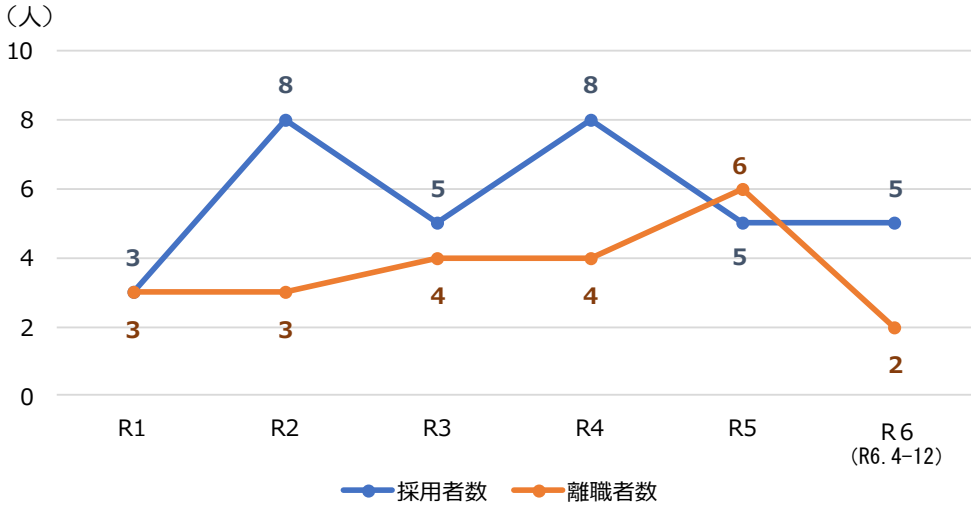
嶺南地域のバス事業者の従業員の充足状況・平均年齢（R6.4.1 時点）

	定員（人）	実人数（人）	充足率（%）	平均年齢（歳）
バス運転士（乗合）	30	27	90%	59.6
バス運転士（貸切）	7	6	86%	64.0
事務職員	23	23	100%	57.3

※福鉄バス（嶺南営業所）と大和交通の合算

出典：福井県資料

嶺南地域のバス事業者の採用者数と離職者数の推移（R6.12時点）



※福鉄バス（嶺南営業所）と大和交通の合算

出典：福井県資料

3．公共交通に関する取組み状況

（1）公共交通の利用促進に向けた取組み事例

取組内容	敦賀市	美浜町	若狭町	小浜市	おおい町	高浜町
地域住民を対象としたモビリティ・マネジメント	私の時刻表の発行	ホームページでの利用の呼びかけ	公共交通の乗り方のチラシ配布	広報誌での利用の呼びかけ	町のメール配信システムでの運行情報発信	地域住民向けイベントの開催
児童・生徒を対象としたモビリティ・マネジメント	通学時の利用の呼びかけ	お試し乗車券の配布	－	乗車マナー訓練の実施	団体列車等の補助のチラシ配布	－
事業所を対象としたモビリティ・マネジメント	－	通勤時の利用の呼びかけ	－	地元企業への小浜線利用の呼びかけ	カーセーブ運動の啓発	－
住民が主体となった活動組織の育成	－	－	駅の美化活動	ボランティア活動の支援	駅やバス停の美化活動	駅の花壇やプランターの整備

（2）北陸新幹線敦賀開業に向けた取組み事例

〇新幹線駅の整備(敦賀駅)

駅舎東側外観

出典：福井県公式観光サイト　ふくいドットコム HP

駅舎内デジタルサイネージ

出典：嶺南広域行政組合 HP

〇駅周辺施設の整備

道の駅「若狭美浜はまびより」（美浜町）

出典：美浜町 HP

三方五湖エリアを運行するゴコイチバス

出典：福井県 HP

〇周遊キャンペーンの実施

青々吉日 TSURUGA WAKASA デジタルスタンプラリー

出典：青々吉日 HP

Ⅲ　各種調査結果

１．ＪＲ小浜線利用客ＯＤ調査（平日の利用状況）

《調査の概要》

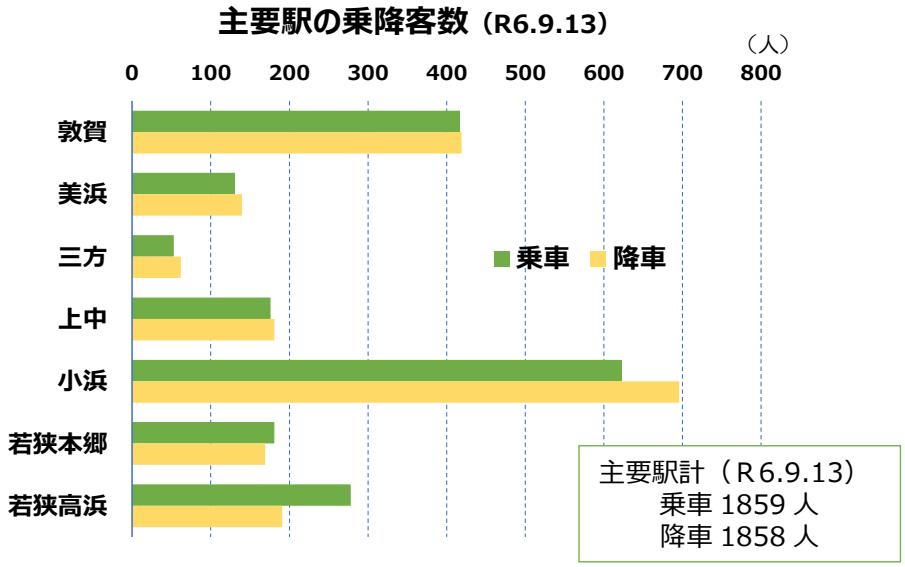
■調査日：　令和６年９月13日(金)

■調査対象：　小浜線の主要駅(敦賀、美浜、三方、上中、小浜、若狭本郷、若狭高浜)の、全便の利用客

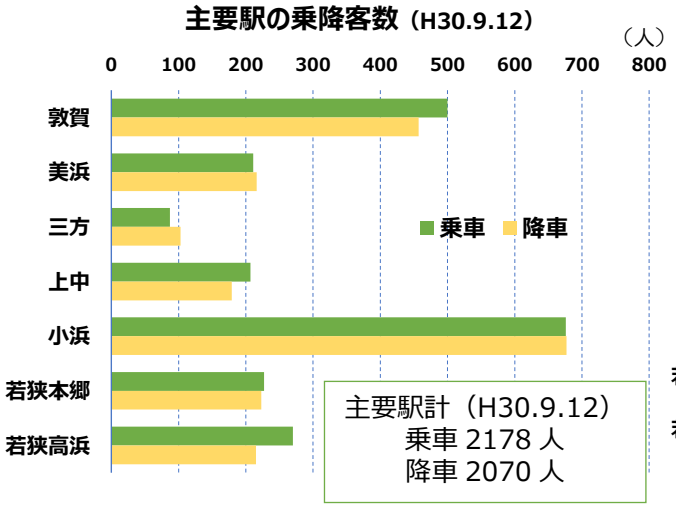
■調査内容：　主要駅のホーム・車内で調査(乗降客数カウントおよび調査カード配布)

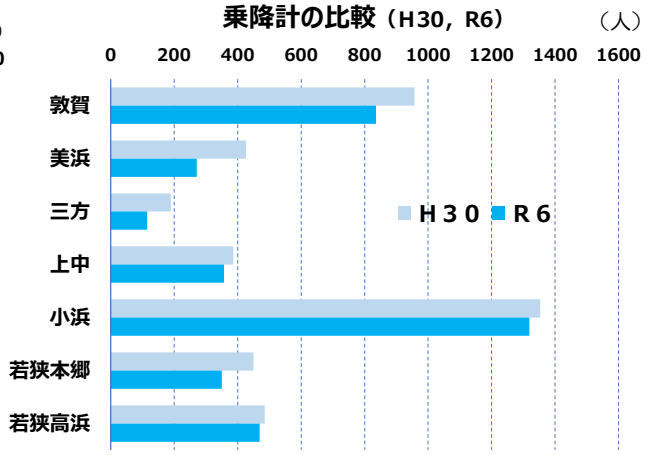
（調査実施：八千代エンジニヤリング(株)）

《調査結果》



（過年度（H30 調査時）との比較）





（小浜線主要駅の利用客の状況）

＊以降、四捨五入しているため合計が 100%にならない場合があります。また四捨五入の結果、0%となっている場合があります。

・年代

［回答数＝1,221］

	割合
小学生以下	0%
中高生	53%
18~39歳	19%
40~64歳	19%
65~74歳	4%
75歳~	5%

・利用当日の外出目的

［回答数＝1,221］

	割合
通勤・通学	67%
買い物	1%
通院	2%
観光・遊び	9%
仕事	13%
その他	8%

・居住地

［回答数＝1,219］

	割合
敦賀市	10%
美浜町	9%
若狭町	25%
小浜市	15%
おおい町	8%
高浜町	17%
上記以外の県内市町	2%
舞鶴市	1%
関西（舞鶴市以外）	4%
石川県・富山県	1%
新潟県・長野県	0%
その他	8%

・小浜線乗車前後の移動手段

［回答数＝1,212］

乗車前	割合
鉄道(新幹線)	5%
鉄道(その他)	7%
路線バス	3%
市町のコミュニティバス・乗り合いタクシー等	1%
タクシー	2%
クルマ(自分の運転)	6%
家族・知人の送迎・同乗	21%
自転車	22%
その他(徒歩など)	32%

［回答数＝1,210］

乗車後	割合
鉄道(新幹線)	2%
鉄道(その他)	6%
路線バス	3%
市町のコミュニティバス・乗り合いタクシー等	1%
タクシー	2%
クルマ(自分の運転)	4%
家族・知人の送迎・同乗	14%
自転車	15%
その他(徒歩など)	52%

＊**クルマ**：本調査では、マイカー（自家用車）、レンタカー、社有車など、公共交通ではない自動車の総称として、「クルマ」と記述しています。

2．嶺南地域居住者へのアンケート

《調査の概要》

■調査対象：　嶺南地域の各市町の居住者 2000 人（16 歳以上を無作為抽出）

敦賀市　350 人、 美浜町　325 人、 若狭町　325 人

小浜市　350 人、 おおい町　325 人、 高浜町　325 人

＊ただし 1 通につき、2 票のアンケート票を同封

■調査方法：　郵送配布･郵送回収

■調査期間：　令和 6 年 9 月～10 月

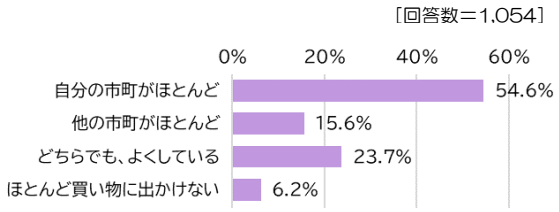
■回答者数：　1086 人

（調査実施：八千代エンジニヤリング（株））

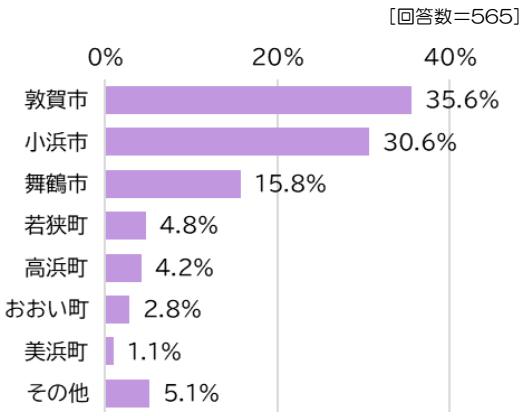
《調査結果》

（外出先の状況）

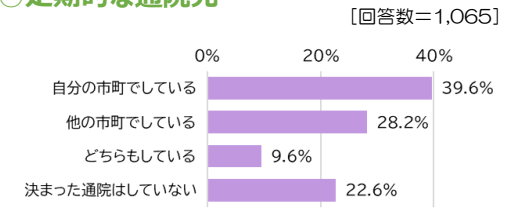
○普段の買い物先



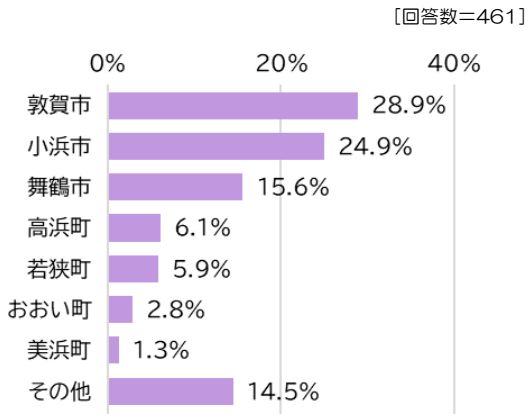
○左記のうち、他市町への買い物先



○定期的な通院先



○左記のうち、他市町への通院先

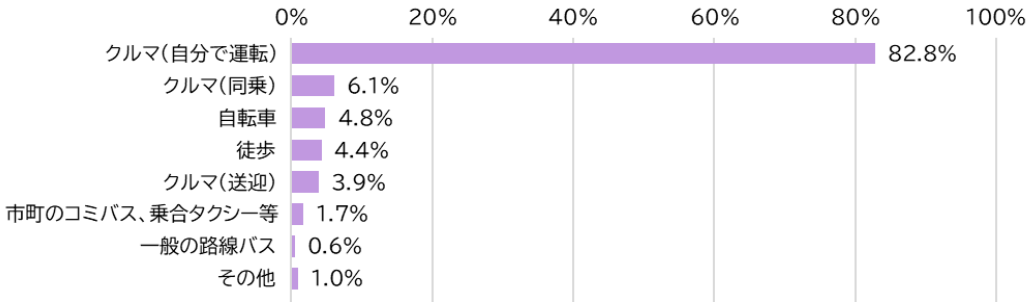


（外出の際の移動手段）

○普段の買い物

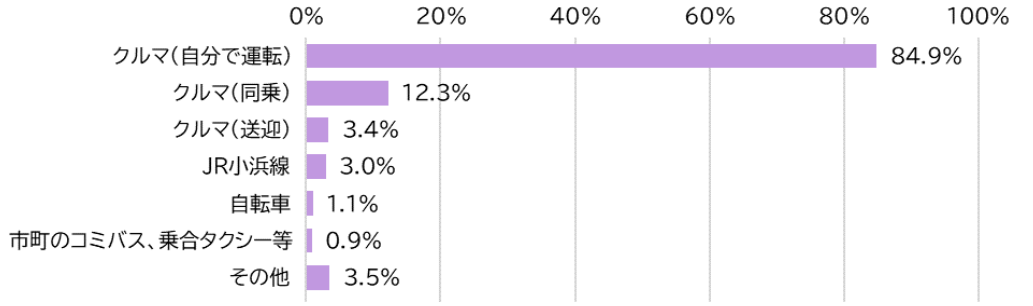
（市町内）

［回答数＝868］



（市町外）

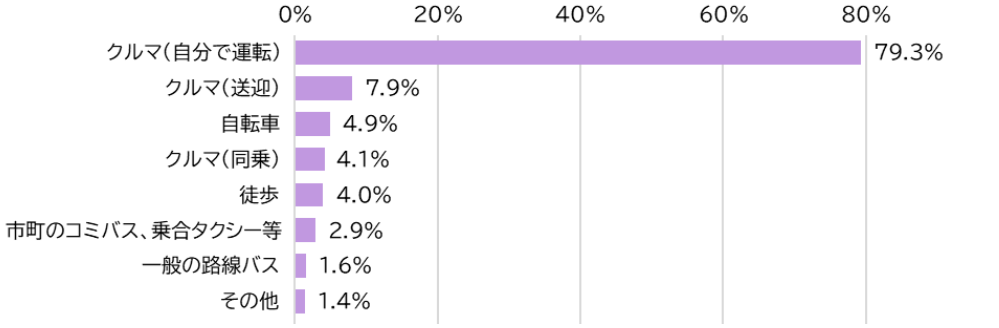
［回答数＝536］



○定期的な通院

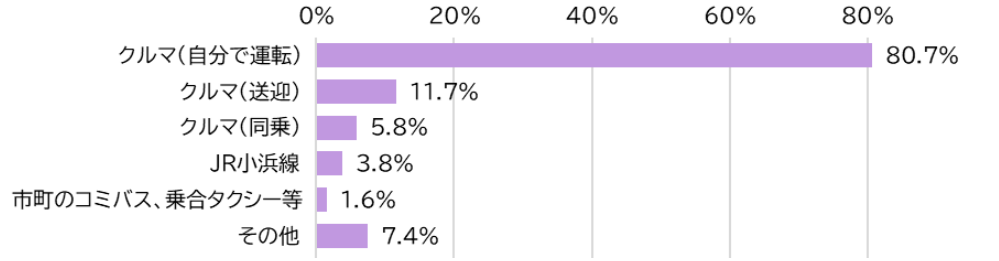
（市町内）

［回答数＝629］

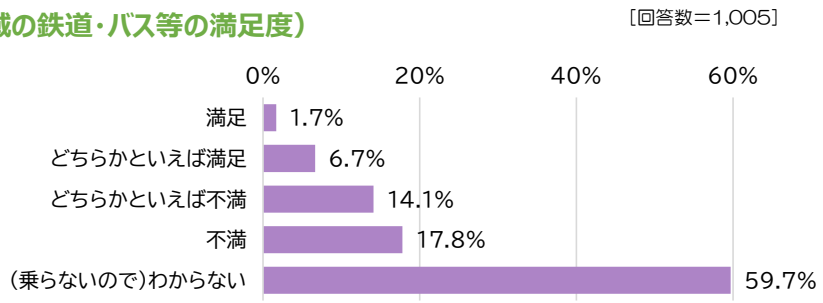


（市町外）

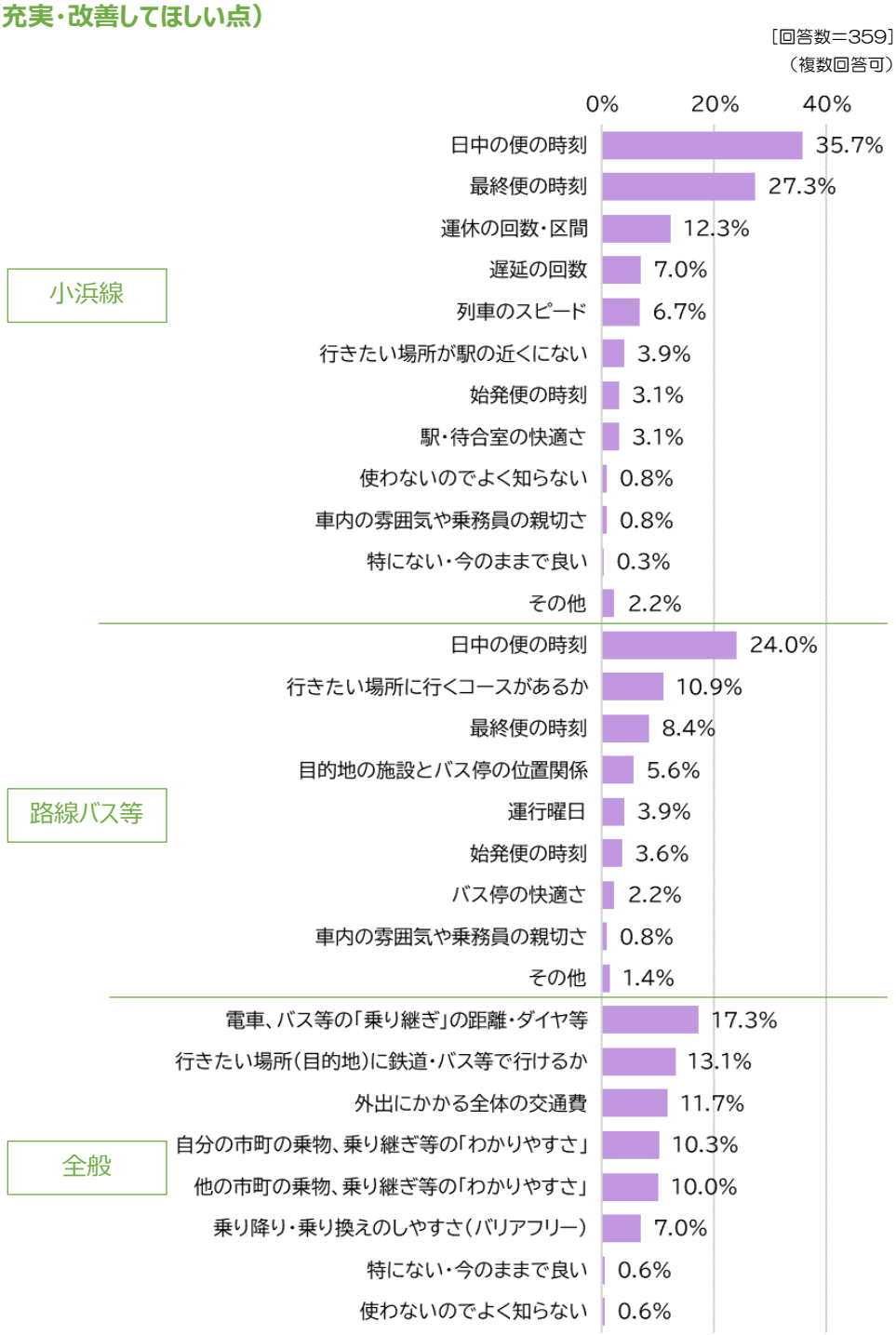
［回答数＝445］



（嶺南地域の鉄道・バス等の満足度）



（充実・改善してほしい点）



Ⅳ　前計画期間における取組み・成果

＜前計画期間（令和２年度～令和６年度）の主な取組み・成果＞

事業１　公共交通の利便性向上
○小浜線や路線バスの運行維持 ○公共交通不便地域における移動手段の確保 　例）デマンド交通の運行（チョイソコみはま、わくわくタクシー、うみりんスマイル号、赤ふんバス） 　例）公共ライドシェアの運行（内浦ぐるりんバス） ○バスへの交通系 IC カードの導入 ○タクシーへの配車アプリおよびキャッシュレス決済の導入

事業２　まちづくりと連携した施策の展開
○新幹線駅周辺の整備や各市町の拠点施設を整備 　例）新幹線敦賀駅、道の駅若狭美浜はまびより ○駅舎の改修や駅舎内の設備整備 　例）小浜駅の待合室リニューアル

事業３　公共交通サービス情報の充実
○鉄道駅や道の駅へのデジタルサイネージの設置 ○観光型 MaaS「tabiwa」の導入 ○経路検索システムへのバス情報の掲載

事業４　観光周遊手段の提供
○観光スポットを周遊する広域バスの運行 　例）ゴコイチバス、クマゴコバス、若狭メモリーライナー ○嶺南地域への誘客に資する観光列車やイベント列車の運行 　例）観光列車「はなあかり」 ○北陸新幹線敦賀開業にあわせた小浜線のダイヤ見直しや臨時便の設定

事業５　公共交通利用を促進する意識の醸成
○地域住民向けのマイ時刻表の配布やイベントの実施 ○学校での乗り方教室の開催や事業所への公共交通利用の呼びかけ ○小浜線やバス利用時の運賃の助成などを実施

V　各市町における関連計画等

＜県・各市町等における上位関連計画等＞

	計画等の名称	策定年月 （下段：計画期間または目標年次）
福井県	福井県長期ビジョン	令和２年７月 （令和 22 年目標）
	福井県都市計画マスタープラン	平成 26 年２月改定
	ネクストふくい観光ビジョン	令和７年３月策定予定
	福井県高速交通開通アクション・プログラム	令和５年３月改定
	嶺南Ｅコースト計画	令和２年３月 （期間：令和２年度～令和 11 年度）
	ふくい共生社会実現プラン ～第７次　福井県障がい者福祉計画～	令和５年３月 （期間：令和５年度～令和９年度）
	福井県環境基本計画	令和５年３月改定 （期間：令和５年度～令和９年度）
	嶺北地域公共交通計画	令和６年１月改定 （期間：令和６年度～令和 10 年度）
敦賀市	第８次敦賀市総合計画（地方版総合戦略）	令和６年３月 （期間：令和６年度～令和 10 年度）
	敦賀市都市計画マスタープラン	令和３年７月 （令和 22 年目標）
	敦賀市立地適正化計画	平成 31 年３月 （令和 17 年目標）
	敦賀市観光振興計画	令和５年３月 （期間：令和５年度～令和７年度）
	第５期敦賀市地域福祉計画 「福祉つるが　ぬくもりプラン」	令和７年３月策定予定
	第３次敦賀市環境基本計画	令和５年３月 （期間：令和５年度～令和 14 年度）
	敦賀市地域公共交通計画	令和７年３月策定予定

	計画等の名称	策定年月 （下段：計画期間または目標年次）
美浜町	第五次美浜町総合振興計画	平成 28 年 3 月 （期間：平成 28 年度～令和 7 年度）
	美浜町都市計画マスタープラン	平成 23 年 9 月 （期間：平成 23 年度～令和 12 年度）
	美浜町立地適正化計画	平成 31 年 3 月 （令和 22 年度目標）
	美浜町観光振興計画	令和 4 年 3 月改定 （期間：平成 26 年度～令和 8 年度）
	第 2 期美浜創生総合戦略	令和 3 年 3 月 （期間：令和 3 年度～令和 7 年度）
	美浜町地域づくり拠点化整備基本計画	平成 30 年 3 月
	JR 美浜駅前広場等活用基本計画	令和 2 年 8 月
	第 3 次美浜町地域福祉計画	令和 5 年 3 月 （期間：令和 5 年度～令和 9 年度）
	第二次美浜町環境基本計画	令和 5 年 3 月改定 （期間：平成 29 年度～令和 9 年度）
	美浜町地域公共交通計画	令和 5 年 2 月 （期間：令和 5 年度～令和 9 年度）
若狭町	第 2 次若狭町総合計画（中期基本計画）	令和 5 年 3 月 （期間：令和 5 年度～令和 9 年度）
	第 3 次若狭町観光振興ビジョン	令和 3 年 3 月 （期間：令和 3 年度～令和 7 年度）
	第 3 期若狭町総合戦略	令和 7 年 3 月策定予定
	若狭町過疎地域持続的発展計画	令和 4 年 6 月 （期間：令和 4 年度～令和 7 年度）
	若狭町高齢者福祉計画	令和 3 年 3 月 （期間：令和 3 年度～令和 7 年度）
	若狭町地域公共交通計画	令和 6 年 3 月 （期間：令和 6 年度～令和 10 年度）

	計画等の名称	策定年月 （下段：計画期間または目標年次）
小浜市	第６次小浜市総合計画	令和３年３月 （期間：令和３年度～令和 12 年度）
	小浜市都市計画マスタープラン	平成 24 年４月 （令和 12 年度目標）
	小浜市立地適正化計画	平成 30 年３月 （令和 10 年度目標）
	まち・ひと・しごと創生 第２期小浜市総合戦略	令和３年３月 （期間：令和３年度～令和７年度）
	北陸新幹線全線開業を活かした 小浜市新まちづくり構想	令和２年６月
	御食国若狭おばま観光戦略	令和４年７月 （令和８年度目標）
	第４期小浜市地域福祉計画	令和４年３月 （期間：令和４年度～令和８年度）
	小浜市環境基本計画	令和４年３月 （期間：令和４年度～令和 13 年度）
	小浜市地域公共交通計画	令和４年６月 （期間：令和４年度～令和８年度）
おおい町	第２次おおい町総合計画	平成 29 年３月 （期間：平成 29 年度～令和８年度）
	第３次おおい町未来創生戦略	令和７年３月策定予定
	第４次おおい町地域福祉計画	令和４年３月 （期間：令和４年度～令和８年度）
	第２次おおい町環境基本計画	令和２年３月 （期間：令和２年度～令和 11 年度）
高浜町	高浜町総合計画　前期実施計画	令和３年３月 （期間：令和３年度～令和７年度）
	高浜町都市計画マスタープラン	平成 24 年３月 （令和 13 年度目標）
	高浜町立地適正化計画	平成 31 年３月 （令和 22 年目標）
	第２次高浜町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略	令和３年３月 （期間：令和３年度～令和７年度）